

平成21(2009)年度

鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

2010

鳥取市教育委員会

序

この報告書は、開発事業に伴い、国庫補助金及び県補助金を受けて、平成20年度及び平成21年度に実施した鳥取市内遺跡の試掘調査の記録です。

鳥取市は平成16年11月に周辺8町村と合併し、人口約20万人を擁する山陰地方最大の都市になりました。鳥取市内の平野部をはじめ、丘陵上には数多くの遺跡が存在しています。これらの文化財は地域の先人たちの生活を語る歴史資料であり、後世に継承していかなければならない市民の貴重な財産です。

近年は、社会の進展に伴って、各種開発事業が計画・実施され、さらに増加する傾向にあります。文化財保護を推し進めている私共といたしましては、こうした開発と文化財の共存を図るべく関係諸機関と協議を重ね、円滑に文化財行政を進めているところです。

この調査にあたっては、鳥取県教育委員会事務局文化財課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ、関係各位の格別なご指導・ご協力を仰ぎながら、土地所有者や作業員の方々の熱意により、ようやく調査を終了することができました。ここに深く感謝を申し上げる次第であります。

なお、この報告書は不十分なところも多くありますが、私たちの郷土の理解に役立てていただくと共に、今後の調査研究の一助となれば幸いです。

平成22年3月

鳥取市教育委員会
教育長 中川俊隆

例　　言

1. 本書は平成20年度及び平成21年度に国・県補助金を得て、鳥取市教育委員会が実施した発掘調査の記録である。
2. 平成20年度に実施した調査は大柄遺跡、東桂見遺跡、桂見櫻ヶ坪古墳群、桂見古墳群、高住中瀬所在遺跡、本高下ノ谷遺跡、本高古墳群である。
3. 平成21年度に実施した調査は善田傍示ヶ崎遺跡、別府釜谷口所在遺跡、用瀬権内屋敷遺跡、和奈見遺跡、因幡国府、雁金山城跡、岩吉遺跡、天神山遺跡、古海古墳群、山ヶ鼻所在遺跡、宮谷古墳群、大柄遺跡、桂見櫻ヶ坪古墳群、高住中瀬所在遺跡、良田山廻古墳群、良田平田所在遺跡、松原古墳群である。
4. 本書における遺構図はすべて磁北を示し、レベルは基本的に海拔標高である。
5. 発掘調査によって作成された記録類及び出土遺物は鳥取市教育委員会に保管されている。
6. 発掘調査の体制は以下のとおりである。

調査主体　鳥取市教育委員会

事務局　鳥取市教育委員会事務局文化財課

調査担当　加川 崇 前田 均 谷口恭子

7. 発掘調査から本書の作成にあたっては、多くの方々からご指導・ご助言並びにご協力をいただいた。明記して深謝いたします。(敬称略、順不同)

錦織 勤 中森 祥 湯村 功 鳥取県埋蔵文化財センター　鳥取県教育委員会事務局文化財課

本文目次

序

例言

第1章 発掘調査の経緯と経過	1
第2章 調査の結果	3
第1節 善田傍示ヶ崎遺跡	3
第2節 別府並谷口所在遺跡	6
第3節 川瀬椎内屏敷遺跡	8
第4節 和奈見塗口所在遺跡	9
第5節 因幡國府	11
第6節 雁金山城跡	13
第7節 岩吉遺跡	15
第8節 天神山遺跡	18
第9節 本高下ノ谷遺跡	22
第10節 本高古墳群	25
第11節 古海古墳群	27
第12節 山ヶ鼻所在遺跡	30
第13節 宮谷古墳群	32
第14節 大柄遺跡	36
第15節 東柱見遺跡	45
第16節 桂見櫻ヶ坪古墳群	48
第17節 桂見古墳群	54
第18節 高住中瀬所在遺跡	57
第19節 良田山邊古墳群	71
第20節 良田平田所在遺跡	73
第21節 松原古墳群	80

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	調査遺跡位置図	2
第2図	善田傍示ヶ崎遺跡 調査トレンチ位置図	3
第3図	善田傍示ヶ崎遺跡 第3・第4トレンチ実測図	4
第4図	善田傍示ヶ崎遺跡 第5トレンチ実測図	5
第5図	善田傍示ヶ崎遺跡 第3・第5トレンチ出土遺物実測図	6
第6図	別府釜谷口所在遺跡 調査トレンチ位置図	7
第7図	別府釜谷口所在遺跡 第1トレンチ実測図	7
第8図	用瀬椎内屋敷遺跡 調査トレンチ位置図	8
第9図	用瀬椎内屋敷遺跡 第1・第2トレンチ実測図	9
第10図	和奈見溢口所在遺跡 調査トレンチ位置図	10
第11図	和奈見溢口所在遺跡 第1・第2トレンチ実測図	10
第12図	因幡国府 調査トレンチ位置図	11
第13図	因幡国府 第1トレンチ実測図	12
第14図	因幡国府 第1トレンチ出土遺物実測図	13
第15図	雁金山城跡 調査トレンチ位置図	14
第16図	雁金山城跡 第1トレンチ実測図	14
第17図	岩吉遺跡 調査トレンチ位置図	15
第18図	岩吉遺跡 第1トレンチ出土遺物実測図	16
第19図	岩吉遺跡 第1・第2トレンチ実測図	17
第20図	天神山遺跡 調査トレンチ位置図	18
第21図	天神山遺跡 第3トレンチ実測図	18
第22図	天神山遺跡 第4トレンチ実測図	19・20
第23図	天神山遺跡 第4トレンチ出土遺物実測図	21
第24図	本高下ノ谷遺跡 調査トレンチ位置図	22
第25図	本高下ノ谷遺跡 第1・第2トレンチ実測図	23
第26図	本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ出土遺物実測図	24
第27図	本古墳群 調査トレンチ位置図	25
第28図	本古墳群 第1・第2・第3・第4・第5・第6トレンチ実測図	26
第29図	古海古墳群 調査トレンチ位置図	28
第30図	古海古墳群 第2トレンチ出土遺物実測図	28
第31図	古海古墳群 第1・第2・第3・第4トレンチ実測図	29
第32図	山ヶ鼻所在遺跡 調査トレンチ位置図	30
第33図	山ヶ鼻所在遺跡 第1・第2トレンチ実測図	31
第34図	山ヶ鼻所在遺跡 第2トレンチ出土遺物実測図	31
第35図	宮谷古墳群 調査トレンチ位置図	32
第36図	宮谷古墳群 第6・第7・第8・第9・第10トレンチ実測図	33
第37図	宮谷古墳群 第11・第12・第13トレンチ実測図	34
第38図	宮谷古墳群 第12トレンチ出土遺物実測図	35
第39図	大柄遺跡 調査トレンチ位置図	37
第40図	大柄遺跡 第1・第2・第3トレンチ実測図	38
第41図	大柄遺跡 第4・第5・第6トレンチ実測図	39
第42図	大柄遺跡 第7・第8・第9トレンチ実測図	40
第43図	大柄遺跡 第10・第11・第12トレンチ実測図	43
第44図	大柄遺跡 第13・第14トレンチ実測図	44
第45図	東桂見遺跡 調査トレンチ位置図	45
第46図	東桂見遺跡 第1・第2トレンチ実測図	46

第47図	東桂見遺跡 第3トレンチ実測図	47
第48図	東桂見遺跡 第1・第2・第3トレンチ出土遺物実測図	48
第49図	柱見板ヶ塙古墳群 調査トレンチ位置図	49
第50図	柱見板ヶ塙古墳群 第1・第2・第3・第4トレンチ実測図	50
第51図	柱見板ヶ塙古墳群 第5・第6・第7・第8・第9トレンチ実測図	51
第52図	柱見板ヶ塙古墳群 第7トレンチ出土遺物実測図	52
第53図	柱見板ヶ塙古墳群 第10・第11・第12トレンチ実測図	53
第54図	柱見古墳群 調査トレンチ位置図	54
第55図	柱見古墳群 第1・第2・第3トレンチ実測図	55
第56図	柱見古墳群 第4・第5トレンチ実測図	57
第57図	高住中瀬所在遺跡 調査トレンチ位置図	58
第58図	高住中瀬所在遺跡 第1・第2トレンチ実測図	59
第59図	高住中瀬所在遺跡 第3・第4トレンチ実測図	60
第60図	高住中瀬所在遺跡 第5・第6トレンチ実測図	61
第61図	高住中瀬所在遺跡 第7・第8トレンチ実測図	63
第62図	高住中瀬所在遺跡 第9・第10トレンチ実測図	64
第63図	高住中瀬所在遺跡 第11・第12トレンチ実測図	66
第64図	高住中瀬所在遺跡 第13・第14トレンチ実測図	67
第65図	高住中瀬所在遺跡 第15・第16トレンチ実測図	69
第66図	高住中瀬所在遺跡 第1・第2・第7・第8・第10・第14・第16トレンチ出土遺物実測図	70
第67図	良田山越古墳群 調査トレンチ位置図	71
第68図	良田山越古墳群 第1・第2・第3・第4トレンチ実測図	72
第69図	良田平田所在遺跡 調査トレンチ位置図	74
第70図	良田平田所在遺跡 第1・第2トレンチ実測図	75
第71図	良田平田所在遺跡 第3・第4トレンチ実測図	76
第72図	良田平田所在遺跡 第5トレンチ実測図	77
第73図	良田平田所在遺跡 第1・第2・第3・第5トレンチ出土遺物実測図	78
第74図	松原古墳群 調査トレンチ位置図	80
第75図	松原古墳群 第13・第14・第15・第16トレンチ実測図	81
第76図	松原古墳群 第17・第18・第19・第20トレンチ実測図	82
第77図	松原古墳群 第19トレンチ出土遺物実測図	83

図版目次

図版1

- 善田傍示ヶ崎遺跡 調査地遠景(北東から)
 善田傍示ヶ崎遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(北西から)
 善田傍示ヶ崎遺跡 第3トレンチ南東壁断面(西から)
 善田傍示ヶ崎遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(西から)
 善田傍示ヶ崎遺跡 第4トレンチ南壁断面(西から)
 善田傍示ヶ崎遺跡 第5トレンチ掘下げ状況(南西から)
 善田傍示ヶ崎遺跡 第5トレンチ北東壁断面(南から)
 別府釜谷L1所在遺跡 遠景(南西から)

図版2

- 別府釜谷口所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(北から)
 用瀬椎内屋敷遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(北東から)
 用瀬椎内屋敷遺跡 ピット検出状況(南東から)
 用瀬椎内屋敷遺跡 第1トレンチ遺物出土状況(北西から)

- 用瀬椎内屋敷遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(南から)
 和奈見證口所在遺跡 調査地遠景(東から)
 和奈見證口所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(北西から)
 和奈見證口所在遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(北東から)

図版3

- 因幡国府 調査地遠景(南から)
 因幡国府 第1トレンチピット検出状況(東から)
 因幡国府 第1トレンチ掘下げ状況(北から)
 因幡国府 第1トレンチ東壁断面(西から)
 因幡国府 第1トレンチ北壁断面(南東から)
 因幡国府 第1トレンチP-11柱根残存状況(南から)
 因幡国府 第1トレンチP-23柱根残存状況(北西から)
 因幡国府 第1トレンチP-30断面(南東から)

図版4

- 雁金山城跡 遠景(北東から)
雁金山城跡 第1トレンチ掘下げ状況(北西から)
岩吉遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(東から)
岩吉遺跡 第1トレンチ東壁断面(西から)
岩吉遺跡 第1トレンチSK-01断面(北から)
岩吉遺跡 第1トレンチSK-01断面(南から)
岩吉遺跡 第2トレンチ調査地遠景(南東から)
岩吉遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(北から)

図版5

- 天神山遺跡 第3トレンチ調査地遠景(北西から)
天神山遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(東から)
天神山遺跡 第3トレンチ西壁断面(東から)
天神山遺跡 第4トレンチ調査地遠景(南東から)
天神山遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(西から)
天神山遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(東から)
天神山遺跡 第4トレンチ南壁断面(北西から)
天神山遺跡 第4トレンチ西壁断面(東から)

図版6

- 天神山遺跡 第4トレンチSK-01断面(北から)
天神山遺跡 第4トレンチSD-01検出状況(南から)
天神山遺跡 第4トレンチSD-04断面(東から)
天神山遺跡 第4トレンチSD-04遺物出土状況(南西から)
本高下ノ谷遺跡 遠景(南東から)
本高下ノ谷遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南から)
本高下ノ谷遺跡 第1トレンチ北壁断面(南から)
本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(北西から)

図版7

- 本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ南西壁断面(北東から)
本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ遺物出土状況(南東から)
本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ遺物出土状況(北東から)
本高占墳群 遠景(南東から)
本高古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(南西から)
本高古墳群 第2トレンチ掘下げ状況(北西から)
本高古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(南西から)
本高古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(西から)

図版8

- 本高古墳群 第5トレンチ掘下げ状況(東から)
本高古墳群 第6トレンチ掘下げ状況(北西から)
古海古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(南西から)
古海古墳群 第1トレンチ周溝部断面(北西から)
古海古墳群 第2トレンチ掘下げ状況(南西から)
古海古墳群 第2トレンチ北西壁断面(東から)
古海古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(東から)
古海古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(南から)

図版9

- 山ヶ鼻所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南東から)
山ヶ鼻所在遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(北から)

山ヶ鼻所在遺跡 第2トレンチ南西壁断面(南から)

- 宮谷古墳群 第6トレンチ掘下げ状況(南東から)
宮谷古墳群 第6トレンチ周溝部断面(北東から)
宮谷古墳群 第7トレンチ掘下げ状況(西から)
宮谷古墳群 第8トレンチ掘下げ状況(西から)
宮谷古墳群 第8トレンチ北西壁断面(南東から)

図版10

- 宮谷古墳群 第9トレンチ掘下げ状況(北東から)
宮谷古墳群 第10トレンチ掘下げ状況(西から)
宮谷古墳群 第10トレンチ周溝部断面(南東から)
宮谷古墳群 第11トレンチ掘下げ状況(南東から)
宮谷古墳群 第11トレンチ周溝部断面(北から)
宮谷古墳群 第12トレンチ掘下げ状況(南東から)
宮谷古墳群 第12トレンチ西壁断面(東から)
宮谷古墳群 第13トレンチ掘下げ状況(南東から)

図版11

- 大柄遺跡 遠景(南から)
大柄遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南東から)
大柄遺跡 第1トレンチ北壁断面(南から)
大柄遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(南東から)
大柄遺跡 第2トレンチ北壁断面(南から)
大柄遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(北西から)
大柄遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(北西から)
大柄遺跡 第4トレンチ北西壁断面(南東から)

図版12

- 大柄遺跡 第5トレンチ掘下げ状況(南東から)
大柄遺跡 第5トレンチ北東壁断面(西から)
大柄遺跡 第6トレンチ掘下げ状況(北西から)
大柄遺跡 第6トレンチ南西壁断面(北から)
大柄遺跡 第7トレンチ掘下げ状況(北西から)
大柄遺跡 第7トレンチ北東壁断面(西から)
大柄遺跡 第8トレンチ掘下げ状況(北東から)
大柄遺跡 第9トレンチ掘下げ状況(南西から)

図版13

- 大柄遺跡 第9トレンチ東壁断面(南西から)
大柄遺跡 第10トレンチ掘下げ状況(北東から)
大柄遺跡 第10トレンチ南壁断面(北東から)
大柄遺跡 第11トレンチ掘下げ状況(南西から)
大柄遺跡 第11トレンチ東壁断面(西から)
大柄遺跡 第11トレンチSD-01断面(北西から)
大柄遺跡 第11トレンチSD-01検出状況(北東から)
大柄遺跡 第12トレンチ掘下げ状況(北東から)

図版14

- 大柄遺跡 第12トレンチ北東壁断面(南西から)
大柄遺跡 第13トレンチ掘下げ状況(北東から)
大柄遺跡 第13トレンチ北西壁断面(北東から)
大柄遺跡 第13トレンチ北東壁断面(南西から)
大柄遺跡 第14トレンチ掘下げ状況(西から)

- 大橋遺跡 第14トレンチ南東壁断面(南から)
 東桂見遺跡 第2、3トレンチ調査地遺景(西から)
 東桂見遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南東から)
- 図版15
 東桂見遺跡 第1トレンチ北西壁断面(南東から)
 東桂見遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(南西から)
 東桂見遺跡 第2トレンチ北壁断面(南から)
 東桂見遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(南西から)
 東桂見遺跡 第3トレンチ北東壁断面(南西から)
 桂見復ヶ坪古墳群 遺景(東から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(南西から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第2トレンチ掘下げ状況(南東から)
- 図版16
 桂見復ヶ坪古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(南西から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(北から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第5トレンチ掘下げ状況(南から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第6トレンチ掘下げ状況(南東から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第7トレンチ掘下げ状況(東から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第8トレンチ掘下げ状況(北西から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第9トレンチ掘下げ状況(南東から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第10トレンチ掘下げ状況(北西から)
- 図版17
 桂見復ヶ坪古墳群 第11トレンチ掘下げ状況(南西から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第12トレンチ掘下げ状況(東から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第12トレンチ南壁断面(北西から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第12トレンチ北西壁断面(東から)
 桂見復ヶ坪古墳群 第12トレンチ段状構造検出状況(北西から)
 桂見古墳群 調査地遺景(南から)
 桂見古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(北西から)
 桂見古墳群 第2トレンチ段状構造検出状況(北西から)
- 図版18
 桂見古墳群 第2トレンチ段状構造検出状況(南西から)
 桂見古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(西から)
 桂見古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(西から)
 桂見古墳群 第5トレンチ掘下げ状況(北東から)
 高住中瀬所在遺跡 調査地遺景(南西から)
 高住中瀬所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南東から)
 高住中瀬所在遺跡 第1トレンチSD-01検出状況(北東から)
 高住中瀬所在遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(南東から)
- 図版19
 高住中瀬所在遺跡 第2トレンチ北東壁断面(西から)
 高住中瀬所在遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(南東から)
 高住中瀬所在遺跡 第3トレンチ南西壁断面(東から)
 高住中瀬所在遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(北西から)
 高住中瀬所在遺跡 第4トレンチ北東壁断面(西から)
 高住中瀬所在遺跡 第5トレンチ掘下げ状況(南東から)
 高住中瀬所在遺跡 第5トレンチ北西壁断面(南東から)

- 図版20
 高住中瀬所在遺跡 第6トレンチ掘下げ状況(東から)
 高住中瀬所在遺跡 第6トレンチ西壁断面(東から)
 高住中瀬所在遺跡 第7トレンチ掘下げ状況(北西から)
 高住中瀬所在遺跡 第7トレンチ南西壁断面(北から)
 高住中瀬所在遺跡 第8トレンチ掘下げ状況(南東から)
 高住中瀬所在遺跡 第8トレンチ南西壁断面(北から)
 高住中瀬所在遺跡 第9トレンチ掘下げ状況(南東から)
 高住中瀬所在遺跡 第9トレンチ北西壁断面(南東から)
- 図版21
 高住中瀬所在遺跡 第10トレンチ掘下げ状況(南から)
 高住中瀬所在遺跡 第10トレンチ南壁断面(北から)
 高住中瀬所在遺跡 第11トレンチ掘下げ状況(北東から)
 高住中瀬所在遺跡 第11トレンチ南西壁断面(北東から)
 高住中瀬所在遺跡 第12トレンチ掘下げ状況(北東から)
 高住中瀬所在遺跡 第12トレンチ北西壁断面(南から)
 高住中瀬所在遺跡 第12トレンチP-02検出状況(南西から)
 高住中瀬所在遺跡 第13トレンチ掘下げ状況(北東から)
- 図版22
 高住中瀬所在遺跡 第13トレンチ南東壁断面(北から)
 高住中瀬所在遺跡 第14トレンチ掘下げ状況(北西から)
 高住中瀬所在遺跡 第14トレンチ北東壁断面(西から)
 高住中瀬所在遺跡 第14トレンチ南東壁断面(北西から)
 高住中瀬所在遺跡 第14トレンチSK-01検出状況(南西から)
 高住中瀬所在遺跡 第14トレンチSD-01検出状況(南東から)
 高住中瀬所在遺跡 第14トレンチ遺物出土状況(北東から)
 高住中瀬所在遺跡 第15トレンチ掘下げ状況(南西から)
- 図版23
 高住中瀬所在遺跡 第15トレンチ南西壁断面(北東から)
 高住中瀬所在遺跡 第15トレンチP-01、02検出状況
 (南東から)
- 高住中瀬所在遺跡 第16トレンチ掘下げ状況(南東から)
 高住中瀬所在遺跡 第16トレンチ北東壁断面(西から)
 高住中瀬所在遺跡 第16トレンチ遺物出土状況(北西から)
 良田平田所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(北から)
 良田平田所在遺跡 第1トレンチSD-02検出状況(北西から)
 良田平田所在遺跡 第1トレンチ西壁断面(南東から)
- 図版24
 良田平田所在遺跡 第1トレンチ南壁断面(北から)
 良田平田所在遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(東から)
 良川平田所在遺跡 第2トレンチ遺物出土状況(東から)
 良田平田所在遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(西から)
 良田平田所在遺跡 第3トレンチ北壁断面(南東から)
 良川平田所在遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(西から)
 良田平田所在遺跡 第4トレンチ北壁断面(南西から)
 良田平田所在遺跡 第5トレンチ掘下げ状況(東から)
- 図版25
 良田平田所在遺跡 第5トレンチ北壁断面(南東から)

良田平田所在遺跡 第5トレンチSD-01検出状況(西から)
良田山廻古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(北西から)
良田山廻古墳群 第2トレンチ掘下げ状況(南から)
良田山廻古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(東から)
良田山廻古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(西から)
松原古墳群 第13トレンチ掘下げ状況(西から)
松原古墳群 第14トレンチ掘下げ状況(北東から)
図版26
松原古墳群 第15トレンチ掘下げ状況(南から)
松原古墳群 第16トレンチ掘下げ状況(東から)
松原古墳群 第17トレンチ掘下げ状況(南西から)
松原古墳群 第17トレンチ南壁断面(南西から)
松原古墳群 第18トレンチ掘下げ状況(北西から)

松原古墳群 第19トレンチ掘下げ状況(南西から)
松原古墳群 第20トレンチ掘下げ状況(北から)
松原古墳群 第20トレンチ周辺部断面(東から)
図版27
普田傍示ヶ崎遺跡 第3トレンチ出土遺物
因幡国市 第1トレンチ出土遺物
天神山遺跡 第4トレンチ出土遺物
本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ出土遺物
柱見桙ヶ坪古墳群 第7トレンチ出土遺物
図版28
高住中瀬所在遺跡 第2、7、8、10、14トレンチ
出土遺物
良田平田所在遺跡 第1、2トレンチ出土遺物

第1章 発掘調査の経緯と経過

鳥取市は、平成16(2004)年に行われた周辺8町村との合併により、面積765.66km²、人口20万人余りを擁する都市となり、合併による市域の拡大とともに遺跡数も増し、4,600箇所以上の遺跡が確認されている。近年は、山陰自動車道の建設や、それに伴う道路整備等により開発計画との調整が必要となる遺跡も数多くあり、試掘調査件数の増加とともに新たな遺跡の存在が明らかになってきている。

今回の調査報告は、山陰自動車道(鳥取西道路)整備に伴って実施した、本高下ノ谷遺跡、本高古墳群、宮谷古墳群、大柄遺跡、東桂見遺跡、桂見復ヶ坪古墳群、桂見古墳群、高住中瀬所在遺跡、良田山廻古墳群、良田平田所在遺跡、松原古墳群を主に、河川改修に係る善田傍示ヶ崎遺跡、砂防関連の用渦樋内屋敷遺跡、和奈見證口所在遺跡、基地局整備に伴う因幡国府、雁金山城跡、岩吉遺跡、道路整備関連の別府釜谷口所在遺跡、宅地開発に伴う天神山遺跡、岩吉遺跡、水利施設整備に係る山ヶ鼻遺跡、古海古墳群など21遺跡である。

発掘調査はトレーンチ掘削による遺構・遺物の包含状況の確認に主眼をおいて実施した。表土掘削は1部(天神山遺跡Tr-4、高住中瀬遺跡Tr-1~13、本高下ノ谷遺跡、大柄遺跡Tr-11~14)重機を用いて実施したが、他は人力で行い、表土以下の掘削は層ごとの遺構確認と包含遺物の把握を行いながら掘り下げを行った。整理作業は、各遺跡の調査終了後に行い、報告書作成は平成21年12月から平成22年2月に実施した。本報告の調査総面積は1667.5m²である。各調査遺跡のトレーンチ(Tr)数、調査面積、現地調査期間は次のとおりである。

遺跡名	Tr数	調査面積	現地調査期間
1 善田傍示ヶ崎遺跡	3	67.5	20090408~0427
2 別府釜谷口所在遺跡	1	12.0	20090604~0605
3 用渦樋内屋敷遺跡	2	21.4	20091009~1013
4 和奈見證口所在遺跡	2	24.0	20091119~1120
5 因幡国府	1	20.0	20090430~0512
6 雁金山城跡	1	23.8	20090514
7 岩吉遺跡	2	59.8	20090615~0617, 20090622~0625
8 天神山遺跡	2	153.0	20091015~1104
9 本高下ノ谷遺跡	2	28.6	20081111~1121
10 本高古墳群	6	32.1	20081120~1126
11 古海古墳群	4	27.6	20091106~1111
12 山ヶ鼻所在遺跡	2	16.5	20091111~1116
13 宮谷古墳群	8	45.5	20090901~0907, 20091001~1005
14 大柄遺跡	14	284.5	20080520~0523, 20080627~0709, 20081002~1003, 20090925~1006, 20091126~20091207
15 東桂見遺跡	3	67.4	20080604~0613
16 桂見復ヶ坪古墳群	12	151.3	20080606~0618, 20090611~0619, 20090702~0714
17 桂見古墳群	5	55.1	20080606~0618
18 高住中瀬所在遺跡	16	391.6	20081203~1206, 20090304~0319, 20090407~0423
19 良田山廻古墳群	4	33.4	20090527~0602
20 良田平田所在遺跡	5	105.0	20090518~0609
21 松原古墳群	8	47.4	20090911~0918

第1図 調査済跡位置図



第2章 調査の結果

第1節 善田傍示ヶ崎遺跡

善田傍示ヶ崎遺跡は、JR青谷駅より南東約1kmの下善田集落の北側に所在し、日置川と露谷川に囲まれた標高1m前後の水田域に展開する。北西側には青谷上寺地遺跡が広がり、奈良期の木製祭祀具の出土が確認されている。同様に、多量の木製祭祀具が出土した大坪イカウ松遺跡が南東1.6kmに所在する。この他周辺丘陵には善田古墳群、露谷古墳群、奥崎古墳群などが分布する。善田傍示ヶ崎遺跡ではこれまでに平成15、16、19年度に計7箇所の試掘調査が行われており、平成15、16年度調査の第1、5トレンチでは木器溜りから、人形、馬形、斎車などの多くの木製祭祀具が出土している。

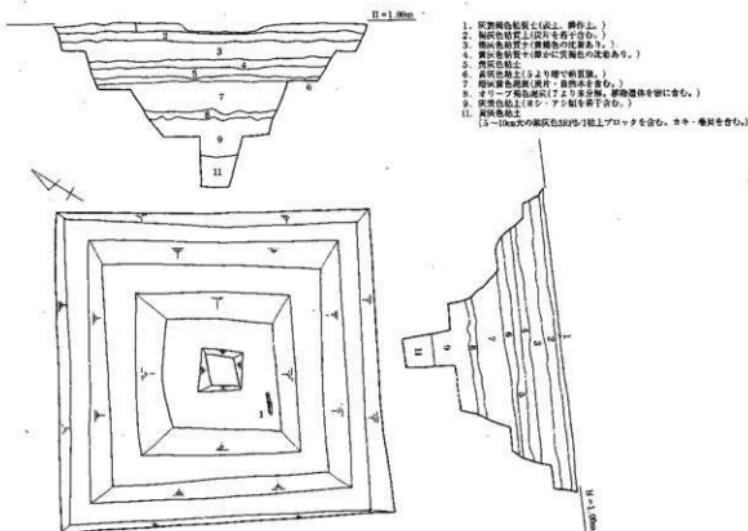
今回の調査は、平成19年度調査の第1、2トレンチに続き日置川支流の露谷川改修工事に伴い実施したものである。対象地の露谷川右岸に第3、4トレンチを、左岸に第5トレンチをそれぞれ設定した。

第3トレンチ(Tr-3) [第2・3・5図 図版1・27]

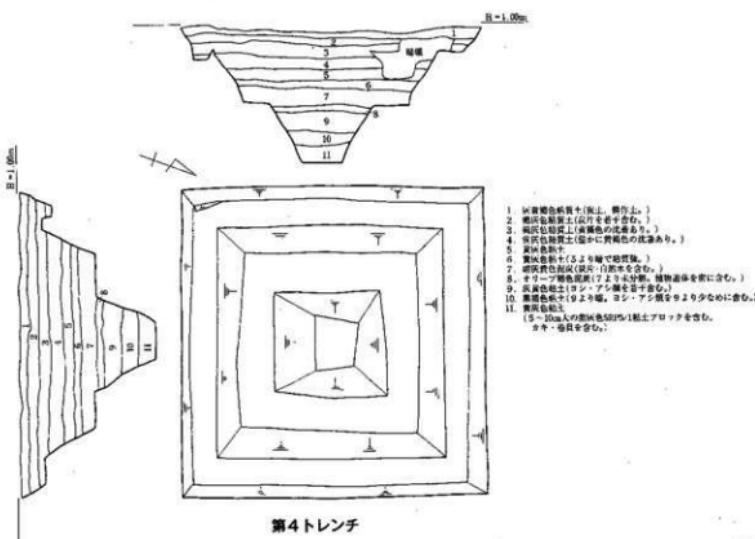
露谷川の右岸に設定した5.0×5.0mのトレンチである。地表面の標高は1.0mを測る。地表下2.6mの標高-1.66mまで掘り下げを行った。第4層までは黄褐色の沈着が認められ陶磁器細片を含む。第5、6層は上層よりやや粘質で比較的安定した層である。標高0m付近の第7層から第8層までの約60cm弱が泥炭層で、第8層は第7層より未分解で植物遺体を密に含む。以下第9層ヨシ・アシ類を含む灰黄色粘土、第11層カキ・巻貝を含む黄灰色粘土と続く。第9層上面の標高-0.61mからぼぞ穴のある木製品(第5図1)が出土している。長さ37.9cm、径5cmの芯持材で両端に向かって幅を細め、中央に3.7×1.7cmの長方形ぼぞ穴を穿つ。全体に加工痕が明瞭である。



第2図 善田傍示ヶ崎遺跡 調査トレンチ位置図

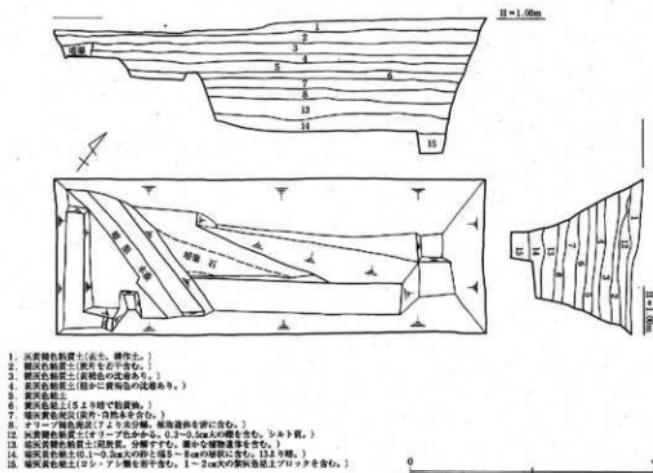


第3トレンチ



第4トレンチ

第3図 善田傍示ヶ崎遺跡 第3・第4トレンチ実測図



第4図 善田傍示ヶ崎遺跡 第5トレンチ実測図

第4トレンチ(Tr-4) [第2・3図 図版1]

露谷川の右岸に設定した $5.0 \times 5.0\text{m}$ のトレンチである。地表面の標高は 1.0m を測る。地表下 2.3m の標高 -1.31m まで掘り下げを行った。安定した第5、6層や第7、8層の厚さ 40cm を測る泥炭層、巻貝を含む第11層など第3トレンチ同様の堆積状況を示したが、第9層と第11層間に第10層黒褐色粘土が認められた。第10層は泥炭質かかり第9層よりヨシ・アシ類の含みが少ない。遺物は第2層で板片および陶磁器細片、泥炭層下の標高 -0.45m 前後の第9層上面で板状木製品2点が出土している。

第5トレンチ(Tr-5) [第2・4・5図 図版1]

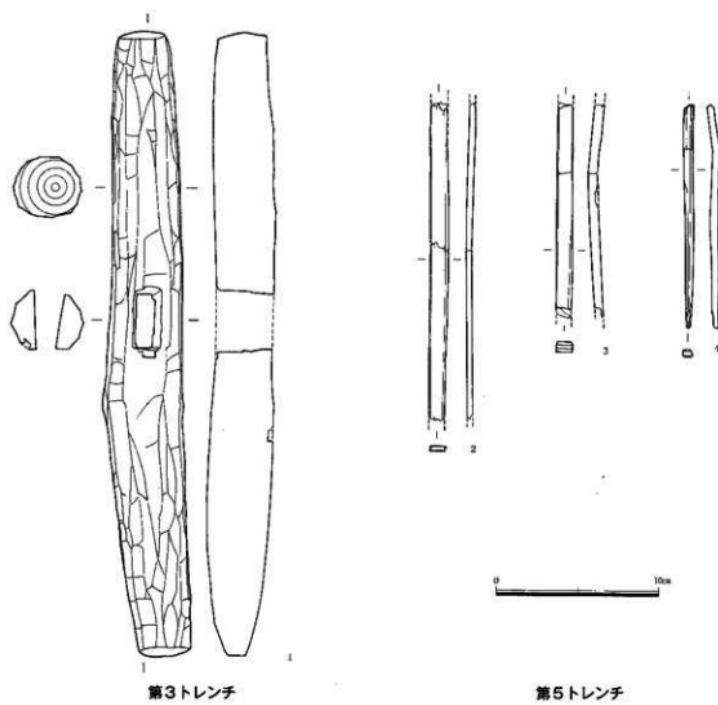
露谷川の左岸に設定した $2.5 \times 7.0\text{m}$ のトレンチである。地表面の標高は 1.0m を測る。地表下 2.2m の標高 -1.20m まで掘り下げを行った。安定した第5、6層や第7、8層泥炭層の状況など第3、4トレンチとはほぼ同様な堆積状況であるが、第3層辺りから下位では堆積自体に南東方向への緩やかな下りの傾斜が認められ、泥炭層下の状況がやや異なる。以下、泥炭質で細かな植物遺体を含む第13層暗灰黃褐色粘土質、砂を層状に含む第14層暗灰黃色粘土、ヨシ・アシ類を含む第15層暗灰黃色粘土である。第15層中には貝類は確認されなかった。遺物は第6層上面で陶磁器細片1点が出土した他、第7・8層で8点、第13層で9点、第14層の砂中から1点と、棒・板状の簀串状木製品が出土している。このうち第7・8層出土(第5図4)、第13層出土(第5図2・3)を図化した。(第5図2・3)は両端を欠損し、幅 1cm 弱、厚さ $0.4\sim 0.6\text{cm}$ の板状、(第5図4)は先端尖頭で側面は面取りされ棒状である。

小結

善田傍示ヶ崎遺跡は、平成15、16、19年度と試掘調査が行われ、平成15、16年度第1、5トレンチでは大量の奈良期の木製祭祀具が出土しており、露谷川流域の第5トレンチ周辺丘陵部で祭祀が行われ、下流の第1トレンチ付近に祭祀具が漂着したと考えられている。

今回の調査は平成19年度に続き河川改修に伴い実施したものである。いずれのトレンチも泥炭層から上層はわずかな陶磁器細片を含むなど同様の堆積状況を示し、遺構は検出されなかった。第3トレンチで標高 -1.15m 、第4トレンチで標高 -1.0m でカキ・巻貝を含む層を確認、第5トレンチではそれに対

応する層は確認できなかった。今回第5トレンチでは、標高0m～-0.9m間で斎串とみられる木製品が10数点あまり出土しており、平成15年度第1トレンチの40m南に位置することから祭祀具を大量に含む本流の縁辺にあたると考えられる。第3、4トレンチについてはさらにその外縁にあたると考えられるが、平成16年度第2、4トレンチで人形や馬形などの祭祀具が少なからず出土していることから、他に副流的な流れが水田域の中に存在した可能性も考えられる。



第5図 善田傍示ヶ崎遺跡 第3・第5トレンチ出土遺物実測図

第2節 別府釜谷口所在遺跡

別府釜谷口所在遺跡は用瀬町別府集落の西端に位置し、佐治川左岸に張り出した丘陵裾部に立地している。別府集落後背の山麓には別府小谷所在遺跡、別府小谷遺物出土地、別府樟ノ元山添遺跡などが知られ、1.5kmあまり下った佐治川下流の左岸には用瀬中学校遺跡(別府遺跡)が所在している。また、上流部に位置する佐治町葛谷、刈地、古市、大井地内には古墳時代～歴史時代を中心とした遺跡が確認されており、佐治川下流域に開けた平野の縁辺に多くの遺跡が展開している様子がうかがわれる。

今回の調査は国道482号線の整備計画に伴うもので、事業計画地内1箇所にトレンチを設定し確認調査を行った。



第6図 別府釜谷口所在遺跡 調査トレンチ位置図

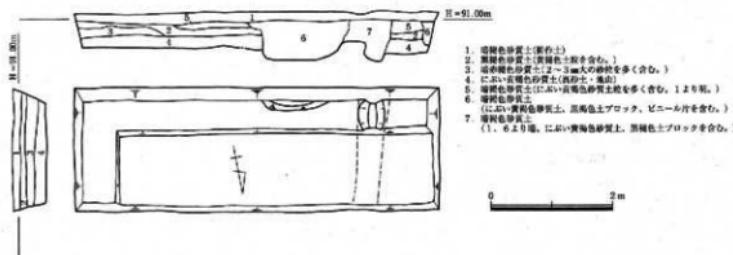
第1トレンチ(Tr-1) [第6・7図 図版1・2]

2.0m×6.0mのトレンチである。現況は果樹園として耕作されており、耕作土下で肥料穴や、肥料溝が認められる。肥料穴の埋土にはビニール片などが含まれる。地山は地表下40cm前後で確認されたにぶい黄褐色砂質土(第4層)とみられ、硬く締まっている。地山上層に堆積する第2、5層には地山の砂粒が多く含まれており、耕作に伴う改変を受けていることがうかがわれる。

遺構は検出されなかった。遺物は、耕作土中から土師器細片が1点出土した。

小結

今回の調査地は丘陵裾部の南端にあたり、下方には水田部が拓けた立地となっている。調査対象地の北側及び北東側の山麓には別府樟ノ元山派遺跡、別府小谷所在遺跡、別府小谷遺物出土地の存在が明らかになっていることから、その縁辺にも遺跡が展開する可能性が考えられたが、調査の結果、遺跡の存在は確認できなかった。



第7図 別府釜谷口所在遺跡 第1トレンチ実測図

第3節 用瀬権内屋敷遺跡

用瀬権内屋敷遺跡はJR用瀬駅から南東約0.4kmに位置し、景石城が築かれている山頂から西斜面を下った山麓に立地している。北西側眼下には千代川が流れ、その対岸に余井遺跡、余井古墳群、美成遺跡や、やや下った右岸に形成された平野部およびその縁辺部に鷹狩遺跡、鷹狩1~3号墳、馬橋遺跡が分布し、千代川両岸に遺跡が展開している様子がわかる。

今回の調査は、砂防施設の建設計画に伴って実施したもので、事業計画地内に2本の試掘レンチを設定し確認調査を行なった。

第1トレンチ(Tr-1) [第8・9図 図版2]

緩斜面に設定した2.0m×7.2mのトレンチである。地表下20~45cmで認められた黄褐色粘質土(第3層)が地山とみられ、地上層の褐色粘質土(第2層)が遺物包含層である。

遺構は、トレンチ東側でピット3(P-01~03)を検出した。ピットは直径20~37cm、深さ15~30cmあまりを測り、いずれも地山まで掘り込まれている。地山上面での検出となつたが、トレンチ北東壁断面から第2層上面が遺構面とみられる。

遺物は、耕作土中から陶磁器、須恵器、土師器、第2層から須恵器、土師器が破片状態で多数出土した。第2層の遺物はトレンチの南西よりに集中し、時期的には7世紀後半から8世紀の遺物と考えられる。

第2トレンチ(Tr-2) [第8・9図 図版2]

第1トレンチの北側5mの平坦部に設定した1.0m×7.0mのトレンチである。地表下27~52cmで検出した褐色砂質土(第6層)が地山とみられ、地上層の褐色粘質土(第3層)が遺物包含層である。

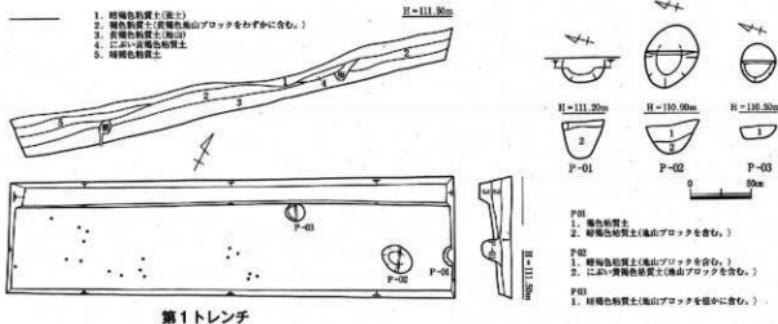


第8図 用瀬権内屋敷遺跡 調査トレンチ位置図

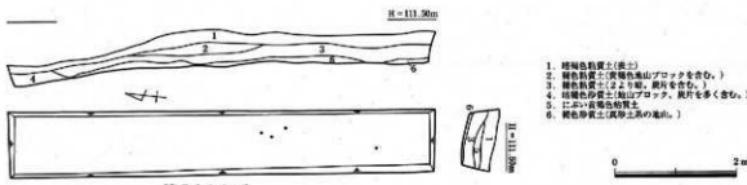
遺構は検出されなかつた。遺物は、耕作土から陶磁器片、須恵器片、第3層から須恵器片、土師器片が出土した。

小結

調査の結果、7世紀~8世紀代の遺跡が存在することが明らかになった。遺跡は、南北の浅い谷に挟まれた台地上に展開するものと思われる。遺跡の現状は主に畑耕作地として利用されているが、周辺には宅地等の造成も見られることから開発にあたっては注意を要する地域といえる。



第1トレンチ



第9図 用瀬権内屋敷遺跡 第1・第2トレンチ実測図

第4節 和奈見遺跡所在遺跡

和奈見遺跡は和奈見集落の北側に位置し、樹形城跡が所在する山頂から東斜面を下った山麓に立地している。東側約0.2kmには千代川が南北に流れ、その両岸に形成された平野部に下中溝遺跡や和奈見遺跡が存在する。和奈見遺跡は、平成5年に行なわれた分布調査および平成6年の発掘調査によって柱穴、土坑のほか古墳の周溝が検出されたことからその存在が明らかになった。同地域内には2基の古墳(和奈見1、2号墳)が築かれていることがわかってきていている。

今回の調査は、砂防施設建設に伴う工事道の整備地内を対象に実施したもので、計画地内に2本の試掘トレンチを設定した。

第1トレンチ(Tr-1) [第10・11図 図版2]

和奈見遺跡が所在する水田部から5mあまり高位の畠地に設定した3.0m×4.0mのトレンチである。厚さ10cm前後の耕作土の下層には流入したものとみられる角礫を含む暗褐色粘質土(第2層)が堆積している。第2層の下位は、基盤層と思われる硬く締まった暗赤褐色粘質土が見られ、岩脈が観察される。遺構、遺物は検出されなかった。

第2トレンチ(Tr-2) [第10・11図 図版2]

第1トレンチの南西55mの畠地に設定した3.0m×4.0mのトレンチである。第1トレンチとの比高差は4.5mを測り、すぐ西側に丘陵斜面の裾がせまる。厚さ10cm前後の耕作土の下層には粘質の強い暗褐色粘質土(第2層)が堆積し、その下層に硬く締まった暗赤褐色粘質土(第3、4層)が堆積している。第3層以下が基盤層とみられる。遺構は検出されなかった。遺物は、耕作土中から陶磁器片3、鉄釘1が

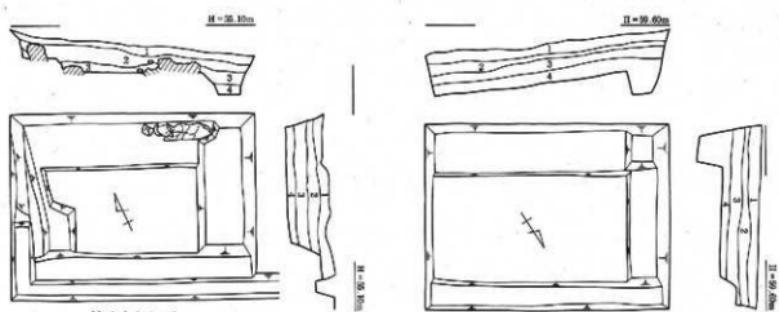
出土した。

小結

今回の調査は砂防施設建設に伴う工事道の整備範囲を対象としたもので、幅6mあまりと非常に限定された調査範囲となった。調査の結果、遺構は検出されず遺跡の存在は明らかにならなかったが、東側水田部には和奈見遺跡や和奈見1、2号墳が位置していることから、今回の調査地を含め、縁辺に遺跡が展開する可能性が十分に考えられる。



第10図 和奈見造口所在遺跡 調査トレンチ位置図



1. 細褐色粘土(耕作土)
2. 細褐色粘土(1より切。3~5cm大的の角礫混在)
3. 細褐色粘土質土(含まない。)
4. 細褐色粘土質土(3より切。薄く含まる。)

1. 細褐色粘土(耕作土)
2. 細褐色粘土(1より切。3~5cm大的の角礫混在。粘質土)
3. 細褐色粘土質土(含まない。)
4. 細褐色粘土質土(3より切。薄く含まる)

第11図 和奈見造口所在遺跡 第1・第2トレンチ実測図

第5節 因幡國府

因幡國府は、国府町中郷集落の南の水田地帯に展開し、800m四方前後が国府域と考えられている。1972年(昭和47)～1979年に圃場整備に伴う発掘調査で、正殿、後殿など平安初期の建物跡、柵列跡が検出されたことから、国府域の中央北西寄りの東西150m、南北213mが国庁域とされる。また国府域南西の国分寺集落で塔や南門跡など国分寺跡が一部調査されており、国分尼寺は大礎石の存在から国府域南東の法花寺集落周辺に推定されている。

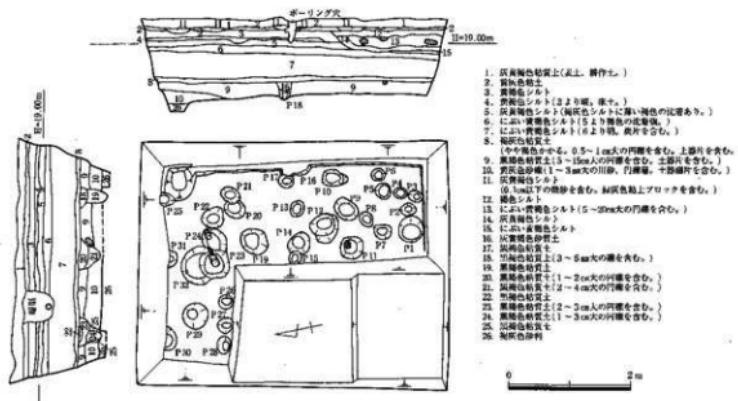
今回の調査は、電話基地新設に伴い実施したものである。調査対象地は国府域南東にあたり、袋川南岸の庄集落から南へ張り出す微高地上の畑地である。すぐ南には墓地が展開し古くから村の縁辺部であったことが窺える。

第1トレンチ(Tr-1)【第12～14図 図版3・27】

庄集落南西の畑地に設定した4×5mのトレンチである。地表面の標高は19.4mを測る。地表下1.55mの標高17.92mまで掘り下げを行った。耕作土下の第2層上面で歫状の平行する溝4条、第3層上面のトレンチ南側で多量の円礫を含む落ち込みを検出した。第4層は床土とみられる。僅かに土師器皿片を含み非常に安定した厚さ40cm余りの第7層下は、第8層黒褐色粘質土で14世紀前葉の備前焼甕口縁部(第14図3)、白磁(第14図7・8)が出土、標高18.4mを測る第9層上面でピット32基を検出した。詳細はピット一覧表に譲るが、ピットの中には柱根を残すものもいくつか確認された。ピット埋土や基盤となる第9、10層、さらに最下層の第26層褐灰色砂利中には7世紀代の須恵器杯身(第14図1)～中世期の瓦質鍋(第14図5)と出土遺物に時期幅をもつ。遺物は第8層中に多く含まれ、この他に第9層で羽釜(第14図6)、第10層で土錐(第14図9)、第26層で須恵器壺(第14図2)、P23出土の土師器壺(第14図4)を図化した。



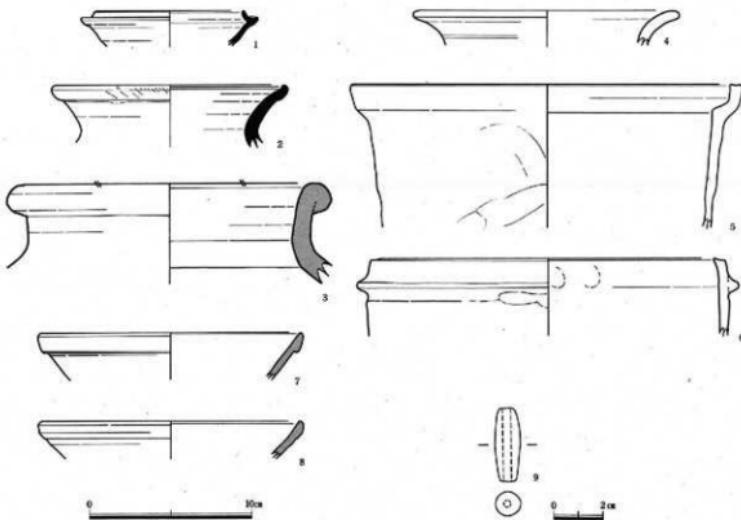
第12図 因幡國府 調査トレンチ位置図



第13図 因幡国府 第1トレンチ実測図

因幡国府 第1トレンチ検出ピット一覧表

ピット番号	規格(cm) 長径×短径(深さ)	検出高(m)	出土遺物	備考
1	40×40	11	18.23 須恵器・土師器細片	
2	25×21	11	18.21 須恵器・土師器細片、銅片	
3	25×18	30	18.21 土師器細片	
4	23×18	12	18.21 土師器片	
5	26×25	11	18.21 —	
6	23×21	13	18.22 —	
7	28×23	7	18.21 土師器細片	
8	26×21	6	18.21 —	
9	41×31	18	18.21 —	
10	43×27	15	18.24 須恵器片、土師器細片	柱根
11	37×36	20	18.24 須恵器片、土師器細片、木製品	柱根
12	45×46	35	18.24 須恵器片、土師器細片	柱痕跡
13	26×22	9	18.23 土師器細片	
14	38×34	31	18.25 土師器皿・体部片、須恵器底部	
15	21×20	24	18.26 土師器細片	
16	(29)×(18)	8	18.23 —	
17	25×20	9	18.20 土師器片、石	
18	(27)×(—)	29	18.38 土師器片	東壁面、第9層上面で検出
19	43×42	38	18.25 白磁底部、須恵器・土師器細片	柱痕跡
20	33×30	10	18.21 土師器片	
21	31×24	21	18.21 —	
22	39×35	29	18.22 土師器片	
23	(48)×(36)	31	18.33 土師器細片、須恵器底部、木製品	柱根
24	39×37	20	18.26 須恵器片、木製品	柱根
25	34×(25)	46	18.39 土師器、銅片	北壁面、第9層上面で検出
26	23×23	33	18.31 土師器・須恵器片、羽釜口縁片	
27	25×22	9	18.27 土師器片	
28	28×23	19	18.24 土師器・須恵器片、羽釜口縁片	
29	41×40	34	18.26 土師器・須恵器片、銅底部片	柱痕跡
30	48×(18)	39	18.38 土師器細片	柱痕跡、北壁面、第9層上面で検出
31	52×(15)	37	18.39 —	北壁面、第9層上面で検出
32	61×(46)	17	18.16 木製品	



第14図 因幡国府 第1トレンチ出土遺物実測図

小結

因幡国府の領域南東に位置する今回の調査地は、庁集落から南へ伸びる標高19m弱の微高地に立地する。因幡国庁跡から450m南東の位置である。

今回の調査は電話基地新設工事に伴い実施したものである。検出した遺構は因幡国庁に直接関連する時期ではない。標高18m弱で検出した遺物を含む締まった砂利層は袋川の氾濫によるとみられ、さほど時期を置かず砂礫、黒褐色粘質土が上に堆積した後の標高18.4m前後にこれらの遺構が展開する。僅かな範囲ながらビットの密度は高く何らかの建物跡を構成していたとみられ、遺物もコンテナ1箱分と比較的多く出土するなど生活痕跡が強く感じられる。調査地周辺にまとまった建物跡などが内包されている可能性は大きい。

第6節 雁金山城跡

雁金山城跡は鳥取城天守閣が築かれている久松山から北西に延びる丘陵の先端部に位置し、八幡池東丘陵の標高56mあまりの尾根上に立地している。周辺には、羽柴秀吉が鳥取城攻めを行なった際に築かれた砦跡が多数存在し、鳥取城を取り囲むように点在している。雁金山城跡もその一郭であり、秀次公陣所とされている。

今回の調査は、テレビ中継放送所の整備計画に伴うもので、建設予定地のほぼ全域を対象とする3.5m × 6.8mのトレンチを設定し確認調査を行った。西側に隣接して既存の中継所が位置し、削平等により地形が改変されている様子が見られる。

第1トレンチ(Tr-1) [第15・16図 図版4]

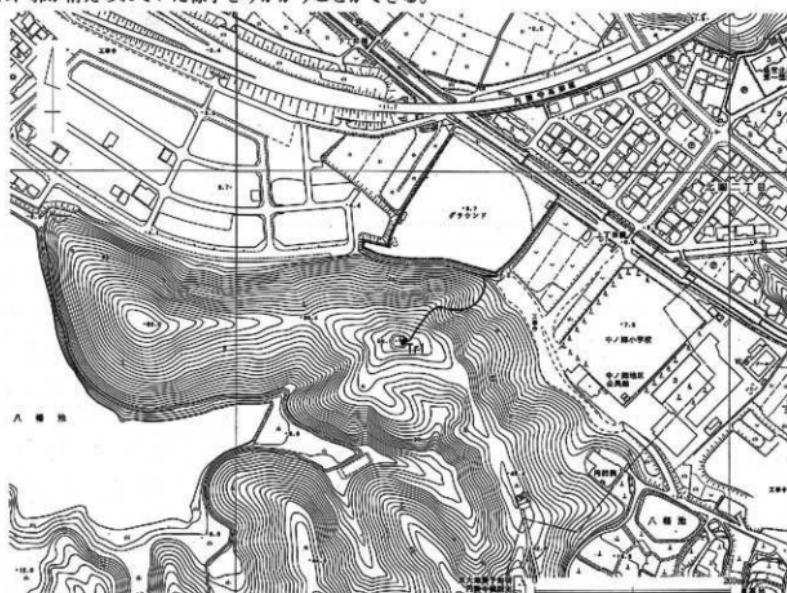
上層には既存施設の整備に伴うものと思われる客土(第2層)が厚さ10cm前後で見られ、その下層に暗黄褐色粘質土(第3層)が堆積する。第3層は均一の締まった堆積土で基盤層と思われる。第3層以下は

赤褐色、淡赤褐色の軟岩である。

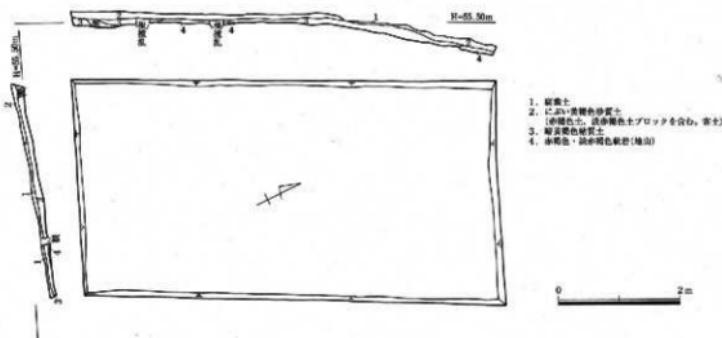
遺構、遺物は検出されなかった。

小結

今回の調査対象地は羽柴秀吉が鳥取城攻めに伴い築いた砦跡の区域に入る。調査の結果、調査対象地からは遺構、遺物は検出されなかったが、尾根上には平坦部や土塁の痕跡とみられるが高まりが観察され、郭が構えられていた様子をうかがうことができる。



第15図 雁金山城跡 調査トレンチ位置図



第16図 雁金山城跡 第1トレンチ実測図

第7節 岩吉遺跡

岩吉遺跡は千代川の沖積作用によって形成された鳥取平野の左岸平野部のほぼ中央に位置し、その範囲は南北約1.2km×東西0.8km前後にも及ぶ大集落遺跡である。鳥取平野で最初に稲作が導入され拠点集落として栄えたと考えられており、現在の岩吉集落が立地する南から伸びる微高地を中心に戻開する。律令期には条里が引かれ、地盤が安定する平安期には何らかの公的施設が設置されていたようである。これまでに、1976年(昭和51)と1982年(昭和57)に土地区画整理事業、1988年~1990年(昭和63~平成2年)に河川改良工事、1995年(平成7)に変電所新設工事、2002年(平成14)に電話基地局鉄塔施設整備事業、2006年(平成18)にマンション建設、ごみ焼却施設建設など各種事業に伴い発掘調査が行われている。

今回の調査は、集合住宅建設、電話局新設工事に伴い実施したものである。岩吉集落内伊和神社西の畑地に第1トレント、鳥取警察署南西の千代水スポーツ広場に第2トレントをそれぞれ設定した。



第17図 岩吉遺跡 調査トレント位置図

第1トレンチ(Tr-1) [第17~19図 図版4]

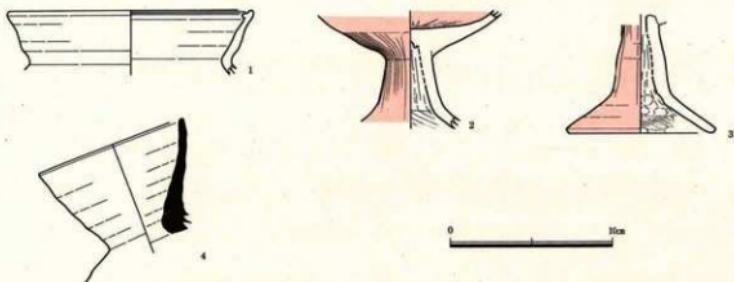
岩吉集落内南東の伊和神社50m西方の畑地設定した5.0×5.0mのトレンチである。地表面の標高は3.9mを測る。地表下1.5mの標高2.34mまで掘り下げを行った。第3層までが耕作土および旧耕作土で、第5層が床土、その下の第6層褐灰色シルト上面の標高3.36mで土坑SK-01を検出した。SK-01は平面隅丸長方形、規模は長さ158cm、幅73cm、深さ10cmを測る。遺構埋土から須恵器、土師器片が出土している。基盤となる第6層および第7層中には平安期の遺物を含む。標高3.1mの第9層灰白色シルトは古墳時代中期赤彩高杯などの遺物を含む比較的安定した締まった層で、上面で深さ10cm程度の瘤状の落ち込み(第8層)を検出した。以下、第10~13層にかけて二次堆積とみられる古墳時代中期の遺物を含むが遺構は検出されなかった。出土遺物はコンテナ約1箱分に相当する量で、大きく平安期と古墳時代中期に分かれる。第6~7層間、第9層に比較的集中し、第6層(第18図4)、第9層(第18図2、3)、第12・13層(第18図1)をそれぞれ図化した。壺(第18図1)はく字状口縁で、端部内面が肥厚する。頸部の強いヨコナデにより複合口縁の名残りが認められる。高杯(第18図2)は杯部内面に放射状暗文が観察される。高杯脚部(第18図3)は(第18図2)と重なるような状態で出土している。須恵器口縁部(第18図4)は平瓶とみられる。

第2トレンチ(Tr-2) [第17・19図 図版4]

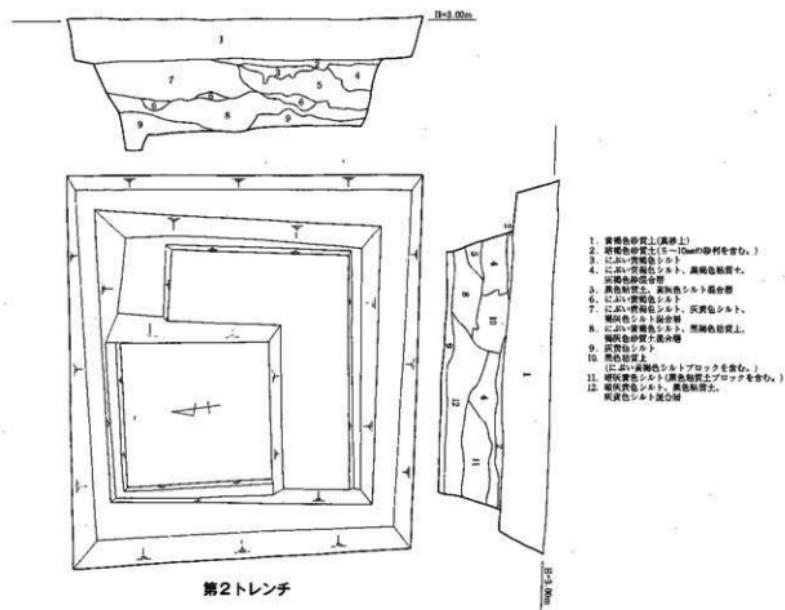
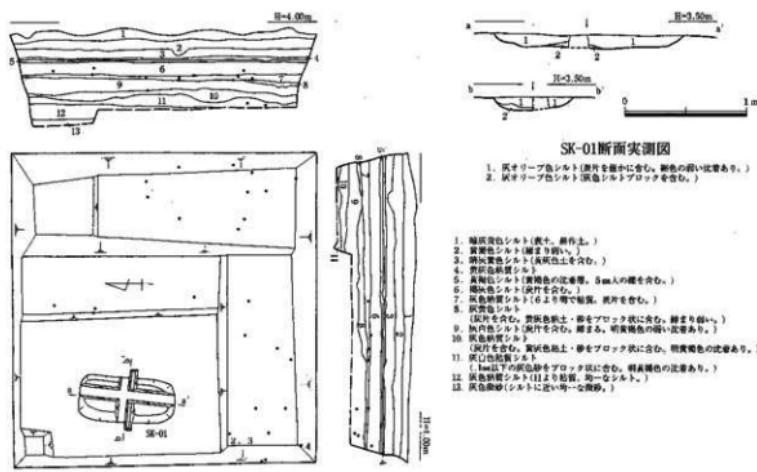
岩吉集落の北東500mの千代水スポーツ広場のグラウンド南東端に設定した5.8×6.0mのトレンチである。地表面の標高は3.1mを測る。地表下2.1mの標高0.9mまで掘り下げを行った。現状がグラウンドであることから大規模に土の入れ替えが行われており、標高1.5mで遺跡の基盤となる第9層灰黄色シルトを確認したが、その第9層では遺構や遺物は検出されなかった。客土中からわずかに遺物が出土しており、第4、5層で土師器片、タイル片、第8層で陶器、土師器片、第12層には須恵器、土師器片とともに陶磁器片、釉瓦片を含む。

小結

今回の調査は、第1トレンチは岩吉遺跡の中心部とみられている岩吉集落内にあり、式内社である伊和神社や祀られている巨石から50mばかりの地点である。第2トレンチは遺跡の北東外縁にあたる。第1トレンチの200m余り南西の地点では1995年(平成7)、変電所新設工事に伴い調査が行われ、古墳時代から平安時代の建物跡や流路、大量の墨書き器・祭祀具などが検出されている。今回第1トレンチでは平安期の遺構と古墳時代中期の堆積層の二時期が確認され、この周辺では標高3.3m以下に平安期以前の良好な遺構面が内包されていることが判明した。



第18図 岩吉遺跡 第1トレンチ出土遺物実測図



第19図 岩吉遺跡 第1・第2トレンチ実測図

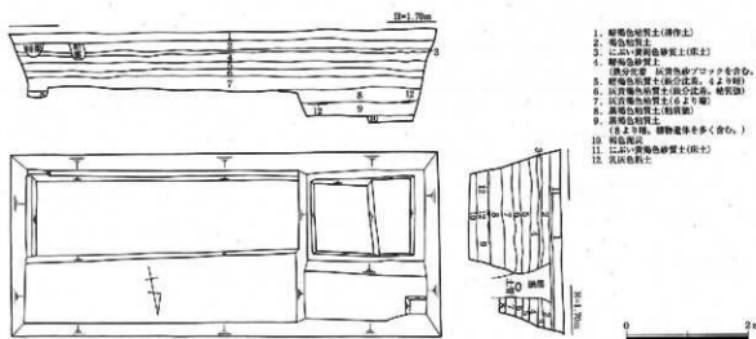
第8節 天神山遺跡

天神山遺跡は鳥取平野の西端に形成された潟湖である湖山池の東岸に立地している。湖山池周辺は鳥取市域の中でも多くの遺跡が存在することで知られており、桂見遺跡、西桂見遺跡、桂見墳墓群、布勢遺跡、湖山第1、第2遺跡をはじめとして縄文時代から中世の遺跡が数多く分布している。天神山遺跡の南丘陵にも国史跡である前方後円墳の布勢古墳(布勢1号墳)が立地し、天神山遺跡の中央に位置する標高17mあまりの独立丘陵「天神山」には、因幡国支配の拠点となった布施天神山城が築かれている。

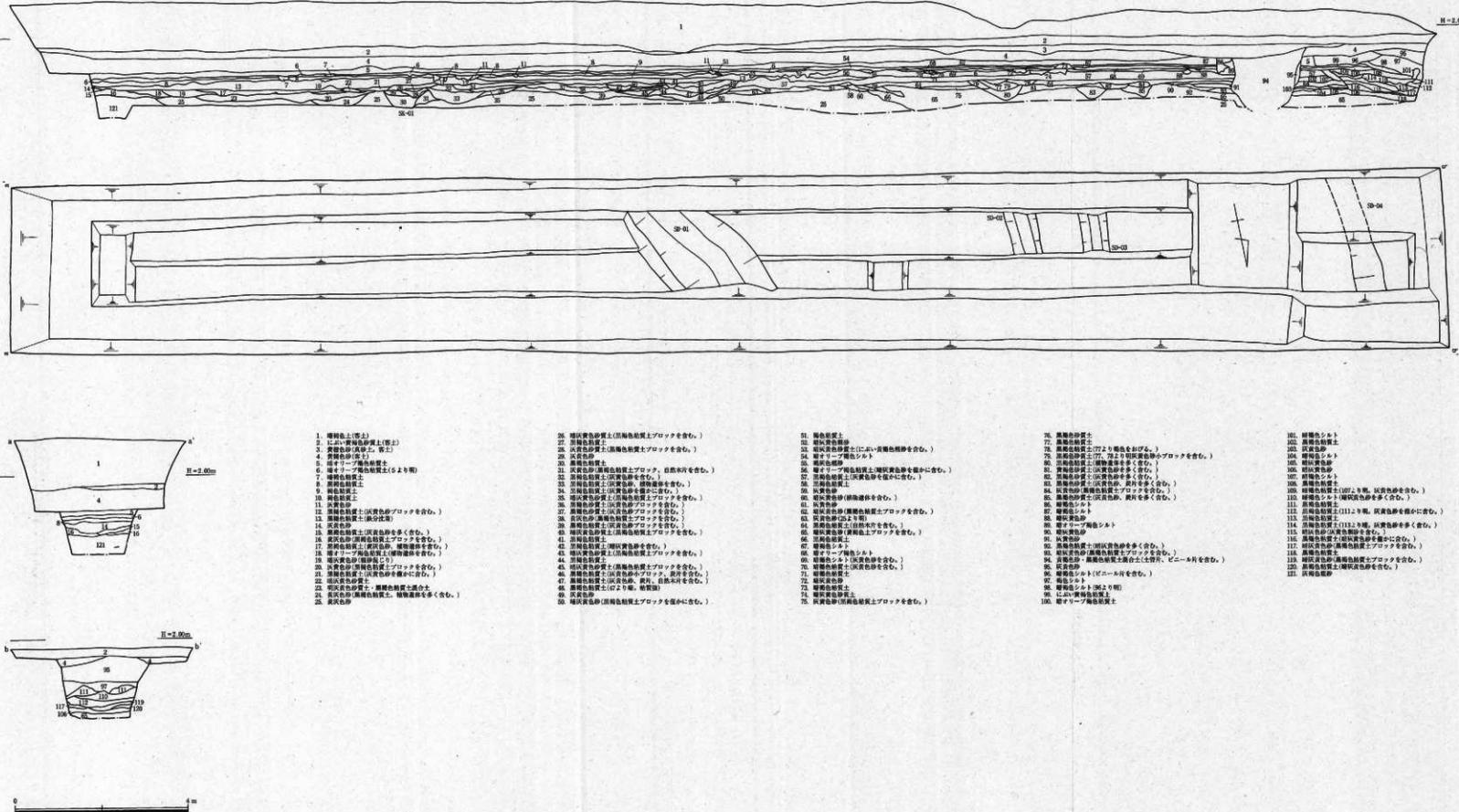
今回の調査は、宅地開発予定地内2箇所にトレント(第3、4トレント)を設定し確認調査を行なった。このうち第4トレントは天神山城に伴う堀の位置確認を目的として設定したものである。なお、第3、4のトレント番号は平成20年度に実施した第1、2トレントの続き番号として付したものである。



第20図 天神山遺跡 調査トレント位置図



第21図 天神山遺跡 第3トレント実測図



第22図 天神山遺跡 第4トレンチ実測図

第3トレンチ(Tr-3) [第20・21図 図版5]

天神山城跡から南東350m地点の水田部に設定した3.0×7.0mのトレンチである。地表下35cmに堆積するにぶい黄褐色砂質土が床土とみられ、その上位層は水田耕作に伴う堆積土である。第3層以下の第4層～8層は整然とした堆積状況が見られ、地表下1.2mあまりの標高0.4m以下には植物遺体を多量に含む黒褐色粘質土が認められ、下位の第10層が褐色泥炭層となる。第3層以下の各土層面で精査を行ったが遺構の存在は確認できなかった。

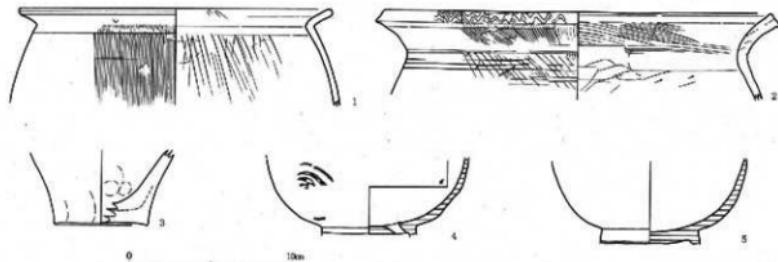
遺物は、第2層から陶器片、土師器、弥生土器の小片、第4層から土師器片、第6・7層から瓦質鍋片1点が出土している。第6、7層が中世の堆積層の可能性が考えられる。

第4トレンチ(Tr-4) [第20・22・23図 図版5・27]

天神山城跡から東約220mの造成地に設定した4.0×33.0mのトレンチである。第1～4層は造成時の客土である。第5層は造成前の耕作土とみられ、下位の第6、54、67、68層が床土と思われる。床土以下の層序は複雑な堆積状況を示すが、第13層とその下層に堆積する第57層は調査地をとおして観察され、13層から瓦質の鍋片、57層からは土師器皿片、土師器片が出土している。第13、57層の下層は砂や植物遺体を含む土層が複雑に堆積し、標高0.6m前後から下層は比較的均一な暗灰黄色砂(第65層)、黃灰色砂(第25層)、灰褐色粗砂(第121層)がつづく。

遺構は、第57層上面から溝状遺構のSD-01(埋土第40～50層)、04(埋土第107～118層)、57層下層からSD-02(埋土第76～80層)、03(埋土第83層)、第13層下層から土坑状遺構SK-01(埋土第27～30層)を検出した。また、平面検出で確認できなかったが、断面観察から第32～36層、第85層が埋土となる溝状遺構が確認された。溝はいずれも南北に伸びるようである。SD-01は幅3m、深さ40cm、SD-01が幅0.9m、深さ50cm、SD-03は幅0.7m、深さ30cmを測る。SD-04は検出規模で幅2.3m、深さ60cm前後を測る。SK-01は幅90cm、深さ40cmである。

遺物は、SK-01から弥生土器壺(第23図1)、底部、SD-01埋土から土師器片、板状木製品、SD-04埋土から漆器碗(第23図4、5)、溝状遺構とみられる埋土33層から弥生土器底部(第23図3)が出土した。このほか、包含層遺物として第13層から瓦質の鍋片、13層より下層から弥生土器壺(第23図2)、土師器片、須恵器片、木杭が出土している。(1)～(3)は弥生土器である。(1)は「く」字口縁の壺で口径18.7cmを測る。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面は継ハケ目、内面は継斜位のハケ目が重複する。(2)は外反気味の口縁をもつ壺で口縁端面に波状文を施す。口縁部内外面ハケ目、体部外面は叩き目ちハケ目、内面はヘラ削りである。口径23.6cmを測る。(3)は平底の底部で内外面ナデ、底径5.8cmを測る。(4)、(5)は漆器碗で、ともに内面に朱漆、外面に黒漆を施す。(4)の外面には朱漆で文様が描かれているが剥落により詳細は不明である。(4)は口径12.5cm、器高4.5cm、(5)は口径12.0cm、器高5.0cmあまりである。



第23図 天神山遺跡 第4トレンチ出土遺物実測図

小結

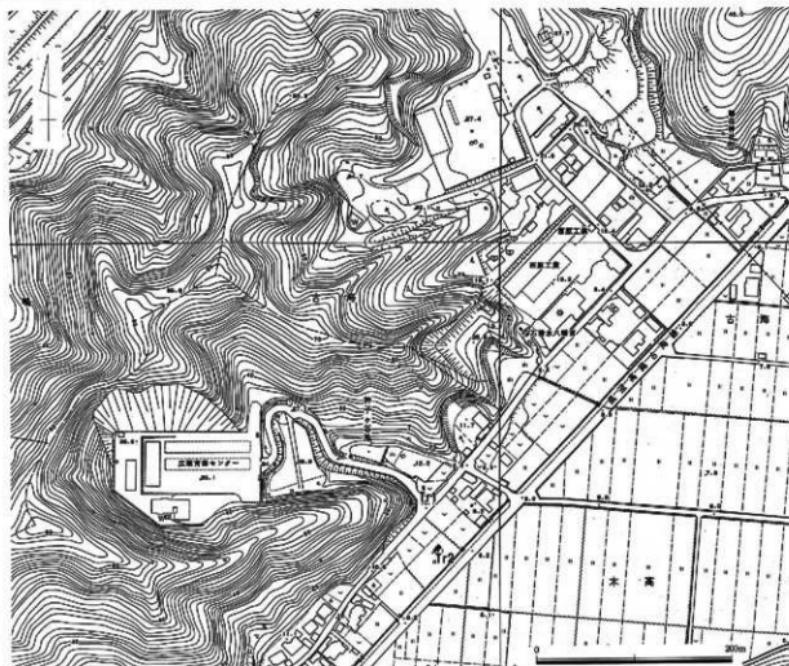
調査の結果、第3トレンチからは遺構は確認されなかったものの、第4トレンチから土坑状遺構や溝状遺構が検出された。第4トレンチの検出遺構は、中世遺物を含む黒褐色粘質土(第13層)の下位に堆積する第57層の上面から掘り込まれたSD-01、04と、第57層下層に堆積し、土師器、弥生土器を包含する砂質土から検出されたSK-01、SD-02、03に分かれる。各遺構の時期は不明瞭であるが、大きくは2時期ないしは3時期の遺構が存在するものと思われる。

また、今回の調査目的とした天神山城に伴う堀の位置確認については、位置的にみてSD-04がその一部である可能性も残るがはっきり確認することはできなかった。用水路を挟んだ西側の調査によって確認する必要があるものと思われる。

第9節 本高下ノ谷遺跡

本高下ノ谷遺跡は本高集落の北東よりに位置し、丘陵裾に開けた水田部に立地している。南に有富川、東に千代川が流れ、両河川の左岸に形成された平野に本高弓ノ木遺跡、山ヶ鼻遺跡、菖蒲遺跡、古海遺跡など多くの遺跡が存在していることが知られている。また、平野を望む縁辺丘陵上には本高古墳群、古海古墳群、服部古墳群、釣山古墳群など多くの古墳群が展開し、数多くの古墳が築かれている地域となっている。

今回の調査は、鳥取西道路整備計画に伴い実施したもので、計画路線内2箇所に試掘トレンチを設定し確認調査を行なった。



第24図 本高下ノ谷遺跡 調査トレンチ位置図

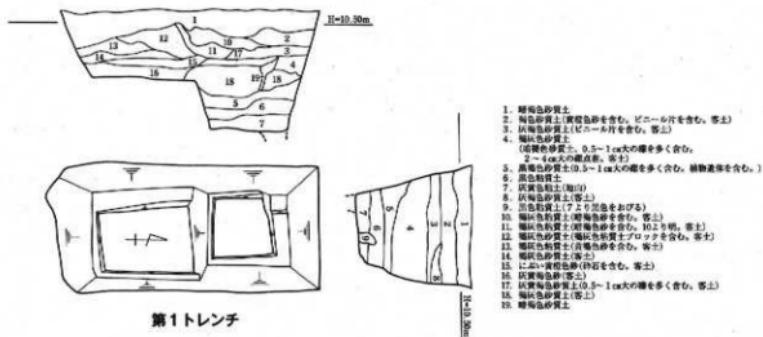
第1トレンチ(Tr-1) [第24・25図 図版6]

浅い谷の出口に形成された微高地の畑地に設定した2.0×4.3mのトレンチである。地表下1.0~1.3mで観察される黒褐色砂質土(第5層)の上層は畑地造成に伴う客土とみられる。客土下の第5層は植物遺体や砂礫を多く含む堆積層で流入した土砂の様相を呈している。第5層以下は黑色粘質土(第6層)、灰黄色粘土(第7層)が堆積し、第7層が地山になるものと思われる。

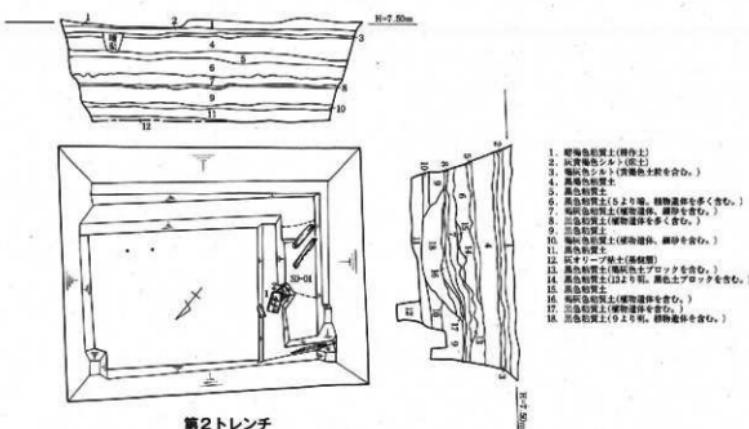
遺構は検出されなかった。遺物は、第6層から土師器の細片が1点出土している。

第2トレンチ(Tr-2) [第24~26図 図版6・7・27]

第1トレンチの南60mの水田部に設定した4.0×5.0mのトレンチである。地表下1.5mに堆積する第12層の灰オリーブ粘土層が基盤層と思われる。基盤層の上層には黑色粘質土の第9、11層が見られ、



第1トレンチ



第25図 本高下ノ谷遺跡 第1・第2トレンチ実測図

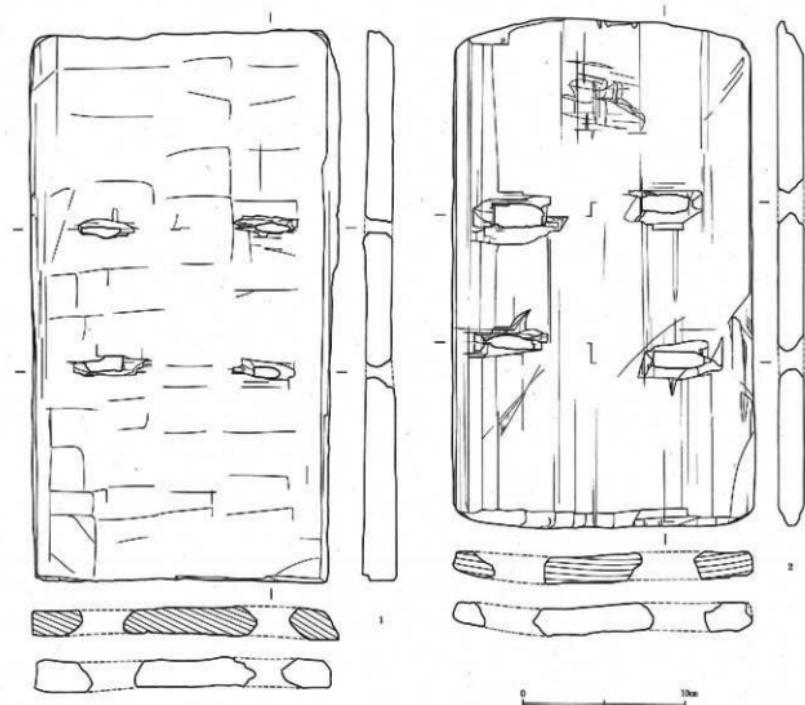
9、10層の間に植物遺体や細砂を含む褐色灰土(第10層)が帯状に堆積する。第9層の上位に堆積する第6～8層には植物遺体が多く含まれており低湿地の堆積状況をうかがわせる。相対的に第4、9、11層が比較的安定した堆積状況を示し、このうちの第9層上面から遺構が検出された。

遺構は第9層上面から溝状遺構(SD-01)が検出された。SD-01は第9、10層を掘り込んでつくられたもので、幅2.2m、深さ50cm前後を測る。概ね南西から北西へ延びる。

遺物は、SD-01埋土から田下駄(第26図1、2)、板状木製品、包含層遺物として第6層から土師器片、第9層から弥生土器片、杭状木製品、板状木製品が出土した。田下駄1、2はほぼ完存している。それ長さ33.65cm、31.15cm、幅18.85cm、18.35cm、厚さ2.05cm、1.8cmを測り、前後左右に方形の4個の孔を穿つ。

小結

調査の結果、微高地に設定した第1トレンチから遺構を検出することはできなかったが、一段下った水田部に設定した第2トレンチから溝状遺構と遺物包含層が確認され、遺跡が存在することが明らかになった。丘陵裾に開けた平野部に遺跡が展開するものと思われる。



第26図 本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ出土遺物実測図

第10節 本高古墳群

本高古墳群は本高集落の北西丘陵上に立地し、20基を越える古墳で構成される古墳群である。古墳群が立地する丘陵は千代川左岸に形成された平野を望む低丘陵で、同丘陵上に宮谷、古海、徳尾古墳群など100基を超える古墳が築かれている。また、丘陵周辺の平野部には本高弓ノ木遺跡、菖蒲遺跡、山ヶ鼻遺跡、古海遺跡などの集落遺跡が立地し遺跡密度の高い地域となっている。

今回の調査は、鳥取西道路整備計画に伴い実施したもので、計画路線内の丘陵南斜面にTr-1～3、稜線上にTr-4～6の計6箇所に試掘トレンチを設定し確認調査を行なった。

第1トレンチ(Tr-1) [第27・28図 図版7]

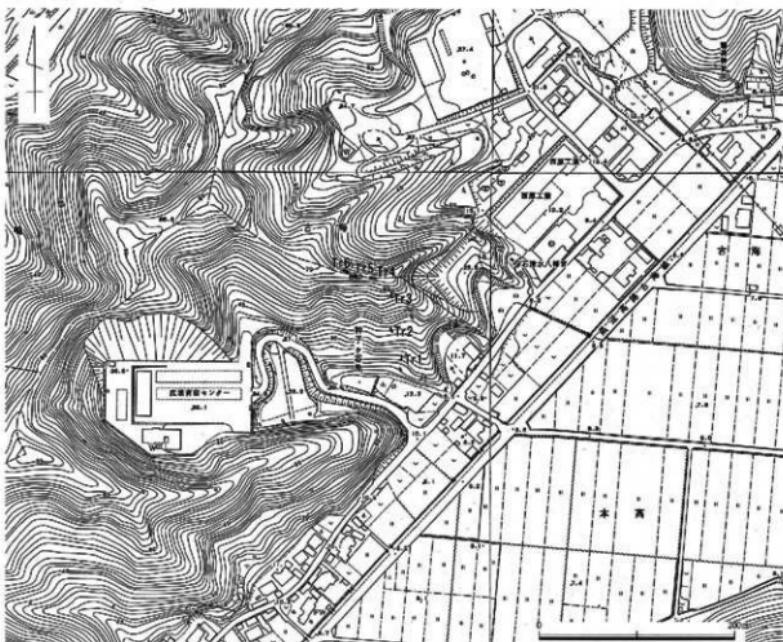
南斜面の傾斜変換地点に設定した1.0×5.3mのトレンチである。厚さ9～15cmあまりの表土下に流入堆積したものと思われる赤褐色砂質土(第2層)が見られ、その下層に地山の赤褐色柔岩(第3層)が認められる。地山を加工した痕跡や盛土もなく遺構、遺物は検出されなかった。

第2トレンチ(Tr-2) [第27・28図 図版7]

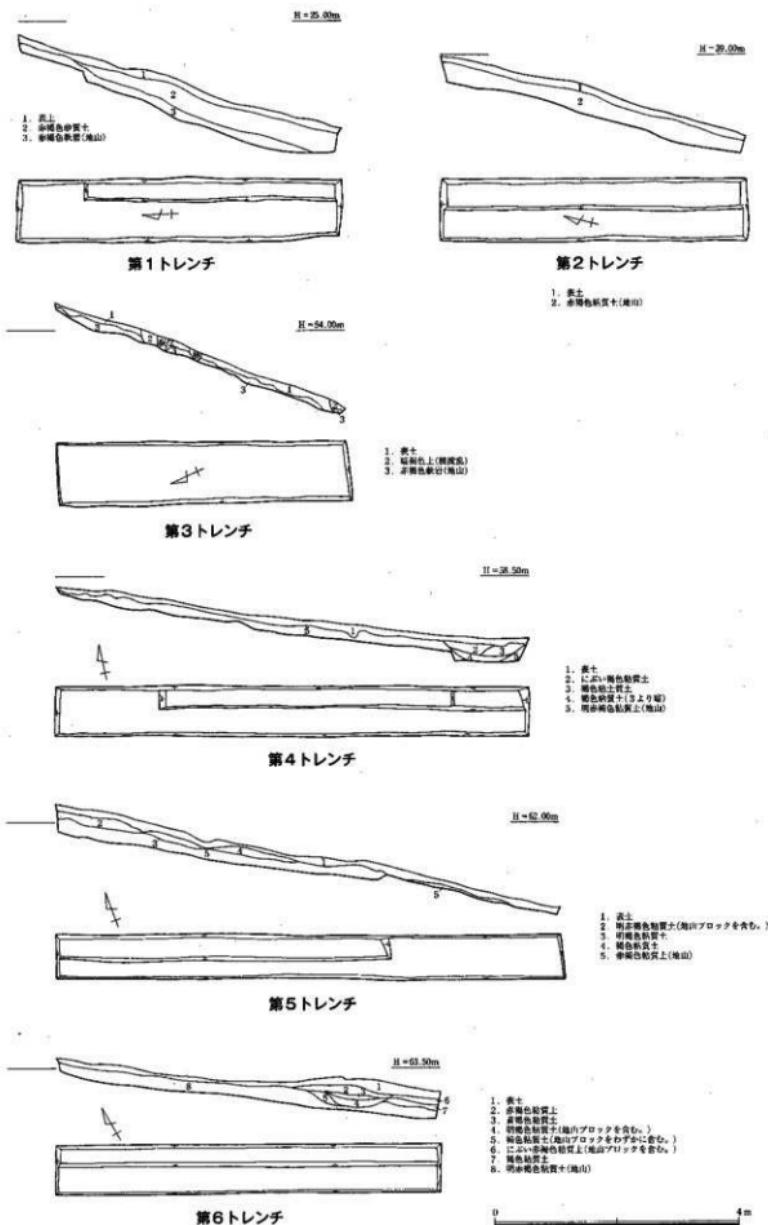
中腹部の緩斜面に設定した1.0×5.0mのトレンチである。厚さ10cmあまりの表土下には地山と思われる締まった赤褐色粘質土が認められる。地山を加工した痕跡や盛土もなく遺構、遺物は検出されなかった。

第3トレンチ(Tr-3) [第27・28図 図版7]

古墳が築かれている主稜線から僅かに下った傾斜変換地点に設定した1.0×4.8mのトレンチである。厚さ5～15cmあまりの表土下は地山の赤褐色柔岩(第3層)が認められる。地山を加工した痕跡や盛土もなく遺構、遺物は検出されなかった。



第27図 本高古墳群 調査トレンチ位置図



第28図 本高古墳群 第1・第2・第3・第4・第5・第6トレンチ実測図

第4トレンチ(Tr-4) [第27・28図 図版7]

主稜線に設定した 0.8×7.7 mのトレンチで、東側に直径(辺)12~19m、高さ1.0m前後の古墳が3基連続して築かれている。表土下の明赤褐色粘質土(第5層)が地山とみられ、トレンチ東よりから地山を掘り込んだ溝を検出した。溝は断面U字形を呈し、幅1.1m、深さ30cmを測る。古墳の周溝と思われ、東側に位置する円(方)墳に隣接する小規模な古墳が存在するものと考えられる。

遺物は出土しなかった。

第5トレンチ(Tr-5) [第27・28図 図版8]

主稜線上の傾斜変換地点に設定した 0.7×8.3 mのトレンチである。地表下10~30cmで検出した赤褐色粘質土(第5層)が地山である。丘陵下方では地山の直上に表土が堆積するが、上方では明赤褐色粘質土(第2層)、明褐色粘質土(第3層)、褐色粘質土(第4層)が観察される。このうち第2層は地山土のブロックが混入する二次堆積層で盛土とみられる。トレンチ西側上位に古墳が存在するものと考えられる。遺物は出土しなかった。

第6トレンチ(Tr-6) [第27・28図 図版8]

第5トレンチ西側の稜線上平坦部に設定した 0.8×6.3 mのトレンチである。地表下5~40cmで確認された明赤褐色粘質土(第8層)が地山と思われる。トレンチ東側から地山を掘り込んだ幅1.3m、深さ20cm前後の浅い溝状の遺構を検出した。溝の東よりには盛土と考えられる地山ブロックを含むにぶい赤褐色粘質土(第6層)の堆積が認められる。本トレンチの下位に設定した第5トレンチからも盛土が確認されることから、稜線上の平坦部に古墳が築かれているものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

小結

調査対象地内には7基の古墳が存在することが確認されていたが、第4~6トレンチ調査の結果、さらに主稜線上に古墳が築かれていることが明らかになった。なお、本高古墳群の本調査が本年度に行なわれており、調査によって古墳時代前期の前方後円墳(全長63m)が築かれていることが明らかになってきている。

第11節 古海古墳群

古海古墳群は山ヶ鼻集落の北西丘陵に位置し、標高60m前後の丘陵上に立地している。現在56基あまりの古墳が確認されており、前方後円墳の古海18号墳、前方後方墳とされる古海36号墳や石棺式石室を埋葬施設とする山ヶ鼻古墳などが含まれている。同一丘陵上には南西側に宮谷、本高古墳群、北東に徳尾古墳群が展開し、主稜線上を中心に連続して古墳が築かれている。また、丘陵の東側に開けた平野には、古海、山ヶ鼻、菖蒲、本高弓ノ木など绳文時代~中世の遺跡が立地している。

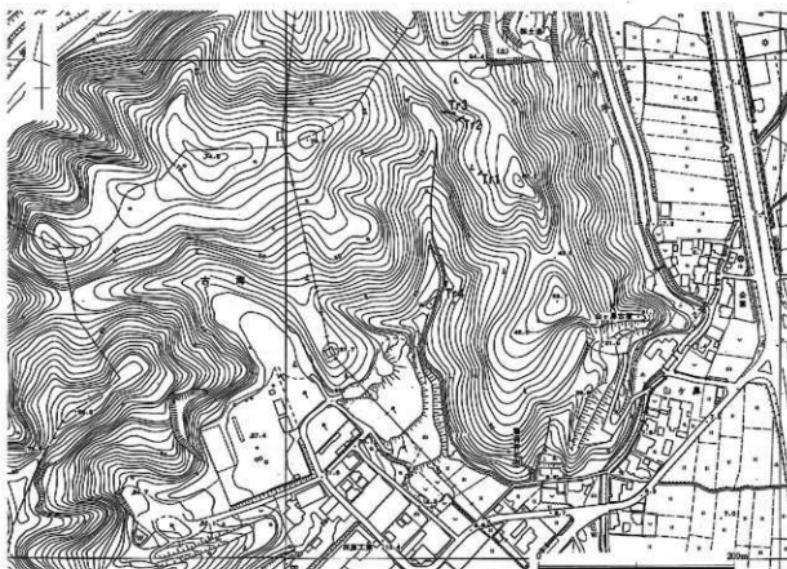
今回の調査は工業用排水池整備に伴う管理道設置箇所を対象に実施したものである。幅6m内外の計画路線内4箇所に試掘トレンチを設定し確認調査を行なった。

第1トレンチ(Tr-1) [第29~31図 図版8]

古海50号墳の西裾部に設定した 0.8×4.0 mのトレンチである。表土の下層には褐色粘質土(第2層)、地山とみられる明褐色粘質土(第3層)が観察され、トレンチ東隅から第2、3層を掘り込んだ溝状の落ち込みを検出した。上方に位置する古海50号墳の周溝と考えられる。遺物は検出されなかった。

第2トレンチ(Tr-2) [第29~31図 図版8]

丘陵西斜面中腹に見られたテラス状の平坦部に設定した 0.8×8.0 mのトレンチである。第11層の明黄褐色粘質土が地山である。遺構は、第8層が埋土となる溝状遺構と、その下方1.3mから7、9、10、12層が埋土の土坑状遺構を検出した。いずれも地山をしっかりと掘り込んでつくられている。出土遺物から弥生時代後期ごろの遺構の可能性が考えられる。



第29図 古海古墳群 調査トレンチ位置図

遺物は、土坑埋土の第10、12層から弥生土器の底部(第30図1)をはじめ多数の土器片が出土した。また、第3、4、5、7層からも同時期の土器片が出土しており、弥生時代の遺跡が存在する可能性を示唆している。

第3トレンチ(Tr-3)【第29・31図 図版8】

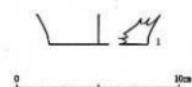
第2トレンチから北西8mの傾斜変換地点に設定した0.8×14.7mのトレントレンチである。斜面の傾斜が変わる変換点の表土下層には流入したものとみられる黒褐色粘質土(第2、3層)の堆積が見られる。黒褐色粘質土下層の第4層は安定した堆積層で基盤になるものと思われる。地山は第5層の明黄褐色粘質土で、トレンチ下方の谷よりでは角礫が多く含まれている。遺構、遺物は検出されなかった。

第4トレンチ(Tr-4)【第29・31図 図版8】

丘陵裾の平坦部に設定した1.0×6.3mのトレンチである。表土下層に暗褐色粘質土(第2層)が堆積し、その下位に地山と思われる明褐色粘質土(第3層)が見られる。遺構、遺物は検出されなかった。

小結

調査の結果、第1トレンチから周溝、丘陵中腹の平坦部に設定した第2トレンチから溝状遺構と土坑状遺構を検出した。土坑埋土やその上層に弥生土器の破片が多数含まれることから、丘陵西側斜面に見られる平坦部を中心に弥生時代の遺跡が存在するものと考えられる。また、第1トレンチ上方の尾根上には4基の古墳が確認されていたが、今回行なった踏査で稜線上から僅かに下った緩斜面にも小規模な古墳が存在していることが明らかとなり、周辺の斜面上についても古墳が築かれている可能性があることから十分な注意が必要と思われる。



第30図 古海古墳群 第2

トレンチ出土遺物実測図

第31図 古海古墳群 第1・第2・第3・第4トレンチ実測図

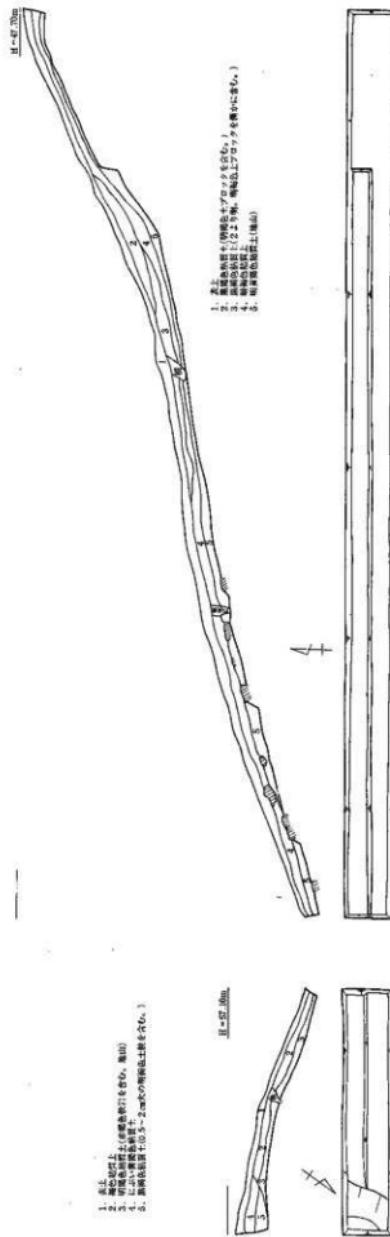
第2トレンチ



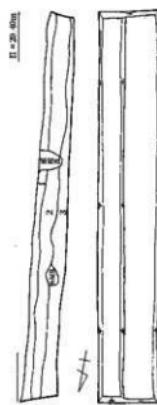
第1トレンチ

第3トレンチ

1. 断面
2. 墓室
3. 明治時代土(表面を削り去る。削除)
4. にふく葉茎葉土(表面を削り去る。削除)
5. 薄荷葉茎葉土(表面を削り去る。削除)



第4トレンチ



第4トレンチ

1. 細千葉茎葉土
2. 墓室
3. 墓室の上段

1. 細千葉茎葉土
2. 墓室
3. 墓室の上段
4. 墓室の下段
5. 墓室の下段(表面を削り去る。削除)
6. 墓室の下段(表面を削り去る。削除)
7. 墓室の下段(表面を削り去る。削除)
8. 墓室の下段(表面を削り去る。削除)
9. 墓室の下段(表面を削り去る。削除)
10. 墓室の下段(表面を削り去る。削除)
11. 墓室の下段(表面を削り去る。削除)
12. 墓室の下段(表面を削り去る。削除)

第12節 山ヶ鼻所在遺跡

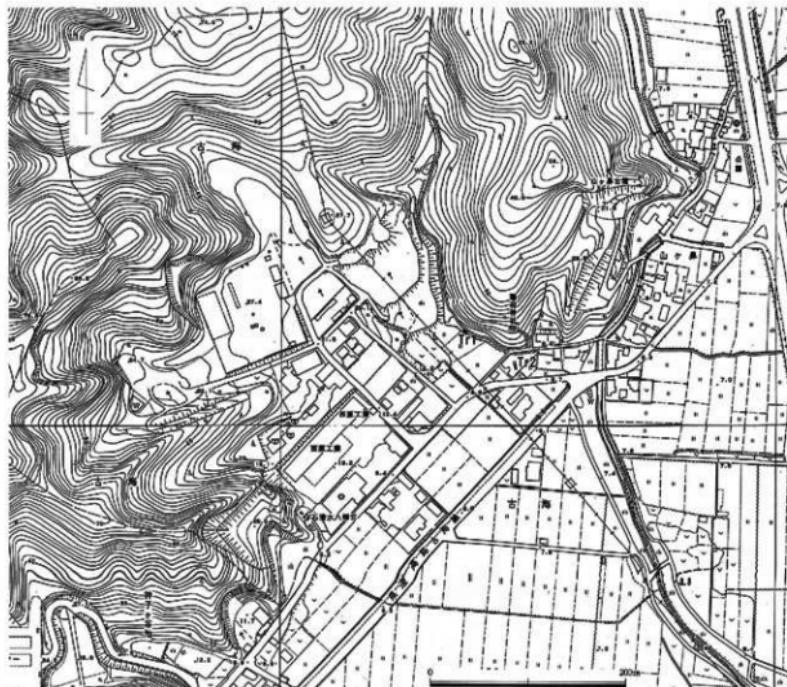
山ヶ鼻所在遺跡は山ヶ鼻集落の南西に位置し、丘陵山麓の平地に立地する。周辺平野部には本高弓ノ木遺跡、本高下ノ谷遺跡、山ヶ鼻遺跡、菖蒲遺跡、古海遺跡など多くの遺跡が存在し、縁辺丘陵上に宮谷古墳群、本高古墳群、古海古墳群が展開している。

今回の調査は、工業用排水池整備に伴う管理道設置路線内を対象に実施したもので、計画路線内2箇所に試掘トレンチを設定した。

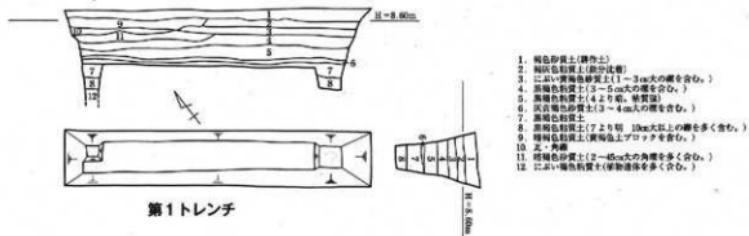
第1トレンチ(Tr-1)【第32・33図 図版9】

微高地の畠地に設定した0.9×5.0mのトレンチである。地表下40cm前後に堆積する黒褐色粘質土(第4層)にはアルミ板片が含まれていることから、第4層から上層は現代の堆積層と思われる。第4層以下は黒褐色粘質土が堆積し、大型の礫が多く含まれている第8層や、植物遺体を多量に含む第12層などの堆積が見られる。谷筋に当たることから土砂流入や流水の影響を受けているものと思われる。

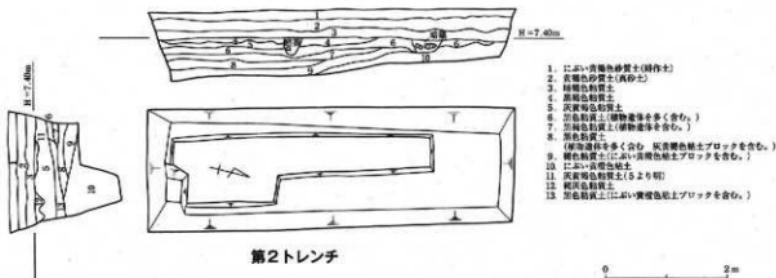
遺構は検出されなかった。遺物は、第10、11層から陶器、須恵器、第5層から須恵器、土師器の細片が僅かに出土した。



第32図 山ヶ鼻所在遺跡 調査トレンチ位置図



第1トレンチ



第2トレンチ

第33図 山ヶ鼻所在遺跡 第1・第2トレンチ実測図

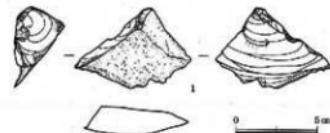
第2トレンチ(Tr-2) [第32~34図 図版9]

第1トレンチの南東60mの水田部に設定した2.0×6.0mのトレンチである。耕作土下の第2層は客土で、その下位に堆積する第3層が旧耕作土とみられる。第3層以下の第6、7、8層は多量の植物遺体を含む黒色粘質土、黒褐色粘質土で低湿地の堆積状況を示している。基盤層は、地表下0.5~1.0mで認められるにぶい黄橙色粘土で、南側へ傾斜して行く状況が見られる。原地形を反映しているものと思われる。

遺構は検出されなかった。遺物は、第3層から陶器、土師器、第6層から須恵器、土師器などの細片が僅かに出土した。また、第6層からは長さ4.95cm、幅7.1cm、厚さ3.05cmを測る黒曜石の剥片(第34図1)が出土している。

小結

調査の結果、遺構を検出することはできなかったが、包含層遺物として須恵器、土師器などの細片が僅かに出土している。遺構もなく遺跡の存在を明確に示すものはないが、山ヶ鼻遺跡や菖蒲遺跡が間近に展開することや、立地状況が類似する本高下ノ谷遺跡の存在などから、丘陵裾部に遺跡が存在する可能性は十分に考えられる。



第34図 山ヶ鼻所在遺跡 第2トレンチ
出土遺物実測図

第13節 宮谷古墳群

宮谷古墳群は千代川の支流である野坂川の右岸、宮谷集落～鳴集落の東側丘陵、標高50～90m程度に立地している。現在までに25基の古墳が確認されている。同一丘陵の主稜線東側は古海地区にあたり南側には本高地区がひかえ、宮谷・古海・本高古墳群と、各古墳群が入り組む地帯となっている。特に鳴集落東500mの標高70～80m前後の丘陵上には、前方後方墳である古海36号墳(全長67m)や前方後円墳である古海18号墳(全長45m)、平成21年度の調査で前期前半に遡る山陰最古の前方後円墳と判明した本高14号墳(全長63m)など、古墳の密集地域となっている。また、北西側の野坂川左岸に開けた平野部には、弥生～奈良時代の集落遺跡である大柄遺跡が展開する。

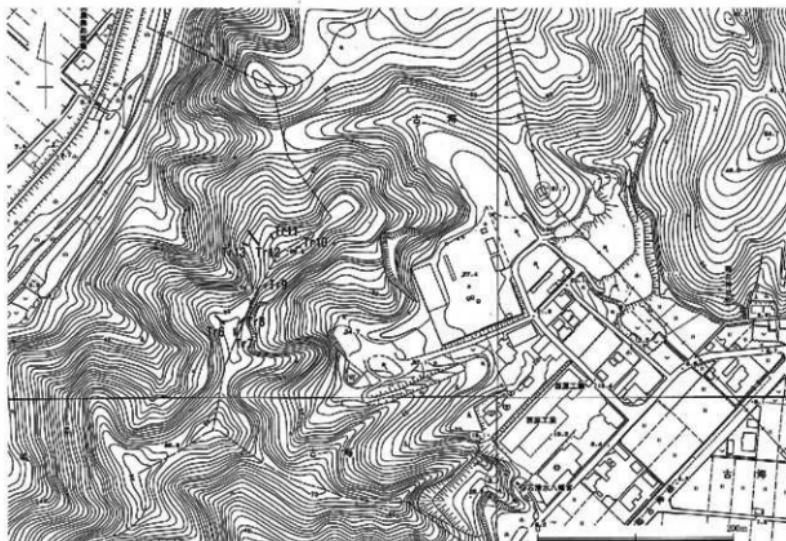
今回の調査は、鳥取西道路整備計画に伴い実施したもので、昨年度の第1～5トレンチに続き、計画路線内に第6～13トレンチ、計8箇所の試掘トレンチを設定した。

第6トレンチ(Tr-6)【第35・36図 図版9】

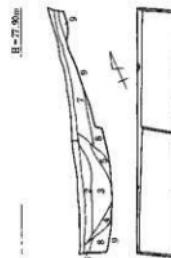
宮谷10～16号墳、古海18号墳が立地する北東へ延びる主稜線のうち、宮谷11、21号墳が分布するとされる平坦面から北西へ下る斜面に設定した0.8×13mのトレンチである。調査地は雑木林で、トレンチ高所の標高は79.10mである。厚さ10cm程度の表土下には暗褐色粘質土(第5層)の堆積がみられ、その下の第10～12層が地山である。トレンチ上位で旧表土(第3層)上に厚さ15cm程度の盛土(第2層)と周溝(第4層)、トレンチ下位で幅1.6m、深さ46cmの周溝(第6～9層)を検出した。遺物は出土しなかった。

第7トレンチ(Tr-7)【第35・36図 図版9】

宮谷10～16号墳、古海18号墳が立地する北東へ延びる主稜線のうち、宮谷11、21号墳が分布するとされる平坦面に設定した0.8×5.8mのトレンチである。調査地は雑木林で、トレンチ高所の標高は81.10mである。厚さ10cm程度の表土下は地山面で、トレンチ北側で幅1.8m、深さ28cmの周溝(第10～12層)、トレンチ南側で旧表土(第7層)上に厚さ10cm前後の盛土(第6層)と幅1.5m、深さ27cmの周溝(第2～5層)を検出した。遺物は出土しなかった。

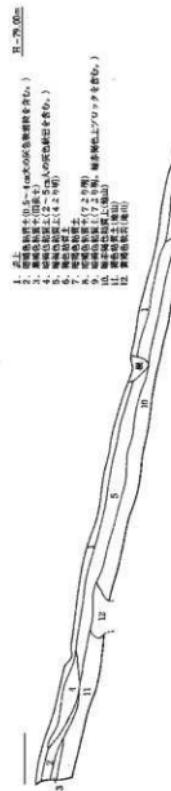


第35図 宮谷古墳群 調査トレンチ位置図



第9トレンチ

- 卷之三
1. 未熟の花被管上
2. 未熟の花被管上 0.3 mmの褐色部分を含む。
3. 先端部が褐色 1.3 mm 1-2 cmの褐色部分を含む。
4. 先端部が褐色 1.3 mm 1-2 cmの褐色部分を含む。
5. 先端部が褐色 1.3 mm 1-2 cmの褐色部分を含む。
6. 先端部が褐色 1.3 mm 1-2 cmの褐色部分を含む。
7. 先端部が褐色 1.3 mm 1-2 cmの褐色部分を含む。
8. 先端部が褐色 1.3 mm 1-2 cmの褐色部分を含む。



第6トレンチ

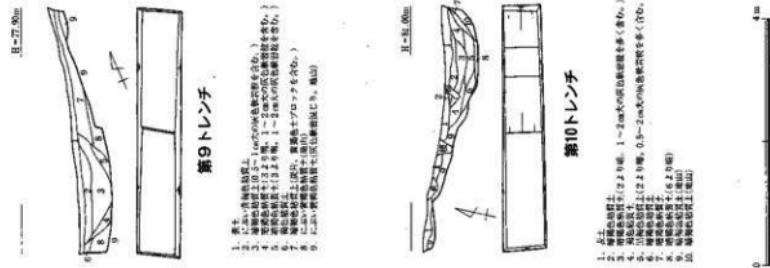
- 第7 trench**

第8 trench

1. 断面形状
2. 断面形状
3. 断面形状
4. 断面形状
5. 断面形状
6. 断面形状
7. 断面形状
8. 断面形状
9. 断面形状
10. 断面形状
11. 断面形状
12. 断面形状
13. 断面形状
14. 断面形状
15. 断面形状
16. 断面形状
17. 断面形状
18. 断面形状

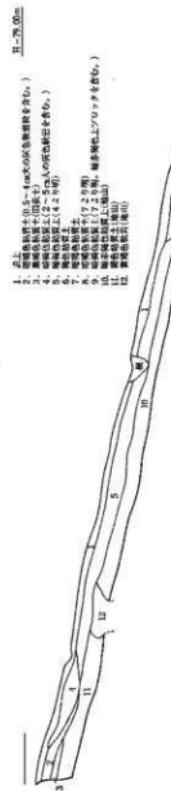
1. 断面形状
2. 断面形状
3. 断面形状
4. 断面形状
5. 断面形状
6. 断面形状
7. 断面形状
8. 断面形状
9. 断面形状
10. 断面形状
11. 断面形状
12. 断面形状
13. 断面形状
14. 断面形状
15. 断面形状
16. 断面形状
17. 断面形状

H = 95.00m
H = 70.00m



第10トレシチ

- 5-5. 深褐色樹皮土 (より硬)、薄褐色樹皮土 (より柔)、1-2cm大的圓錐形結節を多く含む
5-6. 深褐色樹皮土 (より硬)、0.5-2cm大的結節を多く含む
5-7. 深褐色樹皮土 (より硬)
5-8. 深褐色樹皮土 (より硬)
5-9. 深褐色樹皮土 (より硬)
5-10. 深褐色樹皮土 (より硬)



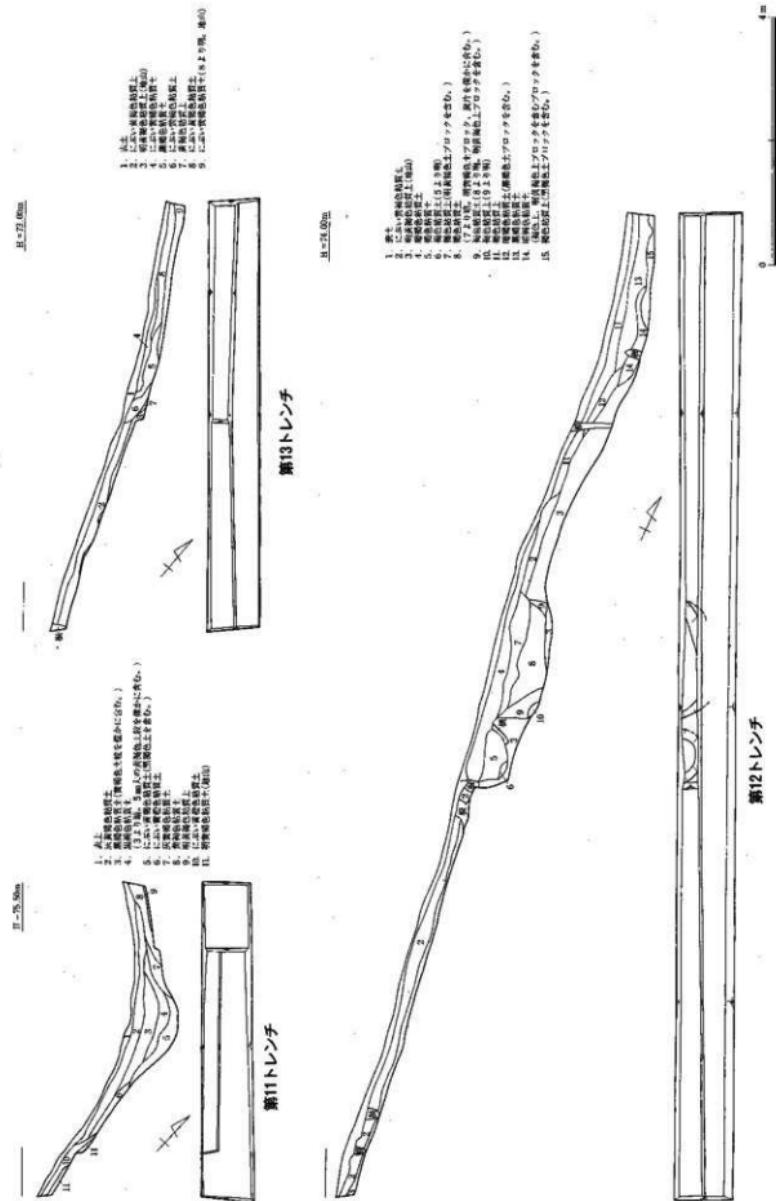
第8トレーナー

1. 黄土。褐色粘质土。
 2. 黄褐色粘质土。
 3. 灰褐色粘土(带褐色上部)。含沙少。
 4. 棕色粘质土(带褐色上部)。含沙少。
 5. 浅褐色粘质土(灰化土)。
 6. 棕色粘质土。
 7. 黄褐色粘质土。



七七四

第37図 宮谷古墳群 第11・第12・第13トレンチ実測図



第8トレンチ(Tr-8) [第35・36図 図版9]

宮谷10~16号墳、古海18号墳が立地する北東へ延びる主稜線のうち、宮谷11、21号墳が分布するとされる平坦面から北東へ下る斜面に設定した 0.6×5.6 mのトレンチである。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は79.10mである。厚さ10cm程度の表土下には暗褐色粘質土(第6層)の堆積がみられ、その下の第7層が地山である。トレンチ上位で旧表土とみられる(第5層)上に厚さ10~20cm程度の盛土(第4層)と周溝(第2~3層)を検出した。遺物は出土しなかった。

第9トレンチ(Tr-9) [第35・36図 図版10]

宮谷10~16号墳、古海18号墳が立地する北東へ延びる主稜線のうち、宮谷11、21号墳が分布する平坦面から宮谷14~16号墳が立地する尾根頂部へと続く鞍部に設定した 0.7×4.0 mのトレンチである。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は77.10mである。厚さ10cm程度の表土下には暗褐色粘質土(第7層)の堆積がみられ、その下の第8、9層が灰色軟岩の地山である。トレンチ南側で、幅1.8m、深さ50cmを測る周溝(第2~5層)を検出した。遺物は出土しなかった。

第10トレンチ(Tr-10) [第35・36図 図版10]

宮谷10~16号墳、古海18号墳が立地する北東へ延びる主稜線のうち、宮谷14~16号墳が立地する尾根頂部に設定した 0.7×4.0 mのトレンチである。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は80.10mである。厚さ10cm弱の表土下は地山(第9、10層)面で、トレンチ東側で、幅2.0m、深さ45cmを測る周溝(第2~8層)を検出した。遺物は出土しなかった。

第11トレンチ(Tr-11) [第35・37図 図版10]

宮谷10~16号墳、古海18号墳が立地する北東へ延びる主稜線のうち、宮谷14~16号墳が分布する標高80m余りの丘陵頂部から、北西に15m程度下って立地する17~19号墳の斜面高位側、標高72.9~75.2mに設定した 0.8×5.2 mのトレンチである。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は75.20mである。厚さ10cm前後の表土下に幅3.4m、深さ1.7mの周溝(第2~6層)と盛土(第8層)を検出した。地山は(第9、11層)である。遺物は、周溝埋土から土師器體部細片2点が出土した。

第12トレンチ(Tr-12) [第35・37・38図 図版10]

宮谷10~16号墳、古海18号墳が立地する北東へ延びる主稜線のうち、宮谷14~16号墳が分布する標高80m余りの丘陵頂部から、北西に15m程度下って立地する17~19号墳の南西緩斜面に設定した 0.9×16.3 mのトレンチである。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は73.80mである。厚さ10cm前後の表土下はにぶい黄褐色粘質土(第2層)で、地山は(第3層)である。第2層を掘り込む土坑2基(第5、6層)と(第7~10層)を検出した。土坑(第5、6層)は深さ38cmで断面碗状、土坑(第7~10層)は深さ70cm、断面逆台形状で底面は平坦である。遺物はトレンチ下位の第11層で弥生時代後期前半の壺口縁部片(第38図1)と同一個体とみられる体部片が出土している。(第38図1)は頸部から屈曲し外反する口縁端部は肥厚して面を成し、端面に2条の凹線をもつ。内面頸部以下にヘラ削りが観察される。

第13トレンチ(Tr-13) [第35・37図 図版10]

宮谷10~16号墳、古海18号墳が立地する北東へ延びる主稜線のうち、宮谷14~16号墳が分布する標高80m余りの丘陵頂部から、北西に15m程度下って立地する17~19号墳の南西緩斜面、第12トレンチの南西張り出し部に設定した 0.8×7.0 mのトレンチである。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は72.60mである。厚さ10cm前後の表土下はにぶい黄褐色粘質土(第2層)で、地山は(第3、9層)である。地山(第9層)上層の第5層で土器細片1点が出土している。



第38図 宮谷古墳群 第12トレンチ
出土遺物実測図

小結

今回調査の対象地域となった宮谷古墳群の北支群は、標高80m前後の北東へ延びる丘陵筋の先端に前方後方円墳である古海18号墳(全長45m)を擁し、南側に13~16号墳とみられる11~17m規模の方墳、11, 12号墳とみられる9m規模の円墳、20m規模の円墳(22号墳か)と、中・大形の方墳および円墳を丘陵筋に配する。立地する丘陵筋からは鳥取平野を南西から眺望でき、古海18号墳の小谷を挟んだ15m北西には前方後方墳である古海36号墳(全長67m)が展開する。

丘陵筋周辺に設定した第6~10トレンチで古墳の周溝を検出した。特に第7トレンチでは平坦面にもかかわらず隣り合う2基の存在が明らかとなった。丘陵筋から下る北西斜面に設定した第11~13トレンチでは、第11トレンチで幅3.4m×深さ1.7mの周溝、第12トレンチで土坑2基、弥生土器の出土、第13トレンチで土器片が出土するなど、古墳以外にも弥生時代の遺構に対して十分な注意が必要である。

第14節 大柄遺跡

大柄遺跡は大柄集落の東側に位置し、野坂川の左岸に形成された平野に立地している。遺跡範囲は東西約1.6km、南北0.8kmの広域にわたる。遺跡の縁辺丘陵上には多くの古墳が築かれ、北西丘陵に柄間古墳群、里仁古墳群、南東丘陵に宮谷、本高、古海、徳尾などの古墳群が立地している。これらの古墳群の中には、因幡最大といわれている柄間1号墳(全長92m)や全長80mを超える里仁29号墳など大型の前方後方円墳が位置している。

今回の調査は、道路整備計画および宅地造成に伴い実施したもので、整備地内の14箇所にトレンチ(第1~14トレンチ)を設定し確認調査を行なった。第1~3、9、10トレンチは市道拡幅整備、第4~7トレンチは鳥取西道路整備、第8トレンチは宅地造成、第11~14トレンチは県道の拡幅整備に伴い実施したものである。

第1トレンチ(Tr-1) [第39・40図 図版11]

大柄遺跡の東側に位置する島集落南西端の畠地に設定した2.0×8.0mのトレンチで、地表面の標高は8.6m前後を測る。地表下約70cmで確認された第24層には釉が施された瓦片や陶磁器片が含まれており、24層から上位は近現代の堆積層である。標高7.1m以下は2~3cm大の円礫を多く含む褐灰色砂層が堆積している。比較的安定した堆積状況が認められる第6、8、9、14層に遺構が存在する可能性が考えられたが遺構は検出されなかった。

遺物は、第11~13層および24層から瓦片、陶磁器片が出土した。

第2トレンチ(Tr-2) [第39・40図 図版11]

第1トレンチの南東32mに設定した1.8×9.1mのトレンチである。地表下50cmあまりに堆積する第6層から上層はかなり搅乱された堆積状況が見られ、近現代の陶磁器類が含まれている。第9層のオリーブ灰色粘質土の下位は砂や粗砂(第16、36層)の堆積が認められる。標高7.65m以下の第6~9層は安定した堆積状況を示しているが、遺構は確認されなかった。

遺物は、搅乱坑の埋土と思われる第14、15層から陶磁器片、第9層から瓦質土器片、15世紀代とみられる青磁片が出土した。

第3トレンチ(Tr-3) [第39・40図 図版11]

第2トレンチから105m南東に設定した2.5×3.9mのトレンチである。畠地へ改変された状況が見られ、第3層から上層がその客土である。第3層以下の土層には2~3cm大の円礫や灰色砂が混じる黒褐色砂質土(第4、6層)が認められ、6層以下には厚さ65cm前後にわたって植物遺体を含む灰色砂(第7層)が堆積している。

遺構、遺物は検出されなかった。



第39図 大柄遺跡 調査トレンチ位置図

第4トレンチ(Tr-4) [第39・41図 図版11]

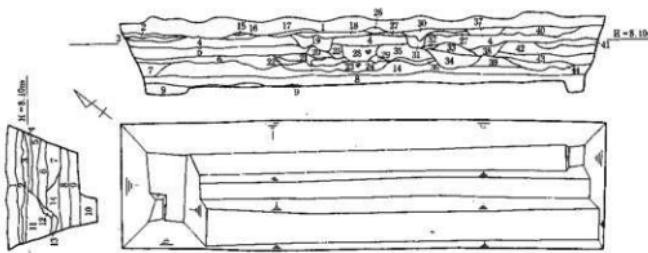
鶴集落の北東水田部に位置し、県道鳥取河原用瀬線から35m南東よりに設定した $3.0 \times 6.0\text{m}$ のトレンチである。地表面の標高は7.4m前後を測る。地表下30cm前後の第3層に染付けの磁器片が含まれることから、その上位層は近世以降の堆積層とみられる。基盤層は標高6.4m以下に堆積する粘土層(第9～11層)と思われる。比較的安定した堆積状況が認められる第4～6層および第8層の上面が遺構面の可能性が考えられたが遺構は検出されなかった。

遺物は、第3層から陶磁器、瓦質土器、須恵器、土師器などの細片が出土した。また、第8層から板状木製品と自然木が出土している。

第5トレンチ(Tr-5) [第39・41図 図版12]

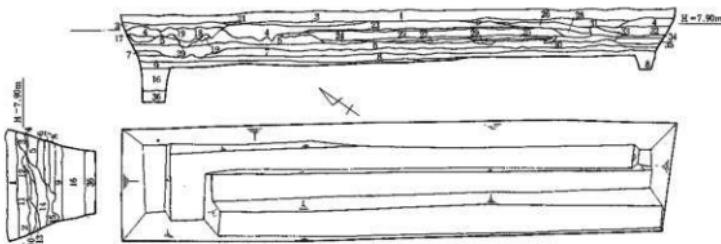
第4トレンチの南東約45mに設定したトレンチである。地表下20cmに堆積する第3層には陶磁器類の細片が含まれる。第4層以下は褐灰色粘土層(第6層)が堆積するが、6層の一部で高さ20cm、上面幅80cmあまりの断面台形状を呈する高まりが検出された。断面観察では土盛した状況は認められず人為的に造成された様子を確認することはできなかった。基盤層は第7層下位の標高6.1m以下に堆積する褐灰色粘土層(第8層)と思われる。第3層下層の4層は厚さ10～20cmにわたって安定した堆積状況が見られ遺構が存在する可能性が考えられたがはっきりした遺構は確認できなかった。

遺物は、第2、3層から陶磁器、瓦質土器、土師器の小片、第7層から板状の木製品が出土した。



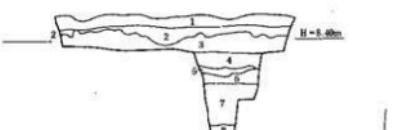
第1トレンチ

1. 鮎色砂質土(耕作土)
2. にじむ真黒色砂質土
3. 灰色シルト(淡青色をブロック状に含む。)
4. 淡青色砂質土
5. 淡青色シルト(淡青色をブロックを含む。)
6. 灰青色シルト(5より弱)
7. 灰色砂質土
8. 黒褐色砂質土
9. 鮎灰色砂質土
10. 黒褐色砂質土(より明、2~3cm大的凹槽を多く含む。)
11. 鮎色砂質土
(5~7cm大的凹槽、木片、鰐灰色土ブロックを含む。)
12. にじむ青褐色砂質土
13. 黒褐色砂質土
14. 鮎灰色砂質土(7より弱)
15. 鮎灰色シルト
16. 鮎褐色砂質土と淡青色砂質の混合層
17. 鮎褐色砂質土
18. 鮎褐色砂質土
19. 鮎褐色砂質土
20. 鮎褐色砂質土
(5~8cm大的凹槽、灰青色砂、鰐色土ブロックを含む。)
21. 鮎褐色砂質土(5より強)
22. 鮎褐色砂質土
23. 鮎褐色砂質土
24. 鮎褐色砂質土
25. 鮎褐色砂質土
26. 鮎褐色砂質土
27. 鮎褐色砂質土
28. 鮎褐色砂質土
(1~2cm大的凹槽、瓦片、角錐形物を含む。)
29. 鮎褐色砂質土
30. 鮎褐色砂質土
31. 鮎褐色砂質土
32. にじむ真黒色砂質土(2より明)
33. にじむ真黒色砂質土(より明)
34. 鮎褐色砂質土
35. 鮎褐色砂質土
36. 鮎褐色シルト
37. 鮎褐色砂質土
38. 鮎褐色砂質土
(1~2cm大的凹槽、瓦片ブロックを多く含む、瓦片立石。)
39. 鮎褐色砂質土(1~2cm大的凹槽立石。より明。)
40. 鮎褐色砂質土
41. にじむ真黒色砂質土(3cm大的凹槽、淡青色を含む。)
42. にじむ真黒色砂質土(3cm大的凹槽、淡青色を含む。)
43. にじむ真黒色砂質土(4より明)
44. 鮎褐色砂質土(38より弱)
45. 鮎褐色砂質土(43より弱)



第2トレンチ

1. 暗褐色砂質土(耕作土)
2. にじむ青褐色砂質土
3. 黑褐色砂質土
4. 灰褐色砂質土
5. 鮎褐色砂質土
6. 鮎褐色砂質土(5より強)
7. 灰褐色砂質土
8. そよぐ灰褐色砂質土
9. 黑褐色砂質土
10. 鮎褐色砂質土
11. 鮎褐色砂質土
12. にじむ青褐色砂質土(1~3cm大的凹槽を含む。)
13. 鮎褐色砂質土(5より弱)
14. 鮎褐色砂質土(鰐灰色土ブロックを含む。)
15. 鮎褐色砂質土(鰐灰色土ブロックを含む。)
16. 鮎褐色砂質土(18より弱)
17. 鮎褐色砂質土
18. 鮎褐色砂質土
19. 鮎褐色砂質土
20. 鮎褐色砂質土
21. 鮎褐色砂質土
22. 鮎褐色砂質土
23. 鮎褐色砂質土
24. 鮎褐色砂質土
25. 鮎褐色砂質土
26. 鮎褐色砂質土
27. 鮎褐色砂質土
28. 鮎褐色砂質土
29. 鮎褐色砂質土
30. 鮎褐色砂質土
31. 鮎褐色砂質土
32. 鮎褐色砂質土
33. 鮎褐色シルト
34. 鮎褐色砂質土
35. 鮎褐色砂質土
36. 鮎褐色砂質土

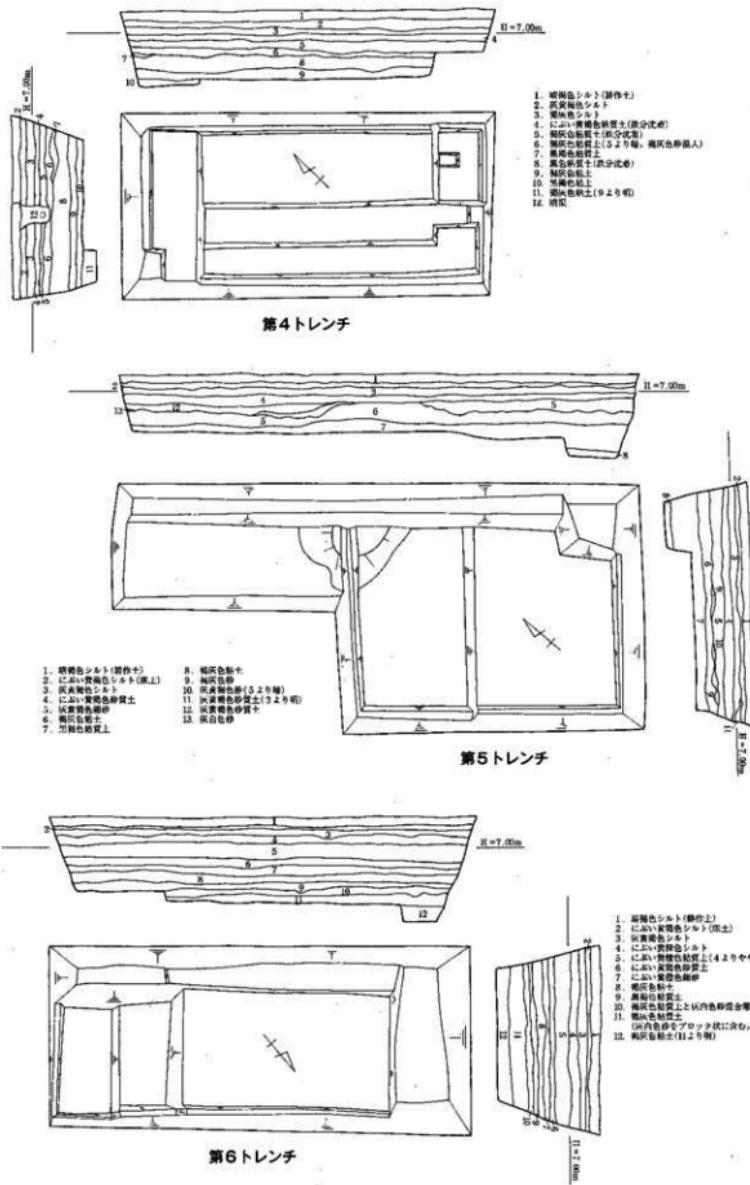


第3トレンチ

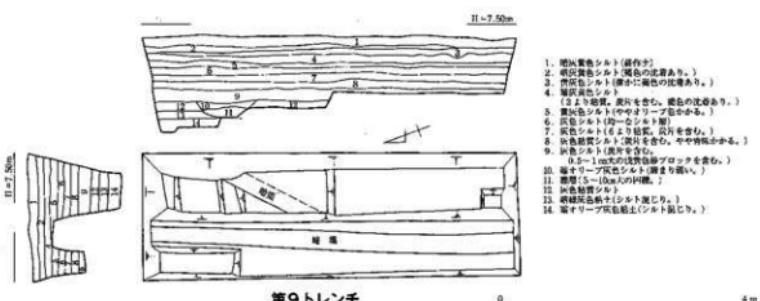
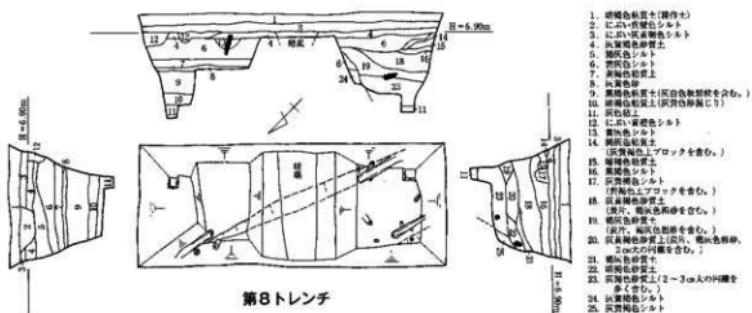
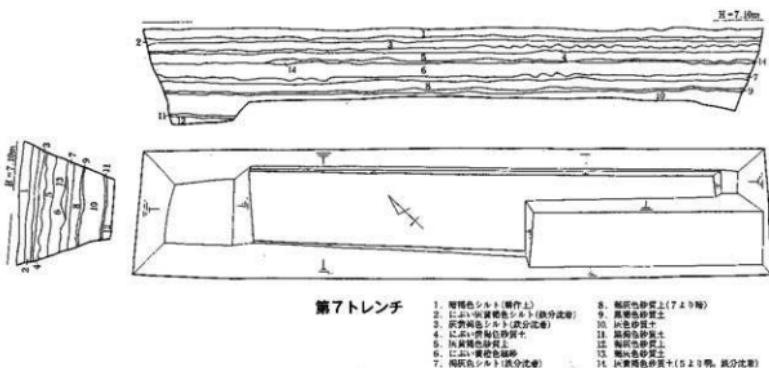
1. 暗褐色砂質土(耕作土)
2. 鮎褐色砂質土(2より弱)
3. 鮎褐色砂質土(3)
4. 鮎褐色砂質土(2~3cm大的凹槽を含む。)
5. 灰褐色砂質土
6. 鮎褐色砂質土(鰐灰色土ブロックを含む。4より弱)
7. 鮎褐色砂質土
8. 鮎褐色砂質土(鰐灰色土ブロックを含む。)
9. 鮎褐色砂質土(鰐灰色土ブロックを含む。4より弱)

0 4m

第40図 大掛遺跡 第1・第2・第3トレンチ実測図



第41図 大柄遺跡 第4・第5・第6トレンチ実測図



第42図 大柄遺跡 第7・第8・第9トレンチ実測図

第6トレンチ(Tr-6) [第39・41図 図版12]

第5トレンチの南東約55mの水田に設定した3.0×7.0mのトレンチで、地表面の標高7.4m前後を測る。第2層が床土で陶磁器類が含まれている。第2層下層の3～6層はおむね安定した堆積状況がうかがわれるが遺構は認められない。第6層の下位はにぶい黄橙色の細砂層で、その下層から粘土層や粘質土層に変わり、第10、11層には灰白砂が混入する。8～11層から遺構は検出されなかった。基盤層は標高6.0m以下に堆積する褐灰色粘土層と思われる。

遺物は、第2層から陶磁器、瓦質土器、須恵器、第3層から瓦質土器、土師器などの細片が出土している。

第7トレンチ(Tr-7) [第39・42図 図版12]

第6トレンチの南東約80mに位置し、野坂川の北西90mに設定した2.0×10.2mのトレンチである。北西側に設定した第4～6トレンチの層序とは異なり全体に砂質系の土砂が堆積している。地表下50cm前後で認められる灰黄橙色細砂(第6層)は厚さ25cm前後にわたって堆積し、その下層には褐灰色砂質土(第8層)、灰色砂質土(第10層)、黒褐色砂質土(第9、11層)などの堆積層が認められる。北西に位置する第4～6トレンチでは標高6.0m前後で基盤とみられる粘土層が認められたが、第7トレンチでは同様の粘土層は確認されなかった。野坂川の氾濫の影響を受けている可能性も考えられる。

遺構、遺物は検出されなかった。

第8トレンチ(Tr-8) [第39・42図 図版12]

第4トレンチから北東約130mの水田に設定した2.0×5.0mのトレンチである。第4層の下位から現代の瓦などを含む水路が検出されたことから、第6層から上層は現代の堆積層といえる。基盤層は第11層の灰色粘土層とみられ、その上層には暗褐色粘質土(第10層)や黒褐色粘質土(第9層)などの堆積が見られる。第9、10層の堆積状況は第4トレンチ下層の層序と類似している。

遺構は、第6層の下位から幅1.4m、深さ1.1mの水路が検出された。水路壁の直下には自然木を並べ杭で固定した構造物が残っている。埋土にはガラス、陶磁器類、瓦などが含まれており、ほ場整備前の用水路とみられる。近世以前の遺構は検出されなかった。

遺物は、用水路内遺物のほか、第7層から煙管、第8層から棒状木製品が出土している。

第9トレンチ(Tr-9) [第39・42図 図版12・13]

鳩集落の東側隣接地の水田に設定した2.0×6.0mのトレンチである。現地表の標高は7.3m前後を測る。地表下約1.0mからほ場整備以前のものと思われる暗渠施設が検出され、その埋土に釉の施された瓦が含まれている。上位の第8、9層あたりが旧水田に伴う堆積層とみられる。基盤層は、標高6.1m以下で認められる粘土層(第13、14層)と思われる。

遺構は検出されなかった。遺物は、暗渠埋土から出土した瓦片1点と第7層から出土の陶器片1点である。

第10トレンチ(Tr-10) [第39・43図 図版13]

第9トレンチの南約110m、第3トレンチから北東50mの水田に設定した2.0×6.0mのトレンチである。現地表の標高は7.7mあまりを測る。地表下70cm前後に堆積する灰色シルト層(第21層)から寛永通宝が出土したことから、21層から上層は近世以降の堆積層と考えられる。

遺構は、第21層上面から幅約90cm、深さ40cmあまりの溝状遺構(SD-01)を検出した。SD-01の埋土からは無釉瓦片や陶磁器類が多数出土しており、出土遺物から江戸時代中期～後期の溝の可能性が考えられる。近世以前の遺構は検出されなかった。

遺物は、SD-01出土遺物のほか、第4層から陶磁器、須恵器、土師器などの細片とヘラ状の真鍮製品、21層から寛永通宝、22、23層から唐津の皿、備前の擂鉢、24層から瓦質鍋、土師器などの破片が出土した。

第11トレンチ(Tr-11)〔第39・43図 図版13〕

第1トレンチの北西約80mの水田に設定した $2.0 \times 7.0\text{m}$ のトレンチである。現地表の標高は8.0m前後を測る。地表下30cmの第4層にガラス片が含まれており、その上層は現代の堆積層といえる。第4層以下の7、8、9層は安定的な堆積状況がうかがわれるが、第7～9層からははっきりした遺構は確認されなかった。標高6.7m以下に堆積する粘土層(第13、14層)が基盤になるものと思われる。

遺構は、第10層下位で溝状遺構(SD-01)が検出された。SD-01は粘土層を掘り込んでつくられており、深さ30cm前後を測る。溝からの出土遺物はなく時期は不明であるが、7、8層出土遺物からみて古墳時代か古墳時代を若干遡る時期の遺構と推測される。

遺物は、第4層からガラス、陶磁器、須恵器、土師器などの小片と、第7、8層から須恵器片2点、土師器片2点が出土した。

第12トレンチ(Tr-12)〔第39・43図 図版13・14〕

第4トレンチの南西約100mの水田に設定した $3.0 \times 8.8\text{m}$ のトレンチである。現地表の標高は7.4m前後を測る。床土である第3層の下層はおむね整然とした堆積層が見られ、標高6.5m以下の粘土層(第8、9、10層)が基盤になるものと思われる。

遺構は検出されなかった。遺物は、第7層から須恵器片、土師器片がそれぞれ1点出土した。

第13トレンチ(Tr-13)〔第39・44図 図版14〕

第4トレンチの北西約50mの水田に設定した $3.0 \times 20.2\text{m}$ のトレンチである。現地表の標高は7.3m前後を測る。第3層が床土である。第3層から下層は整然とした堆積状況が見られ、標高6.2m以下に粘土層(第10、11、12層)が堆積している。これらの粘土層が基盤になるものと思われる。第5～8層の上面で精査を行ったが明確な遺構は検出されなかった。

遺物は、第6層から土師器片2点、第7層から弥生土器片5点が出土した。

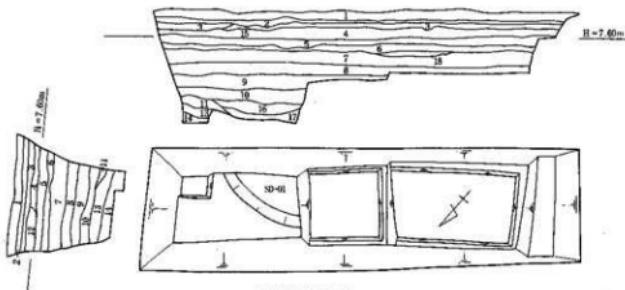
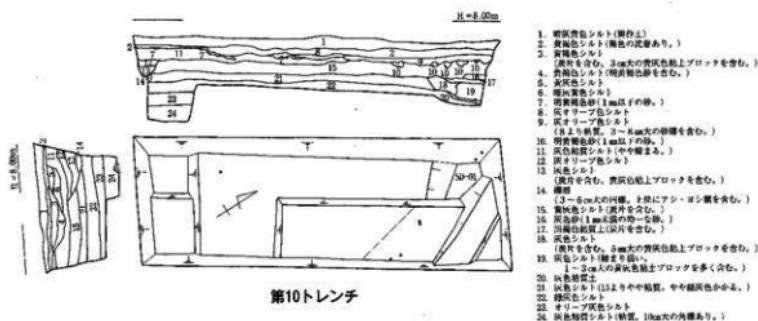
第14トレンチ(Tr-14)〔第39・44図 図版14〕

第8トレンチの北約90mに設定した $3.0 \times 7.0\text{m}$ のトレンチである。現地表の標高は6.7m前後を測る。地表下約70cmまでの第1～4層は宅地造成に伴う客土で、ガラス瓶や陶磁器片が含まれている。第4層以下は比較的安定した層序が見られ、遺構が存在する可能性が考えられたがはっきりした遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

小結

鶴集落周辺の平野部に14箇所の調査トレンチを設定して確認調査を行なった。調査の結果、第10トレンチから近世の溝が検出されたが、近世以前の遺構については第11トレンチから検出した溝状遺構のみである。出土遺物も少なく、近世以降の堆積層から出土した陶磁器類や土師器、須恵器などの細片を除けば、第9トレンチ9層から出土した青磁、瓦質土器、第6トレンチ3層の瓦質土器、土師器、第10トレンチ24層の土師器、第11トレンチの7、8層から出土した須恵器、土師器、第12トレンチ7層の須恵器、土師器、第13トレンチ6、7層から検出した土師器、弥生土器などの小片に限られ、出土量はそれぞれのトレンチから数点程度の出土にとどまっている。

今回の調査対象地は広範囲に展開する大柄遺跡の北東部に位置するが、鶴集落の北東側水田部(第4～8、12～14トレンチ)については明確な遺構も認められず、遺物の出土状況などから推察しても集落遺跡が展開する可能性はかなり低いものと思われる。ただし、立地的には水田遺跡が存在する可能性は十分考えられることから注意を要する地域といえる。



第11トレンチ

1. 濃縮食塩水(タリウム)

2. 食用油

3. 食用油

4. リンゴ酢

5. リンゴ酢

6. リンゴ酢

7. リンゴ酢

8. リンゴ酢

9. リンゴ酢

10. 濃縮食塩水(タリウム)

11. 食用油

12. 食用油

13. 食用油

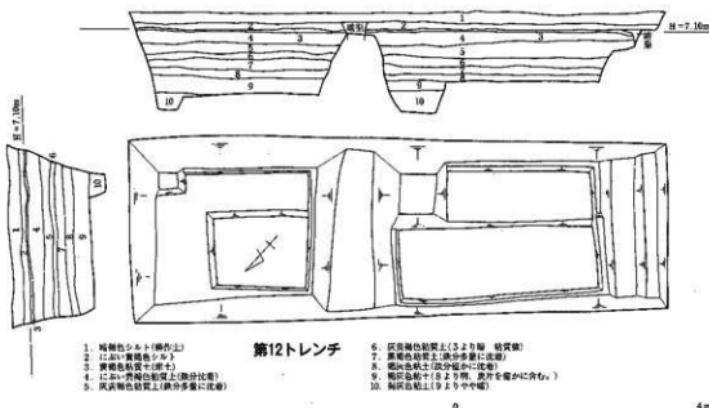
14. 食用油

15. 食用油

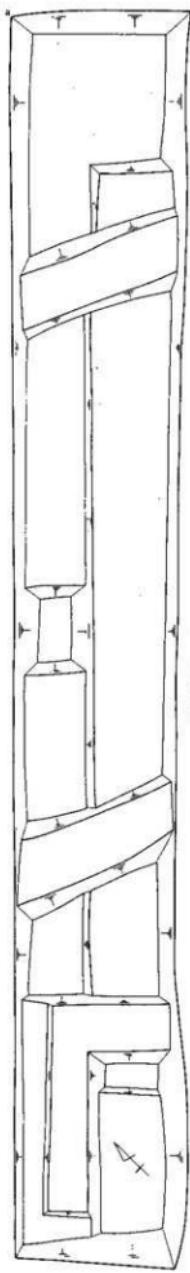
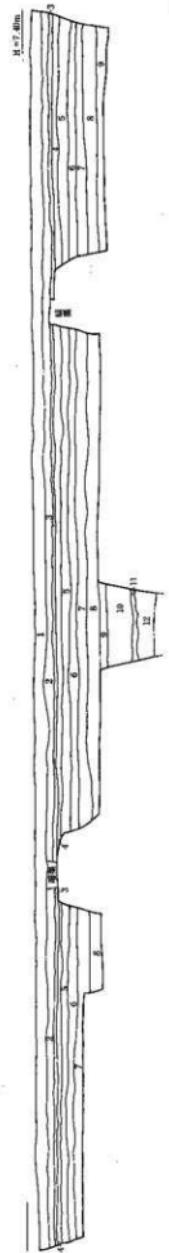
16. リンゴ酢

17. リンゴ酢

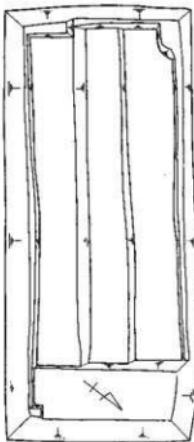
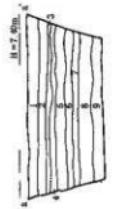
18. 食用油



第43図 大柄遺跡 第10・第11・第12トレンチ実測図



第13トレント



十一
卷之三
唐宋元
明

第44図 大掛羽跡 第13：第14トレンチ発掘図

第15節 東桂見遺跡

東桂見遺跡は、湖山池南東の鳥取市桂見地内に所在し、三谷集落東側の布勢鶴指奥丘陵までの平野部から南側一帯に広がる小規模な谷合部にかけて展開する低湿地遺跡である。周辺には同様な低湿地遺跡として、東側に布勢第1遺跡が、西側に桂見遺跡が所在する。いずれも縄文時代後期を中心とし、発掘調査により木組みを持った水路や朱漆塗りの壺や丸木舟の相次ぐ出土など、全国的にも有名な遺跡である。また、周辺の丘陵では弥生時代の住居跡や弥生墳丘墓、古墳、中世墓などが調査されており、各種時代の遺跡が集中する遺跡密度の高い地域となっている。

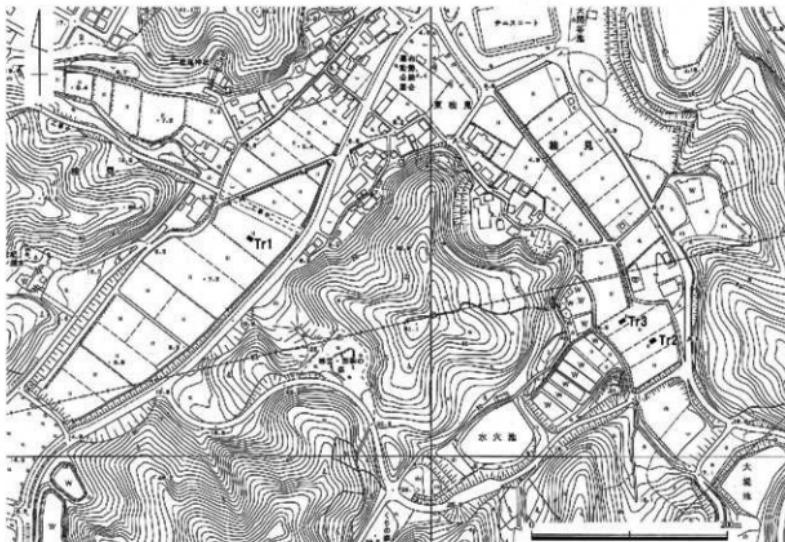
今回の調査は、鳥取西道路整備計画に伴い実施したもので、計画路線内に計3箇所の試掘トレンチを設定した。

第1トレンチ(Tr-1) [第45・46・48図 図版14・15]

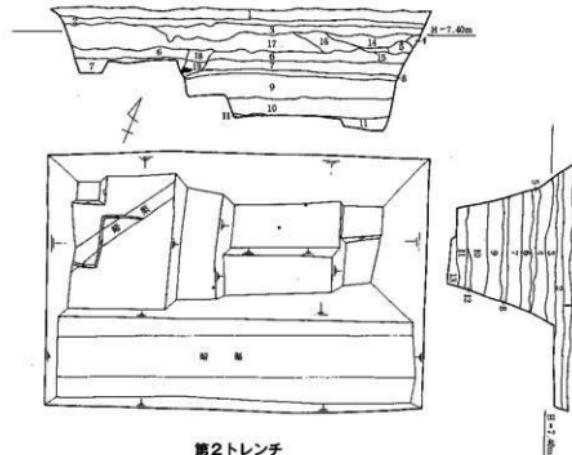
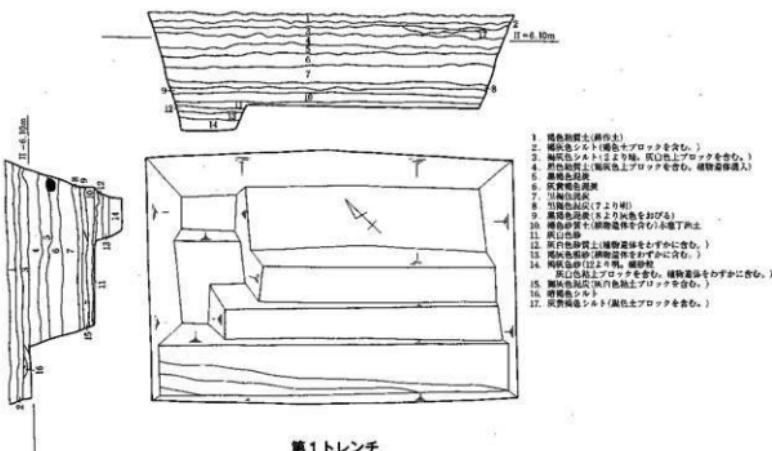
三谷集落南西の出会いの森公園へ通じる幅130mほどの小谷の中央部、字本谷口地区北側の水田に設定した4.0×6.0mのトレンチである。地表面の標高は6.52mを測る。地表下1.94mの標高4.58mまで掘り下げを行った。暗渠(第16、18層)が掘り込まれる褐灰色シルト(第3層)は土師器皿片や陶磁器(第48図1)(第48図2)を含む。その下の黒色粘質土(第4層)に板片や棒状木製品(第48図4)(第48図5)を含む。第5～9層および第15層が泥炭層である。泥炭層下の第10層から木庵丁(第48図3)が出土している。遺構は検出されなかった。

第2トレンチ(Tr-2) [第45・46・48図 図版14・15]

三谷集落南東の大柄へ通じる谷中程の、西側に開けた小谷の谷口部の水田に設定した4.0×6.2mのトレンチである。35m北西に第3トレンチが配置する。地表面の標高は7.81mを測る。地表下2.06mの標高5.74mまで掘り下げを行った。第3～17層は真砂土を含む客土でガラス、瓦、瓦質土器、陶磁器片を含む。このうち瓦質の蓋(第48図6)鍋(第48図7)を同化した。暗渠(第18、19層)が褐灰色シルト(第6層)を掘り込む。第6層は須恵器、土師器、陶磁器片を含む。その下の黒色粘質土(第7層)および第8層で土師器片、土師器皿片を含む。第9、10層が泥炭層である。遺構は検出されなかった。



第45図 東桂見遺跡 調査トレンチ位置図



第46図 東桂見遺跡 第1・第2トレンチ実測図

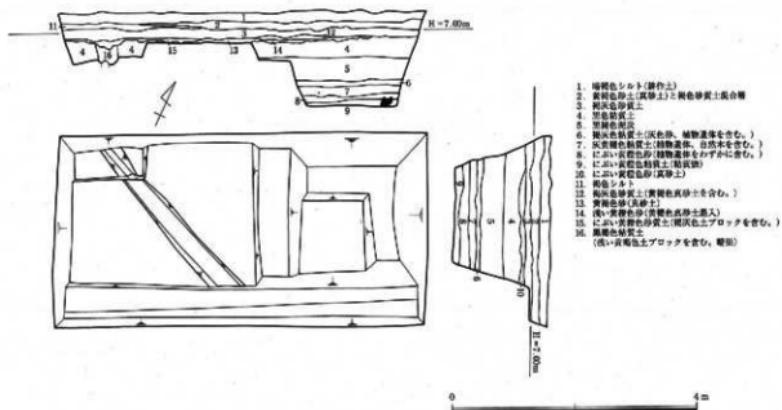
第3トレンチ(Tr-3) [第45・47・48図 図版14・15]

三谷集落南東の大沢へ通じる谷中程の、西側に開けた小谷の谷口部の水田に設定した3.1×6.0mのトレンチである。35m南東に第2トレンチが配置する。地表面の標高は7.34mを測る。地表下1.57mの標高5.77mまで掘り下げを行った。耕作土下は第2、3、10~13層が真砂土を含む客土である。暗渠(第15、16層)が黒色粘質土(第4層)を掘り込む。第4層から土師器片、土師器皿(第48図8)、板状および棒状木製品が、第5層が泥炭層である暗渠埋土の第16層から土師器片が出土している。(第48図8)は径8.7cmを測る手づくねの小皿で口縁屈曲部外面に指おさえが顕著である。遺構は検出されなかった。

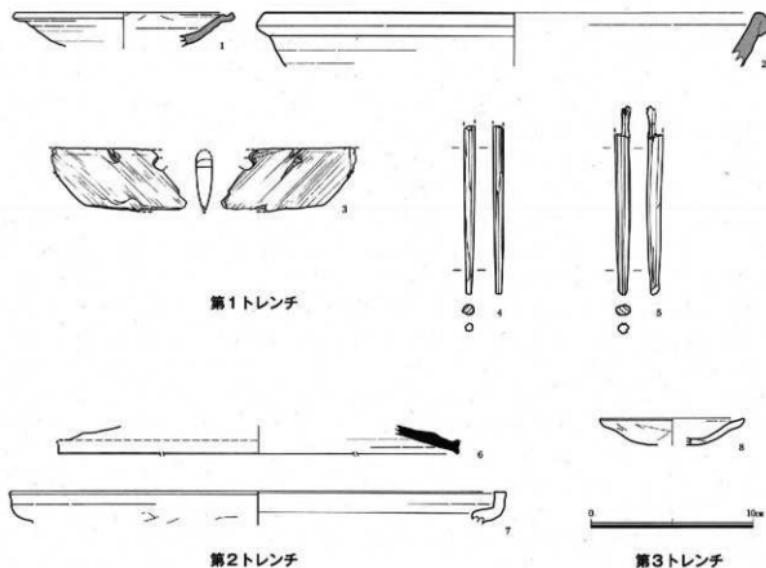
小結

東桂見遺跡は、三谷集落の東側平野部および南側の入り江状に広がる小谷部に展開する遺跡である。これまでに、三谷集落東側の坂畠ヶ・狐殺地区で1991年(平成3)布勢総合運動公園整備工事、家ノ前地区で1995年(平成7)とつとり出会いの森整備に伴う調査が行われている。坂畠ヶ・狐殺地区では弥生~古墳時代の遺物包含層(標高1m前後)を確認し、家ノ前地区では泥炭層(標高3.8m前後)中に中近世の遺物包含層、古墳時代後期の立枯れ木株(標高3.2m前後)、弥生後期後半~古墳前期の木器溜り(標高2.4~3.2m)を検出している。

今回調査した第1~3トレンチは、泥炭層から上位層はほぼ同様な層序で、第2、3トレンチでは水田整備の際の真砂土を含む客土が多くなる。褐色シルトが中近世の遺物包含層、その下の黒色粘質土(第1トレンチ-標高6.2m、第2・3トレンチ-標高6.9m)が中世の遺物包含層である。泥炭層(第1トレンチ-標高6m、第2・3トレンチ-標高6.7m)以下は、第1トレンチでは灰白色および褐色砂質土および砂、第2・3トレンチでは褐色粘質土、褐色砂と続く。泥炭層は谷奥部まで認められ、第1トレンチではその下層に弥生時代の遺物を含むことが判明した。



第47図 東桂見遺跡 第3トレンチ実測図



第48図 東桂見遺跡 第1・第2・第3トレンチ出土遺物実測図

第16節 桂見榎ヶ坪古墳群

桂見榎ヶ坪古墳群は、三谷集落南の出会いの森公園へ通じる谷(家ノ前～本谷口地区)と大柄へ通じる谷(東村土居～鍋山地区)とを隔てる頂部標高51.1mを測る丘陵(東村土居、榎ヶ坪、水穴地区)に展開する。北側周辺の湖山池を望む丘陵上には数多くの古墳や弥生時代の埴丘墓が分布するが、これまであまり注目されてこなかった地域である。しかし近年の分布踏査から、21基の古墳が分布するとされている。なお、100m南東に位置する水穴谷を隔てた小尾根では、1995年(平成7)に桂見17～21号墳の調査が行われている。

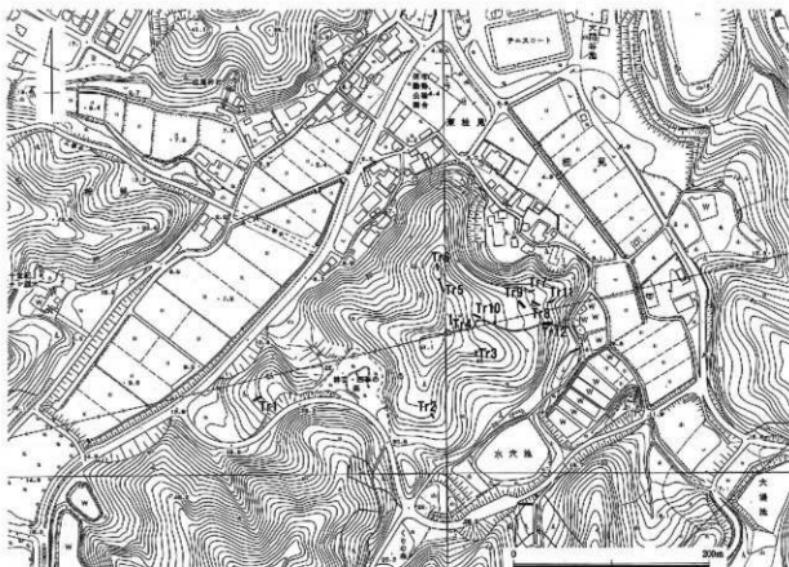
今回の調査は、第1～3トレンチが鉄塔移転関連調査、第4～12トレンチが鳥取西道路整備計画に伴い実施したもので、計画路線内に計12箇所の試掘トレンチを設定した。

第1トレンチ(Tr-1) [第49・50図 図版15]

出会いの森公園へ通じる谷(本谷口地区)の中程の南東側に開けた小谷の南西斜面に設定した 2.0×8.7 mのトレンチである。移設前の鉄塔から20m南西の位置にあたる。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は27.76mである。厚さ10cm程度の表土下には明黄褐色粘質土(第2層)の堆積がみられ、その下の第3層が橙色粘質土の地山である。トレンチの北側を中心に近代陶器やビニール・針金を含む肥料穴、搅乱穴を検出した。

第2トレンチ(Tr-2) [第49・50図 図版15]

水穴池を見下ろす尾根筋の南東斜面に設定した 1.0×8.4 mのトレンチである。林芸・四季の森から60m南東の位置である。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は46.12mである。厚さ10cm前後の表土下にはぶい黄褐色砂質土(真砂土)の地山である。遺構や遺物は検出されなかった。



第49図 桂見櫻ヶ坪古墳群 調査トレンチ位置図

第3トレンチ(Tr-3)【第49・50図 図版16】

水穴池を見下ろす尾根筋に直交方向の南斜面に設定した $1.1 \times 9.4\text{m}$ のトレンチである。移設前の鉄塔から30m南東の位置にある。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は43.26mである。厚さ8cm前後の腐葉土下は明赤褐色軟岩(第2層)の地山である。トレンチ上位で赤褐色軟岩、にぶい黄橙色砂質土(真砂土)、黄褐色砂質土(真砂土)のいずれも地山を確認した。遺構、遺物は検出されなかった。

第4トレンチ(Tr-4)【第49・50図 図版16】

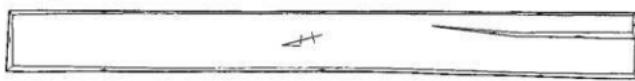
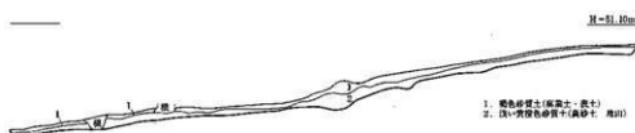
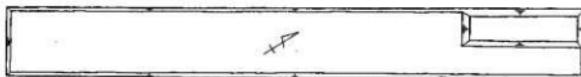
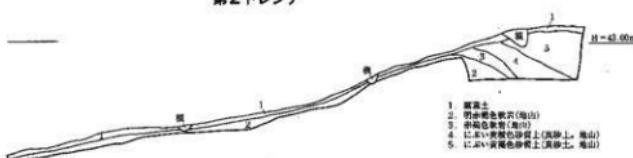
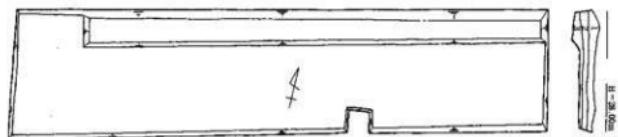
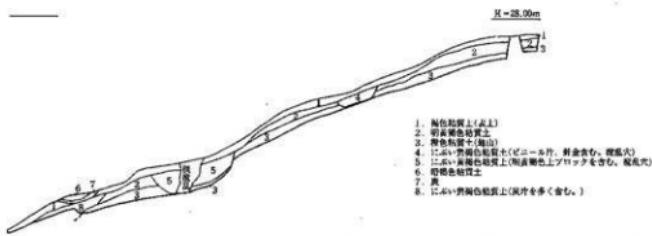
東村土居、櫻ヶ坪、水穴地区を介する標高51.5mの丘陵頂部から20m下った北へ延びる尾根筋に設定した $1.0 \times 10.3\text{m}$ のトレンチである。移設前の鉄塔から5m北東の位置である。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は50.78mである。厚さ3~10cm程度の表土下は浅黄橙色砂質土(第2層:真砂土)の地山である。遺構、遺物は検出されなかった。

第5トレンチ(Tr-5)【第49・51図 図版16】

標高51.5mの丘陵頂部から北へ延びる尾根筋に設定した $1.5 \times 14.1\text{m}$ のトレンチである。第4トレンチから北へ25m下った尾根筋の鞍部にある。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は40.20mである。厚さ15cm前後の表土下は黄橙色砂質土(第2層:真砂土)の地山である。遺構、遺物は検出されなかった。

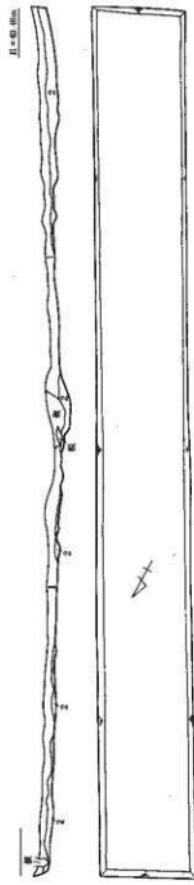
第6トレンチ(Tr-6)【第49・51図 図版16】

標高51.5mの丘陵頂部から北へ延びる尾根筋に設定した $0.9 \times 7.5\text{m}$ のトレンチである。第5トレンチから8m北の尾根頂部から下る位置である。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は41.75mである。厚さ7~18cm前後の表土下はにぶい黄橙色砂質土(第2層:真砂土)の地山である。遺構、遺物は検出されなかった。



0 4m

第50図 桂見塚ヶ坪古墳群 第1・第2・第3・第4トレンチ実測図

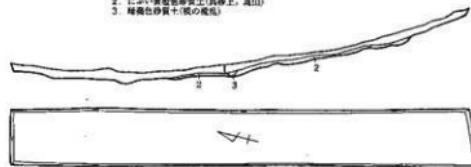


第5トレンチ

1. 黄褐色シルト(表面土・表土)
2. 黄褐色砂質土(表土・地山)

1. 黄褐色砂質土(表面土・表土)
2. に高い黄褐色砂質土(表土・地山)
3. 灰褐色砂質土(表土の複合)

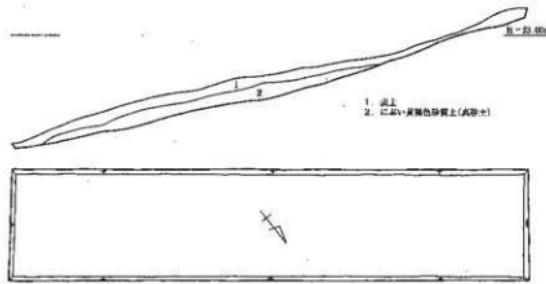
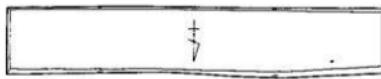
H = 42.30m



第7トレンチ

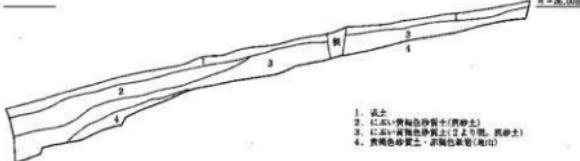
1. 灰褐色土
2. 黄褐色シルト(表土)
3. に高い黄褐色砂質土
4. 灰褐色シルト(底の複合)
5. 黄褐色砂質土(地山)

H = 27.90m

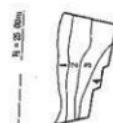


1. 表土
2. に高い黄褐色砂質土(表土・地山)

H = 32.00m



1. 表土
2. に高い黄褐色砂質土(表土・地山)
3. に高い黄褐色砂質土(より低、表土)
4. 黄褐色砂質土・灰褐色土(地山)



4m

第9トレンチ

第51図 桂見櫻ヶ坪古墳群 第5・第6・第7・第8・第9トレンチ実測図

第7トレンチ(Tr-7) [第49・51・52図 図版16・27]

標高51.5mの丘陵頂部から東へ延びる尾根の緩斜面のうち、崖手前の平坦部に設定した 1.0×6.2 mのトレンチである。南側12~18m周辺に第8、9、11トレンチが配置する。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は27.65mである。根の搅乱(第4層)が多く、厚さ8cm程度の表土下にはにぶい黄褐色砂質土(第3層)で、その下の黄褐色砂質土(第5層)が地山である。トレンチ北西端の第3層中で弥生時代後期前半の壺(第52図1)が出土した。口径12.9cm、口縁端部は肥厚して端面をもち端面に2条の凹線、浮文状のものが観察されるが遺存状態が悪く明確ではない。遺構は検出されなかった。

第8トレンチ(Tr-8) [第49・51図 図版16]

標高51.5mの丘陵頂部から東へ延びる尾根の緩斜面に設定した 1.8×8.4 mのトレンチである。移設前の鉄塔から35m北東に位置する。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は29.40mである。厚さ6~20cmの表土下にはにぶい黄褐色砂質土(第2層:真砂土)で、その下の明黄褐色・赤褐色軟岩(第3層)が地山である。遺構、遺物は検出されなかった。

第9トレンチ(Tr-9) [第49・51図 図版16]

標高51.5mの丘陵頂部から東へ延びる尾根の緩斜面に傾斜に対し直交方向に設定した 1.8×8.7 mのトレンチである。12~23m周辺に第7、8、11、12トレンチが配置する。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は31.58mである。厚さ15cm前後の表土下にはにぶい黄褐色砂質土(第2、3層:真砂土)で、その下の黄褐色砂質土・赤褐色軟岩(第4層)が地山である。遺構、遺物は検出されなかった。

第10トレンチ(Tr-10) [第49・53図 図版16]

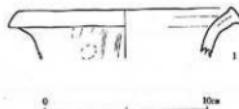
標高51.5mの丘陵頂部から東へ延びる尾根の緩斜面に設定した 1.3×7.6 mのトレンチである。5~16m周辺に第7、9、11、12トレンチが配置する。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は40.36mである。厚さ20cm前後の表土下にはにぶい黄褐色砂質土(第2層:真砂土)で、その下の黄褐色・赤褐色軟岩(第3層)が地山である。遺構、遺物は検出されなかった。

第11トレンチ(Tr-11) [第49・53図 図版17]

標高51.5mの丘陵頂部から東へ延びる尾根の緩斜面からやや傾斜が急となる谷への変換部に設定した 1.1×14 mのトレンチである。上位に第7、8、12トレンチが6~20m離れて配置する。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は23.12mである。当初長さ6.3mに設定したトレンチであったが、掘り下げ後、軸を東へ振って上位側にトレンチを拡張した。厚さ8~20cmの表土下にはにぶい赤褐色砂質土(第2層:真砂土)、にぶい黄褐色砂質土(第3層:真砂土)で、その下の黄褐色・赤褐色軟岩(第4層)が地山である。遺構、遺物は検出されなかった。

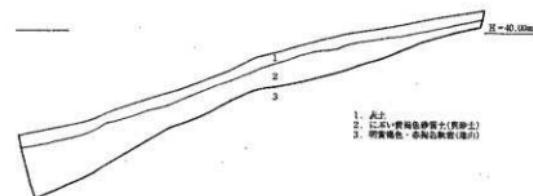
第12トレンチ(Tr-12) [第49・53図 図版17]

標高51.5mの丘陵頂部から緩やかに下る谷の裾部に設定した 2.0×8.5 mのトレンチである。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は15.45mである。頂部近くに設置された鉄塔への管理道北沿いに位置し、さらに北側15~33mに第7~9、11トレンチが配置する。厚さ20cm程度の表土下は、明褐色砂質土(第2層:真砂土)、黄褐色砂質土(第3層:真砂土)で、同質のにぶい黄褐色砂質土(第9、10層)と続く。トレンチ上位で黒褐色粘質土(第4層)を掘り込み平坦な面をもつ段状遺構、下位でも褐色砂質土(第13層)上面で同じく段状遺構を検出した。さらに下層の褐色粘質土(第8層)上面でピット3基(P-01~03)を検出した。P-01は径36cm×深さ33cmで柱痕跡状の土層断面を観察、P-02は遺存径10cm×深さ33cm、P-03は未掘で直径25cm、いずれも埋土は黒色~黒褐色粘質土である。遺物は表土中から瓦、陶磁器片、第2、3層で土師器皿片、第4~9層上面で小形砥石、須恵器、土師器片、第4、9層および下層で須恵器、土師器片、P-01から須恵器壺壺類の体部片が出土している。

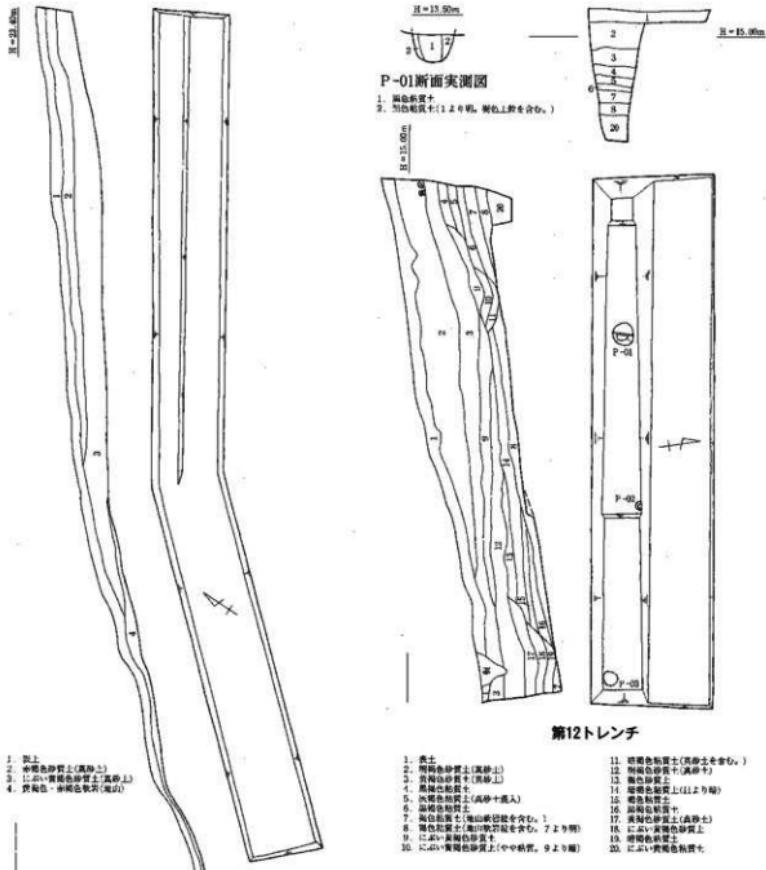
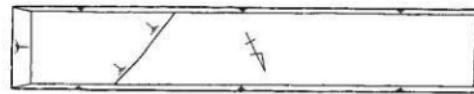


第52図 桂見櫻ヶ坪古墳群

第7トレンチ出土遺物実測図



第10トレンチ



第53図 桂見櫻ヶ坪古墳群 第10・第11・第12トレンチ実測図

小結

桂見榎ヶ坪古墳群は、東桂見遺跡を見下ろす三谷集落南側丘陵部(榎ヶ坪・東村土居・水穴地区)に展開する。北西あるいは北東前面に広がり弥生墳丘墓や古墳、中世墓が分布する下地谷ノ二・西谷丘陵および鶴指奥丘陵と異なりこれまでに調査例はない。尾根筋の頂部を中心に小規模な古墳状の隆起が認められ、現在21基の古墳が登録されている。

今回調査した第1～12トレンチのうち、第1～3トレンチは鉄塔移設場所の遺跡の確認であり、尾根筋からやや外れた位置であることもあって、当該期の遺構・遺物は確認されなかった。第4～6トレンチは、東桂見平野をほぼ正面から望む尾根筋にありこの丘陵において古墳の立地としては最良の位置にある。分布踏査で対象地内に7基の古墳が分布するとされるが、いずれも古墳とは認められなかった。第7～12トレンチは、標高51.1mの頂部から北東へ下る緩やかな斜面および谷部に位置し、真砂土土壤ということもあり流失や崩れで堆積したような地形が随所に観察された。第7トレンチでは地表面下20cm弱で弥生土器が出土したが古墳に関わるような遺構は確認されなかった。第12トレンチでは、谷部にあたることから上部から大量の真砂土の堆積が認められ、地表面下1.1mで段状遺構2基、同1.4mでピット3基を検出した。このように、今回調査によって古墳の発見には至らなかったが、集落などの分布にも引き続き注意が必要な地域である。

第17節 桂見古墳群

桂見古墳群は、瀬山池南東岸の低丘陵に分布する古墳群である。三谷集落背後の丘陵から高住との境界部丘陵にかけて展開し、倉見古墳群や西桂見遺跡と接する。これまでに28基の古墳が登録されており、発掘調査によって弥生時代後期から古墳前期、中期、後期と各期の様相が少しづつ明らかになってきている。特に1983年(昭和58)、古墳前期の長辺28m×高さ4.5mの規模をもつ桂見2号墳で長さ5.5mの長大な木棺から銘文入りの船載鏡二面が出土し大きな話題となった。また、瀬山池南岸の桂見古墳群周辺の丘陵上には、布勢、西桂見、倉見、高住、良田、松原古墳群など、各期にわたり古墳が数多く分布する他、桂見周辺の平野部には布勢第1、東桂見、桂見遺跡など縄文時代後期に代表される低湿地遺跡が広がる。

今回の調査は、鳥取西道路整備計画に伴い実施したもので、宮ノ谷と石ノ谷地区にまたがる標高60.9mから東へ延びる尾根筋周辺が対象地であり、計画路線内に計5箇所の試掘トレンチを設定した。



第54図 桂見古墳群 調査トレンチ位置図

第1トレンチ(Tr-1) [第54・55図 図版17]

二十世紀ナシ親木広場の北側丘陵のうち、宮ノ谷・石ヶ谷地区境界の古墳が立地する標高43mの尾根頂部から東へ下る尾根筋に設定した $1.1 \times 8.9\text{m}$ のトレンチである。調査地は雑木林で、トレンチ高所の標高は40.55mである。厚さ15cm程度の表土下は黄橙色砂質土(第2層:真砂土)の地山である。地山加工痕や遺構、遺物は検出されなかった。

第2トレンチ(Tr-2) [第54・55図 図版17・18]

二十世紀ナシ親木広場の北側丘陵のうち、宮ノ谷・石ヶ谷地区境界の古墳が立地する標高43mの尾根頂部から東へ下る尾根筋、第1トレンチの東隣に設定した当初 $1.0 \times 10.0\text{m}$ のトレンチである。調査地は雑木林で、トレンチ高所の標高は42.28mである。一部に根の搅乱による窪みが観察されたが、厚さ10cm前後の表土下は黄橙色砂質土(第4層:真砂土)の地山である。トレンチ西側で地山の落ち込みが観察され、北側へ0.6m幅と西側 $3.1 \times 3.2\text{m}$ 範囲を拡張した。その結果、長さ $8.4 \times$ 幅 3.85m 、高さ1.4mのL字形の段状遺構が検出された。壁面の立ち上がりは比較的急で底面はほぼ平坦、壁溝は認められなかった。埋土は明褐色シルト(第5層)、黄褐色シルト(第6層)など真砂土系の砂質土である。遺物がみられず、時期や性格は不明である。

第3トレンチ(Tr-3) [第54・55図 図版18]

二十世紀ナシ親木広場の北側丘陵のうち、宮ノ谷・石ヶ谷地区境界の古墳が立地する標高43mの尾根頂部から東へ下る尾根筋に設定した $1.7 \times 9.8\text{m}$ のトレンチである。調査地は雑木林で、トレンチ高所の標高は40.55mである。厚さ15cm程度の表土下は黄橙色砂質土(第2層:真砂土)の地山である。地山加工痕や遺構、遺物は検出されなかった。

第4トレンチ(Tr-4) [第54・56図 図版18]

二十世紀ナシ親木広場の北側丘陵のうち、宮ノ谷・石ヶ谷地区境界の古墳が立地する標高43mの尾根頂部から東へ下る尾根筋に設定した $1.0 \times 8.5\text{m}$ のトレンチである。調査地は雑木林で、トレンチ高位側に桂見25号墳が登録されており、尾根筋にやや窪む傾斜の変換が認められた。トレンチ高所の標高は35.82mである。厚さ8~20cm程度の表土下は黄褐色砂質土(第4層)の地山である。トレンチ中央北側に搅乱穴が検出されたが、周溝のような性格ではなく、遺物も検出されなかった。

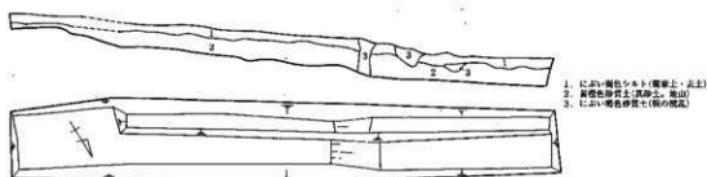
第5トレンチ(Tr-5) [第54・56図 図版18]

二十世紀ナシ親木広場の北側丘陵のうち、宮ノ谷・石ヶ谷地区境界の古墳が立地する標高43mの尾根頂部から東へ下る尾根の先端顶部手前に設定した $1.0 \times 10.2\text{m}$ のトレンチである。調査地は雑木林で、トレンチ高所の標高は33.90mである。厚さ8~18cm程度の表土下は黄褐色砂質土(第4層)の地山である。トレンチ中央に根の搅乱穴(第2、3層)が検出されたが、地山加工痕や遺構、遺物は検出されなかった。

小結

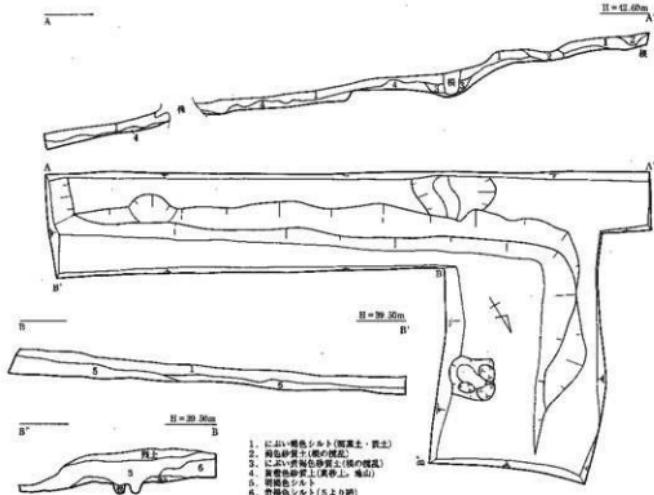
桂見古墳群は、三谷集落背後から倉見集落の南一帯に展開し、尾根筋で倉見古墳群と接する。現在のところ28基余りが登録されている。この一帯の丘陵は花崗岩系のいわゆる真砂土土壤であり、腐葉土・表土直下は岩盤の所も多く、複雑に張り出す尾根筋は幅の狭い尾根が多いとともに地盤の崩落や流失などにより古墳状の隆起が観察される。今回の調査地は、桂見2号墳が立地した三谷集落背後丘陵の雲雀谷を挟んで南に位置するやや見通しの悪い丘陵中にあり、対象地の東側へ延びる尾根上には分布踏査により古墳1基が登録されている。性格不明の段状遺構を検出した第2トレンチ以外の第1、3~5トレンチは、表土下は真砂土の地山である。特に第4トレンチ上位には古墳状の高まりが観察されたが、周溝や盛土など古墳に関わる遺構、遺物は検出されなかった。しかしながら、調査地上位の標高43.6mの尾根頂部とそこから北へ張り出す尾根筋には踏査によって古墳4基が確認されているなど、今後とも注意を払う必要のある丘陵、地域である。

H = 41.00m



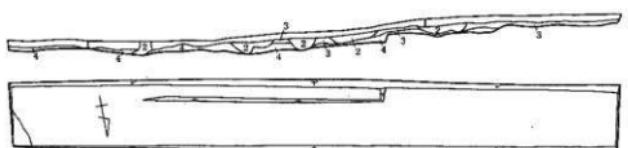
第1トレンチ

H = 42.00m



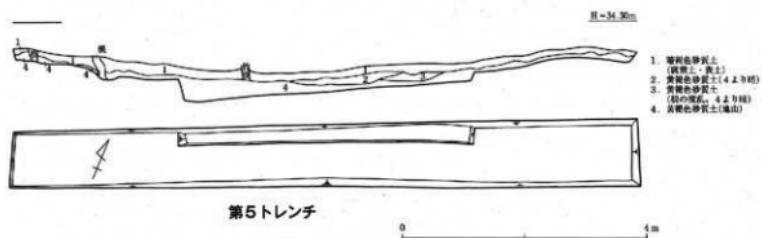
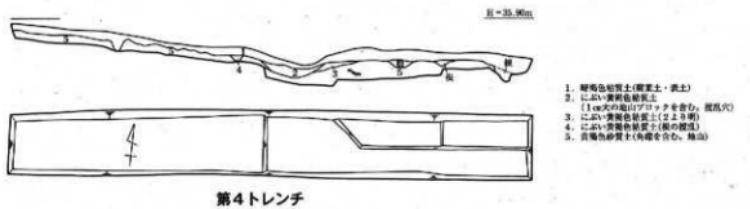
第2トレンチ

H = 38.00m



第3トレンチ

第55図 桂見古墳群 第1・第2・第3トレンチ実測図



第56図 桂見古墳群 第4・第5トレンチ実測図

第18節 高住中瀬所在遺跡

高住集落の南東側に位置し、低丘陵の間に拓けた平野部および丘陵裾部に立地している。遺跡の北側には湖山池があり、その縁辺には多くの遺跡が分布している。周辺遺跡には桂見、東桂見、西桂見、青島など繩文時代～中世の遺跡が位置し、湖山池を望む丘陵上には良田古墳群、高住古墳群、倉見古墳群、桂見古墳群、西桂見古墳群など古墳をはじめとして弥生墳墓、中世墓が数多く築かれている。また、高住銅鐸出土地は本遺跡の西側丘陵に位置している。

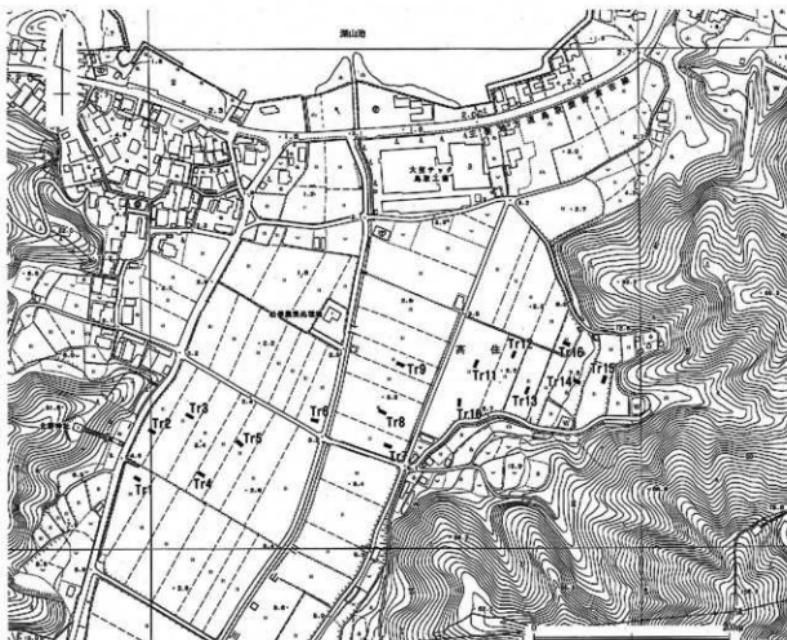
今回の調査は鳥取西道路整備計画に伴い実施したもので、全長約500m、幅50～80mの路線内に16箇所の調査トレンチ(第1～16トレンチ)を設定して確認調査を行なった。

第1トレンチ(Tr-1) [第57・58・66図 図版18]

調査対象地の西端に設定した3.3×8.1mのトレンチである。現状は水田で標高2.8m前後を測る。第2層は床土で、地表下1.2mで認められる暗灰黄色粘土層(第8層)が基盤になるものと思われる。基盤層の上層に堆積する第5、6層に遺物が含まれている。

遺構は第7層の上面で検出され、第14層、第16～18層が埋土となる幅50～60cm、深さ20～30cmの溝状遺構や、第11層、第12、13層、第15層が埋土のピット状遺構が確認された。古墳時代後期の遺構と思われる。

遺物は、溝状遺構の埋土第14層から須恵器壺の体部片、包含層遺物として第5層から瓦質の鍋、須恵器、底部糸切りの土師皿、土錐、第6層から須恵器杯(第66図1)、須恵器壺の体部片、蓋杯などの少片が多数出土した。(1)は高台をもつ杯で、高台内面に僅かに墨書が認められる。残存部が少なく判読が困難な状況ではあるが「南殿」と記されている可能性が考えられる。9世紀代の遺物と思われる。なお、「南殿」の墨書は丘陵を隔てた良田平田遺跡(本報告)の第1トレンチからも出土している。



第57図 高住中瀬所在遺跡 調査トレンチ位置図

第2トレンチ(Tr-2) [第57・58・66図 図版18・19・28]

第1トレンチの北約50mの水田に設定した3.2×8.2mのトレンチで、現地表の標高2.25m前後を測る。トレンチ東側では標高1.3m前後で基盤と思われる暗灰黄色粘土層(第24層)が認められるが、西側では同様の粘土層は見られず植物遺体を多量に含む褐色粘質土(第9層)が堆積している。低湿地での堆積状況がうかがわれる。遺物は第4、5層および第7層に含まれている。

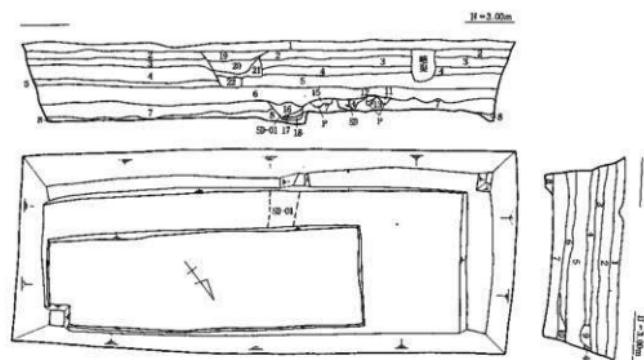
遺構は、第5層の上面で認められ、第21、22層が埋土となる幅60cm、深さ40cm前後の溝状遺構が検出された。埋土下層から須恵器が出土した。

遺物は、溝状遺構の埋土から須恵器脚台部(第66図3)、第4層から瓦質の羽釜、鍋(第66図4)、須恵器片、土師器片、第5～7層から須恵器蓋、杯身(第66図2)、甕体部片、土師器片が多数出土した。遺物の出土量は多く3袋分を数える。

第3トレンチ(Tr-3) [第57・59図 図版18・19]

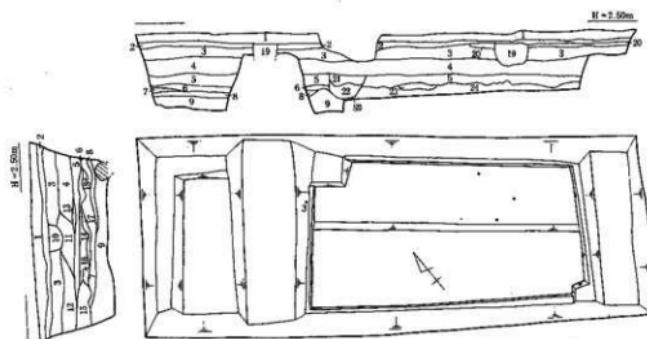
第2トレンチの北西約40mに設定した3.2×8.2mのトレンチである。現地表の標高は2.2m前後を測る。第4層から上層はほ場整備に伴う造成土と思われる。第4層下位の第5、6層が遺物包含層で瓦質土器、須恵器、土師器などの細片が含まれている。標高1.2m以下には厚さ80cmあまりにわたって灰黃褐色の砂質土が堆積し、その下位に褐灰色の砂層(第18層)がつづく。第5、6、7層上面に遺構が存在する可能性が考えられたが明確な遺構は検出されなかった。

遺物は、第5層から瓦質土器、須恵器、第6層から須恵器、土師器、板状木製品が出土した。土器類はいずれも細片で、出土量は総数7点を数える。



第1トレーナー

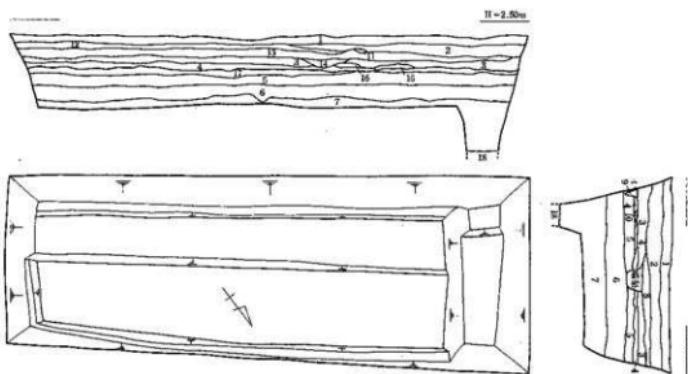
1. 黒褐色シルト(耕作土)
2. 黑褐色粘質土(耕作土)
3. 黑褐色砂質土(2より厚、耕分沈査)
4. 黑褐色砂質土(2より厚、耕分沈査)
5. 黑褐色シルト(やや薄)
6. 黑褐色粘質土(5.2より厚)
7. 黑褐色粘質土(6.2より厚) 墓状黄色粘土ブロックを多く含む。
8. 黑褐色粘質土
9. 黑褐色粘土(耕作土)
10. 黑褐色粘土(7.2より厚) 墓状黄色粘土ブロックを含む。
11. 黑褐色粘土(6.2より厚)
12. 黑褐色粘質土(6より厚)
13. 黑褐色粘質土(盛砂を含む。)
14. 黑褐色粘土(墓状黄色粘土ブロック、盛砂を含む。)
15. 黑褐色粘土(6より厚)
16. 黑褐色粘土(6より厚)
17. 黑褐色粘質土
18. 黑褐色粘土
19. にじみ黄褐色粘土(厚層)
20. 黑褐色粘質土(厚層)
21. 黑褐色粘土(角砂を含む。薄層)
22. 黑褐色シルト(厚層)



第2トレーナー

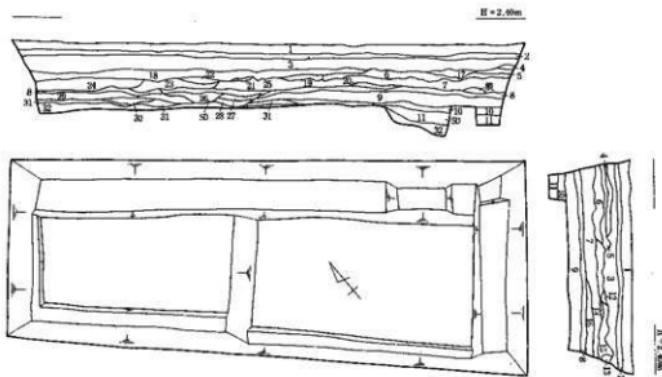
1. 黑褐色シルト(耕作土)
2. 黑褐色粘質土(1より厚、耕分沈査)
3. 黑褐色シルト(耕分沈査)
4. 黑褐色シルト
5. 黑褐色シルト
6. 黑褐色粘質土(5より厚、墓状黄色粘土ブロックを含む。)
7. 黑褐色粘土(3より厚) 墓状黄色粘土ブロックを含む。)
8. 黑褐色粘土
9. 黑褐色粘土(耕分沈査を多く含む。)
10. 黑褐色シルト(3より厚)
11. 黑褐色粘土
12. 黑褐色粘土
13. 黑褐色粘土(1より厚)
14. 黑褐色シルト(耕作土を含む。)
15. 黑褐色粘土
16. 黑褐色粘土
17. 黑褐色粘土(墓状黄色粘土ブロックを含む。)
18. 黑褐色粘土
19. 黑褐色粘土
20. 黑褐色粘土(厚層)
21. 黑褐色粘土
22. 黑褐色粘土
23. 黑褐色粘土
24. 黑褐色粘土

第58図 高住中瀬所在遺跡 第1・第2トレーナー実測図



第3トレンチ

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1. 黄褐色シート(腐作土) | 16. 黄褐色粘土 |
| 2. 淡褐色シート(灰白色帶、黄褐色上ブロックを含む。) | 17. にじいろ褐色粘土質土 |
| 3. 暗赤色粘土(油分充満、黄褐色上ブロックを含む。) | 18. にじいろ褐色粘土(黄褐色粘土質土ブロックを含む。) |
| 4. 明赤色粘土(油分充満且ブロックを含む。) | 19. 褐灰色シート(軟分泥炭) |
| 5. 暗赤色粘土(油分充満且ブロックを含む。) | 20. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 6. 黑色粘土(油分充満且ブロックを含む。) | 21. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 7. 黑褐色粘土質土 | 22. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 8. 黄褐色シート(より厚、軟分泥炭) | 23. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 9. 黄褐色砂質土 | 24. 黄褐色粘土(油分泥炭) |

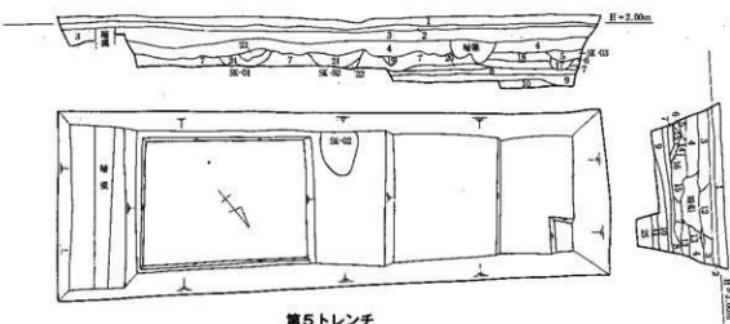


第4トレンチ

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 黄褐色シート(腐作土) | 17. にじいろ褐色粘土質土(明黄色粘土質土ブロックを含む。) |
| 2. 淡褐色シート(より厚、やや粘質) | 18. 黑褐色粘土質土(明黄色粘土質土)、にじいろ褐色粘土質土ブロックを多く含む。 |
| 3. 黄褐色シート(黄褐色粘土、やや粘質) | 19. 黄褐色粘土質土(明黄色粘土質土) |
| 4. 黄褐色シート(油分充満且ブロックを含む。) | 20. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 5. 黑色粘土質土(油分充満且ブロックを含む。) | 21. 黄褐色シート(明黄色粘土質土ブロックを含む。) |
| 6. 明赤色粘土 | 22. 黄褐色シート(明黄色粘土質土ブロックを含む。) |
| 7. 黑褐色粘土(油分充満且ブロックを含む。) | 23. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 8. 黑褐色粘土(油分充満且ブロックを含む。) | 24. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 9. 黑褐色粘土 | 25. 黄褐色粘土(より厚、灰白色を含む。) |
| 10. 黑褐色粘土 | 26. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 11. 黄褐色粘土 | 27. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 12. 黄褐色砂質土 | 28. 黑褐色粘土質土(明黄色粘土質土) |
| 13. 黄褐色砂質土 | 29. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 14. 黄褐色粘土(油分粘土ブロックを含む。) | 30. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 15. 黄褐色粘土質土 | 31. 黄褐色粘土(油分泥炭) |
| 16. 黄褐色粘土質土(より厚) | 32. 黄褐色粘土 |

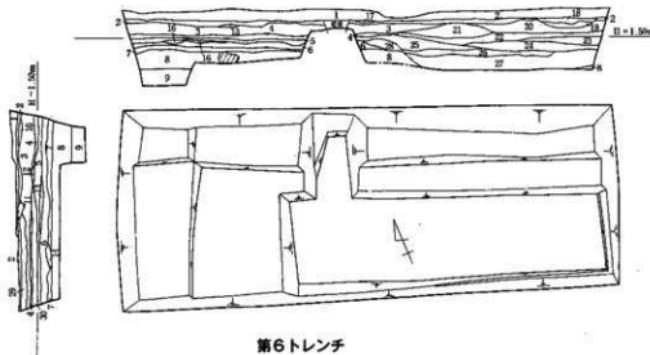
0 4 m

第59図 高住中瀬所在遺跡 第3・第4トレンチ実測図



第5トレンチ

1. 海ぬ色シント(耕作土)
2. 海ぬ色シント(より明、鉄分沈着)
3. 黒灰褐色粘質土(鉄分沈着)
4. 黑褐色粘質土(鉄分沈着)
5. 黑褐色粘土(鉄分沈着)
6. 黑褐色砂質土
7. 黑褐色砂質土(植物遺体を含む。)
8. 黑褐色砂質土
9. 黑褐色砂質土(植物遺体を含む。)
10. 黑褐色砂質土
11. 黑褐色砂質土(植物遺体を含む。)
12. 黑褐色砂質土(青色砂質土ブロックを含む。)
13. にい黄褐色粘土
14. 黑褐色砂質土(黒褐色粘土層ナットブロックを含む。)
15. 黑褐色砂質土上にい黄褐色砂質土層ナットブロックを含む。)
16. にい黄褐色砂質土
17. 黑褐色砂質土(黒褐色粘土層ナットブロックを含む。)
18. 当代粘土(黒褐色粘土層ナットブロックを含む。)
19. 黑褐色砂質土(黒褐色粘土層ナットブロックを含む。)
20. 黑褐色砂質土
21. 黑褐色砂質土
22. 黑褐色砂質土
23. 黑褐色砂質土(白土上)ブロック、三合土粘土層ナットブロックを含む。)
24. 黑褐色砂質土(白土上)ブロックを含む。)
25. 黑褐色砂質土(植物遺体を含む。)



第6トレンチ

1. 海ぬ色シント(耕作土)
2. 黒灰褐色シント(灰土、鉄分沈着)
3. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
4. 黑褐色粘質土(鉄分沈着)
5. 黑褐色粘土(鉄分沈着)
6. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
7. 黑褐色砂質土(植物遺体を含む。)
8. 黑褐色砂(海ぬ色砂、植物遺体を含む。)
9. 黑褐色砂質土
10. 黑褐色砂質土
11. 黑褐色砂質土
12. 黑褐色砂質土
13. 黑褐色砂質土(植物遺体を含む。)
14. にい黄褐色砂質土(海ぬ色砂を含む。)
15. 黑褐色砂質土
16. 海ぬ色砂質土(青色砂質土)
17. 黑褐色砂質土
18. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
19. 黑褐色粘質土(鉄分沈着)
20. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
21. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
22. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
23. 黑褐色砂質土(植物遺体を含む。)
24. 黑褐色砂質土(植物遺体を多く含む。)
25. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
26. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
27. 黑褐色砂質土(黒褐色粘土ブロック、灰土色砂、植物遺体を多く含む。共於木炭)
28. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
29. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)
30. 黑褐色砂質土(鉄分沈着)

第60図 高住中瀬所在遺跡 第5・第6トレンチ実測図

第4トレンチ(Tr-4) [第57・59図 図版19]

第1トレンチの東約60mに設定した3.5×8.5mのトレンチで、現地表の標高2.0m前後を測る。地表下70cm前後に堆積する第7層(灰黄色粘質土)の上層は、粘土ブロックや黄橙色砂(真砂土)を含む土砂の堆積が見られ、これらがほ場整備時の造成土と思われる。第7層～9層は比較的安定した堆積状況を示し、このうちの第8層上面から溝状の遺構が検出された。基盤層は標高0.9m以下に堆積するにぶい黃橙色粘土(第32層)とみられる。

遺構は、第8層上面から第25～28層が埋土となる幅1.8m、深さ30cmあまりの溝状遺構と、第32層上面から第11層が埋まる深さ25cm前後の溝状の遺構を検出した。

遺物は、溝埋土の第26層から出土した土師器片1点である。

第5トレンチ(Tr-5) [第57・60図 図版19]

第4トレンチの北東50mの水田に設定した2.9×8.95mのトレンチで、現地表の標高は2.1m前後を測る。第3層から下位の第4、7層は安定的な堆積状況を示し、第7層上面から遺構が検出された。第7層から下層は灰黄褐色粘土層(第10層)の上下に植物遺体を含む第9層や第11、25層の堆積がみられ低湿地での堆積状況をうかがうことができる。

遺構は、第7層上面および第18層上面から土坑状遺構(SK-01、02、03)が検出された。土坑は幅70～90cm、深さ25～30cmあまりを測る。第7層出土遺物から中世遺構の可能性が考えられる。

遺物は、第7層から瓦質土器片1点、9層から土師器片1点、杭状木製品1点が出土した。

第6トレンチ(Tr-6) [第57・60図 図版20]

第5トレンチの北東75mに位置し、平野のはば中央部に設定した3.0×8.0mのトレンチである。現地表の標高は1.95m前後を測る。第2層の床土の下位に第3、4、20層などの粘土層が見られ、その下層は植物遺体を含む砂層(第8、22～25層)や黒褐色粘質土(第6、27、28層)が堆積している。標高1.0m以下には灰白色の粗砂層がつづく。

遺構、遺物は検出されなかった。

第7トレンチ(Tr-7) [第57・61・66図 図版20・28]

第6トレンチの東75mに位置し、丘陵裾部の水田に設定した2.5×8.1mのトレンチである。現地表の標高2.7m前後を測る。トレンチ中央は溝状の掘削坑があり大きく搅乱を受けている。地表下50cm前後に堆積する灰オリーブシルト層(第5層)と上層の第11、12層に遺物が含まれる。第5層以下は主に砂が堆積し、標高1.9m以下に植物遺体を含む灰色粗砂(第8層)や暗灰黄色砂(第38層)が認められる。遺構は検出されなかった。

遺物は、第5、11、12層から弥生土器の甕(第66図5、6)、器台(7)や、縄文土器片(8～10)が出土した。大半が弥生時代後期の土器で占められ、出土量は約1/2コンテナ分を数える。明確な遺構は確認されなかったが、同時期の土器が多量に出土していることから周辺に遺跡が存在しているものと考えられる。

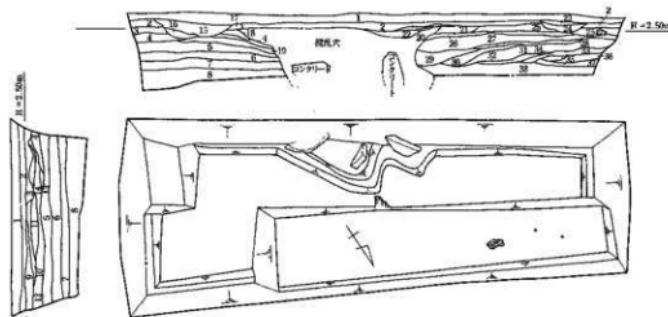
第8トレンチ(Tr-8) [第57・61・66図 図版20・28]

第7トレンチ北側30mの水田に設定した2.5×8.2mのトレンチで、現地表の標高は2.5m前後を測る。地表下25cm前後に堆積する第3層に陶器片が含まれる。第3層以下は黄灰色や灰色の砂が堆積し、下層の第8、22層には植物遺体が含まれている。遺構は検出されなかった。

遺物は、第42～44層から石錐(第66図11)が出土した。(11)は長さ7.47cm、幅6.05cm、厚さ1.86cm、重さ118.3gを測る。

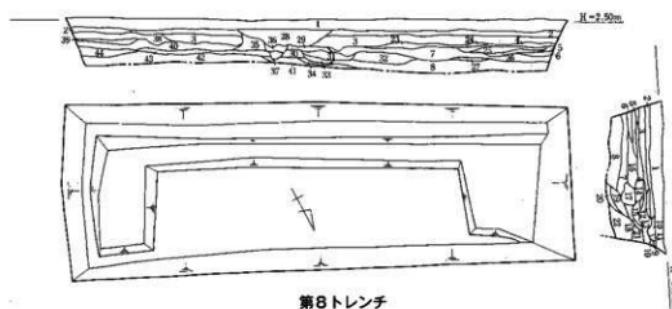
第9トレンチ(Tr-9) [第57・62図 図版20]

第8トレンチ北側50mの水田に設定した2.5×8.8mのトレンチである。現地表の標高は2.0m前後を測る。第2層の褐灰色砂質土が床土で、その下層は厚さ70cm以上にわたって砂層が堆積している。遺構



第7トレンチ

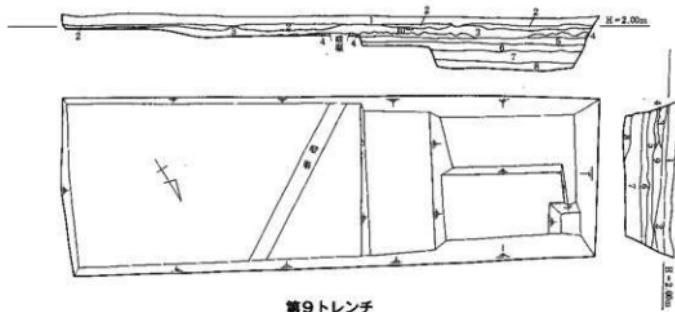
1. 暗褐色シート(耕作土)
2. 褐褐色シート(やや粘性、底分化層、底上)
3. 黑灰色砂質土(底分化層)
4. に高い黄褐色土(底分化層)
5. 黄褐色砂質土(底分化層)
6. 黄褐色シート(底分化層)
7. 黑灰色砂質土(底分化層)
8. 黄褐色砂質土(底分化層)
9. 黑灰色砂質土(底分化層)
10. 黄褐色砂質土(底分化層)
11. 黑灰色砂質土(底分化層)
12. 黑灰色砂質土(底分化層)
13. 黑灰色砂質土(底分化層)
14. 黑灰色砂質土(底分化層)
15. 黄褐色砂質土(底分化層)
16. に高い黄褐色土(底分化層)
17. 黑灰色砂質土(底分化層)
18. 黑灰色砂質土(底分化層)
19. 黑灰色砂質土(底分化層)
20. 黄褐色砂質土(底分化層)
21. 黄褐色砂質土(底分化層)
22. 黑灰色砂質土(底分化層)
23. 黑灰色砂質土(底分化層)
24. 黑灰色砂質土(底分化層)
25. 黑灰色砂質土(底分化層)
26. 黑灰色砂質土(底分化層)
27. 黑灰色砂質土(底分化層)
28. 黑灰色砂質土(底分化層)
29. 黑灰色砂質土(底分化層)
30. 黑灰色砂質土(底分化層)
31. 黑灰色砂質土(底分化層)
32. 黑灰色砂質土(底分化層)
33. 黑灰色砂質土(底分化層)
34. 黑灰色砂質土(底分化層)
35. 黑灰色砂質土(底分化層)
36. 黑灰色砂質土(底分化層)



第8トレンチ

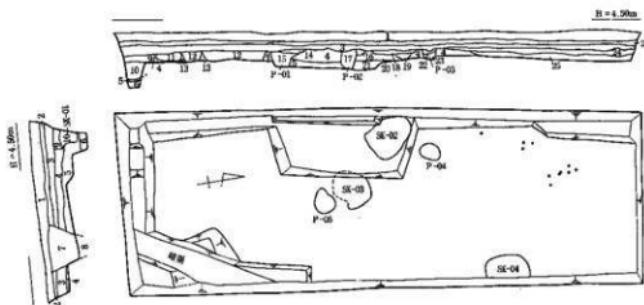
1. 暗褐色シート(耕作土)
2. 黑灰色砂質土(底分化層、底上)
3. 黑灰色砂質土(底分化層)
4. に高い黄褐色土(底分化層)
5. 黑灰色砂質土(底分化層)
6. 黑灰色砂質土(底分化層)
7. 黑灰色砂質土(底分化層)
8. 黑灰色砂質土(底分化層)
9. 黑灰色砂質土(底分化層)
10. 黑灰色砂質土(底分化層)
11. 黑灰色砂質土(底分化層)
12. 黑灰色砂質土(底分化層)
13. 黑灰色砂質土(底分化層)
14. 黑灰色砂質土(底分化層)
15. 黑灰色砂質土(底分化層)
16. 黑灰色砂質土(底分化層)
17. 黑灰色砂質土(底分化層)
18. 黑灰色砂質土(底分化層)
19. 黑灰色砂質土(底分化層)
20. 黑灰色砂質土(底分化層)
21. 黑灰色砂質土(底分化層)
22. 黑灰色砂質土(底分化層)
23. 黑灰色砂質土(底分化層)
24. 黑灰色砂質土(底分化層)
25. 黑灰色砂質土(底分化層)
26. 黑灰色砂質土(底分化層)
27. 黑灰色砂質土(底分化層)
28. 黑灰色砂質土(底分化層)
29. 黑灰色砂質土(底分化層)
30. 黑灰色砂質土(底分化層)
31. 黑灰色砂質土(底分化層)
32. 黑灰色砂質土(底分化層)
33. 黑灰色砂質土(底分化層)
34. 黑灰色砂質土(底分化層)
35. 黑灰色砂質土(底分化層)
36. 黑灰色砂質土(底分化層)
37. 黑灰色砂質土(底分化層)
38. 黑灰色砂質土(底分化層)
39. 黑灰色砂質土(底分化層)
40. 黑灰色砂質土(底分化層)
41. 黑灰色砂質土(底分化層)
42. 黑灰色砂質土(底分化層)
43. 黑灰色砂質土(底分化層)
44. 黑灰色砂質土(底分化層)

第61図 高住中瀬所在遺跡 第7・第8トレンチ実測図



第9トレンチ

1. 塩化セメント土(漂出土)
2. 黄褐色砂質土(漂出土, 土上)
3. にじみ青褐色砂質土(漂出土ブロックを含む。)
4. 黄褐色砂(にじみ青褐色砂混入)
5. 黄褐色砂質土(にじみ青褐色砂を多く含む。)
6. 黄褐色砂質土(漂出土を含む。)
7. 固定砂岩帶
8. 砂岩帶
9. 黃褐色砂質土(にじみ青褐色砂を含む。)
10. 黄褐色砂質土



第10トレンチ

1. 塩化セメント土(漂出土)
2. 黄褐色砂質土(漂出土)
3. 黄褐色砂質土(漂出土)
4. にじみ青褐色砂質土
5. 灰色粘土
6. 黄褐色砂
7. 黄褐色砂質土(地層)
8. 砂岩(漂出)
9. 黄褐色砂質土(にじみ青褐色砂質土ブロックを含む。)
10. 黄褐色砂質土(漂出土)
11. 黄褐色砂質土(漂出土ブロックを含む。)
12. 黄褐色砂質土(にじみ青褐色砂質土ブロックを含む。)
13. 黄褐色砂質土(にじみ青褐色砂質土ブロックを含む。)
14. 黄褐色砂質土(漂出土を含む。)
15. 黄褐色砂質土(漂出土)
16. 黄褐色砂質土
17. 黄褐色砂質土(にじみ青褐色砂質土ブロックを含む。)
18. 黄褐色砂質土(漂出土)
19. 黄褐色砂質土(漂出土)
20. 黄褐色砂質土(漂出土)
21. 黄褐色砂質土(漂出土)
22. 黄褐色砂質土(漂出土)
23. 黄褐色砂質土(漂出土)
24. 黄褐色砂質土
25. 山谷
26. 黄褐色砂質土
27. 黄褐色砂質土
28. 黄褐色砂質土
29. 黄褐色砂質土
30. 黄褐色砂質土
31. 黄褐色砂質土(土器片を多く含む。)



第62図 高住中瀬所在遺跡 第9・第10トレンチ実測図

は検出されなかった。

遺物は、第9層から陶器片1、土師器片1と縄文晩期の深鉢口縁と思われる小片が1点出土した。

第10トレンチ(Tr-10) [第57・62・66図 図版21・28]

第7トレンチの北東約80mに位置し、丘陵裾部の水田に設定した3.0×8.6mのトレンチである。現地表の標高は4.3m前後を測る。地表下30cm前後で見られるにぶい黄橙色砂質土(第4層)が遺構面で、その上層の第24、25層に遺物が含まれる。4層以下には灰色粘土層(第5層)、灰黄褐色粗砂(第6層)が堆積する。

遺構は第4層の上面で確認され、土坑状遺構4(SK-01~04)、ピット状遺構5(P-01~05)が検出された。遺構内遺物は検出されなかったが、検出面や第24、25層から出土した遺物から弥生時代後期～古墳時代前期の遺構と思われる。

遺物は第24、25層から口縁部に櫛描平行沈線を施した弥生後期の甕や平底の底部、古墳時代前期の複合口縁の甕(第66図12)が出土した。小片が主であるが、出土量は多く2袋分を数える。

第11トレンチ(Tr-11) [第57・63図 図版21]

第10トレンチの北約35mの水田に設定した2.4×8.6mのトレンチである。耕作土下層の第2、3層には釉を施された瓦片や磁器片が含まれておりは場整備に伴う堆積とみられる。第3層の下層は黒褐色のシルト層(第4層)や砂質土(第5層)が見られ、第4層に遺物が含まれている。第5層下層の標高3.5m以下は灰黄色の粗砂(第7層)が堆積している。遺構は検出されなかった。

遺物は第2、3層から瓦1、磁器2、瓦質土器1、須恵器4、土師器2、第4層から土師器の脚台部が1点出土している。いずれも小片で磨耗した土器が主である。

第12トレンチ(Tr-12) [第57・63図 図版21]

第11トレンチの北東約35mの水田に設定した2.5×8.1mのトレンチで、現地表の標高4.8mを測る。トレンチ北側はは場整備に伴う客土が行われており、第6層の上層が造成土と思われる。第6層は遺物包含層で、その下層の第7層が遺構面になる。第7層の下位には灰黄褐色粘土層(第8層)が認められ、その下層はにぶい黄橙色の粗砂層になる。

遺構は、7層上面からピット状遺構(P-01、02)が検出された。ピットは直径20~30cm、深さ20cm程度の比較的小規模なものである。上層の第6層に須恵器、土師器が含まれることから、古墳時代の遺構の可能性が考えられる。

遺物は、第2、3層から土師器片4、第6層から須恵器片2、土師器片17点が出土した。いずれも磨耗した細片である。

第13トレンチ(Tr-13) [第57・64図 図版22]

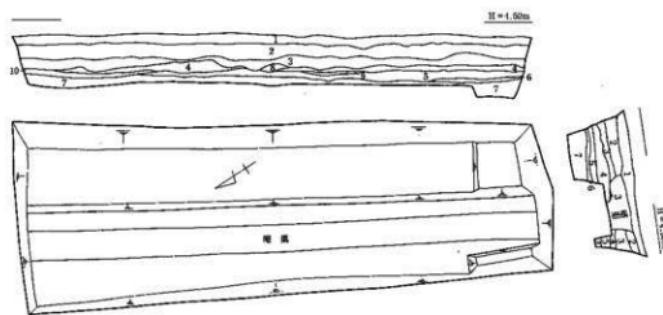
第10トレンチの東約65mの水田に設定した3.0×8.5mのトレンチである。現地表の標高は5.3m前後を測る。耕作土下層の第2、3層に遺物が含まれ、その下層が遺構面である。第4層下層の褐灰色砂質土(第5層)はよく締まっており基盤になる堆積層と思われる。

遺構は、第4、21層の上面から土坑状遺構(SK-01~03)が検出された。土坑は長さ1.1~1.2m、深さ20~25cmの浅いもので、いずれにも埋土中に角礫が含まれている。遺構に伴う遺物はなく時期は不明であるが、上層出土遺物から推測して古墳時代の可能性が考えられる。

遺物は、第2、3層から須恵器片、土師器片が総数35点あまり出土した。

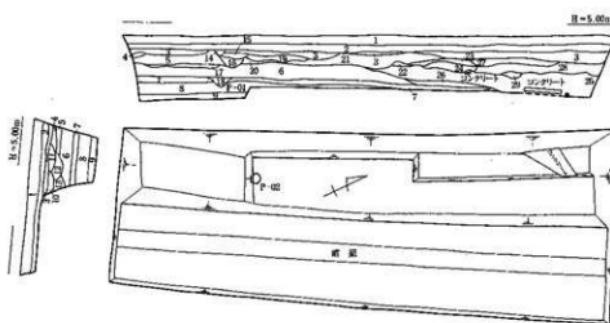
第14トレンチ(Tr-14) [第57・64・66図 図版22・28]

第13トレンチの北東約45mに位置し、果樹耕作が行なわれていた緩斜面に設定した3.0×7.8mのトレンチである。現地表の標高は7.9~8.7mを測る。地表下30cmあたりは耕作に伴う肥料穴や暗渠施設によってかなり搅乱を受け、搅乱土中に須恵器や土師器片が混じっている。基盤層はトレンチの上方で見られるにぶい黄橙色砂質土(第4層)とみられ、西側にかなりの傾斜を見せる。トレンチ西側で基盤層の



第11トレンチ

1. 塗褐色シルト(耕作土)
2. に多い黄褐色砂質土(未分沈量)
3. 黄褐色砂質土(未分沈量)
4. 塗褐色シルト(やや乾燥上)
5. 黄褐色砂質土(4より弱、黄褐色砂質土)
6. 黄褐色砂質土
7. 黄褐色砂質土
8. 黄褐色砂質土
9. 黄褐色砂質土
10. 塗褐色シルト

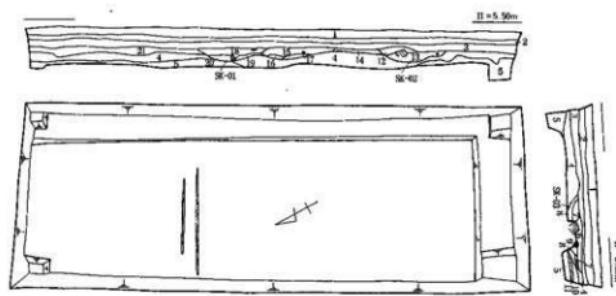


第12トレンチ

1. 塗褐色シルト(耕作土)
2. に多い黄褐色砂質土(未分)
3. 黄褐色砂質土(未分沈量)
4. 塗褐色シルト(未分沈量)
5. 灰青褐色シルト(未分沈量)
6. に多い黄褐色砂質土(未分沈量、炭片を含む。)
7. 黄褐色砂質土
8. 黄褐色砂質土
9. 黄褐色砂質土
10. 黄褐色砂質土
11. 黄褐色砂質土(未分沈量)
12. に多い黄褐色砂質土(1より弱、未分沈量)
13. 黄褐色砂質土
14. 黄褐色砂質土
15. 灰青褐色砂質土
16. に多い黄褐色砂質土
17. 黄褐色砂質土
18. 黄褐色砂質土(炭片を含む。)
19. 黄褐色砂質土
20. に多い黄褐色砂質土
21. 塗褐色シルト(未分沈量、に多い黄褐色砂質ナットロックを含む。)
22. 黄褐色砂質土
23. 黄褐色砂質土
24. 灰青褐色砂質土(2より弱)
25. 黄褐色砂質土
26. に多い黄褐色砂質土
27. 塗褐色土
28. に多い黄褐色砂質土(隙隙化粘質ナットロックを含む。)
29. 黄褐色砂質土

0 4 m

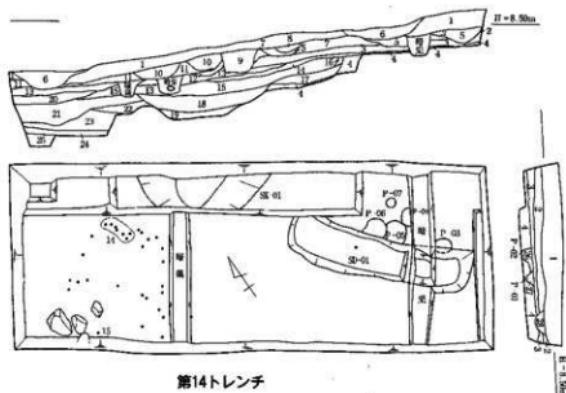
第63図 高住中瀬所在遺跡 第11・第12トレンチ実測図



第13トレンチ

1. に高い青褐色砂質土(耕作土)
2. 青褐色砂質土(耕作土)
3. 黄褐色砂質土(耕分化土)
4. に高い青褐色砂質土
5. 青褐色砂質土
6. 黄褐色砂質土(に高い青褐色砂質土ブロックを含む。)
7. に低い青褐色砂質土
8. 灰褐色砂質土
9. 黄褐色砂質土
10. 灰褐色砂質土
11. 灰褐色砂質土

12. 灰褐色シルト(青褐色砂質土ブロックを含む。)
13. 灰褐色砂質土
14. 灰褐色砂質土
15. 市場色砂質土
16. 灰褐色砂質土
17. 灰褐色砂質土(より硬)
18. 灰褐色砂質土(に褐色砂質土ブロックを含む。)
19. 灰褐色砂質土
20. 灰褐色砂質土
21. 灰褐色砂質土(に青褐色砂質土ブロックを含む。)



第14トレンチ

1. 青褐色砂質土(青色砂質土ブロックを含む。耕作土。)
2. 灰褐色砂質土(耕分化土)
3. 黄褐色砂質土(耕分化土)
4. に高い青褐色砂質土
5. 黄褐色砂質土(カルカイト含む。) 15. 青褐色砂質土(板片、塊状含む。)
6. 青褐色砂質土(ビニール袋、灰土含む。)
7. 青褐色砂質土(に高い青褐色砂質土ブロックを含む。)
8. 黄褐色砂質土(カルカイト含む。)
9. 黄褐色砂質土(カルカイト含む。)
10. 青褐色砂質土(ビニール袋を含む。)
11. 青褐色砂質土(10cm程、更に含む。)
12. 黄褐色砂質土(板片、塊状含む。)
13. 灰褐色砂質土(耕分化土)
14. 灰褐色砂質土(33cm程、に高い青褐色砂質土ブロックを含む。)

16. 青褐色砂質土(板片、塊状含む。)
17. 黄褐色砂質土
18. 青褐色砂質土
19. 黄褐色砂質土
20. 灰褐色砂質土(より硬)
21. 灰褐色砂質土
22. 灰褐色砂質土(より柔、板片を含む。)
23. 灰褐色砂質土
24. 青褐色砂質土(耕作過程含む。)
25. 灰褐色砂質土
26. 灰褐色砂質土(に高い青褐色砂質土ブロックを含む。)
27. 灰褐色砂質土

第64図 高住中瀬所在跡 第13・第14トレンチ実測図

確認はできなかったが、地表下90cmあまりで植物遺体を含む黒褐色粘質土(第24層)が見られ、その上層に灰色、褐灰色の砂質土(第21、23層)がしっかりと堆積している。

遺構は、第4層上面から土坑状遺構(SK-01)、溝(SD-01)、ピット状遺構(P-01~07)が検出された。SK-01は上層の第15層遺物から弥生時代中期、SD-01とピット状遺構はSD-01出土遺物から古墳時代の遺構になるものと思われる。

遺物は、SK-01から壺体部片、SD-01から竈片、土錐、包含層遺物として第15層から弥生土器の壺(第66図13)、壺、高杯、石斧(第66図14)などが出土した。(13)は口縁端面に凹線を施す壺で、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面横位叩き目のちタテハケ、内面は斜めのハケ調整を行なう。復元口径17.9を測る。(14)は磨製石斧の刃部で、厚さ2.3cmを測る。第15層出土遺物はおおむね弥生時代中期後半の土器で占められ、出土量は3袋分を数える。

第15トレンチ(Tr-15) [第57・65図 図版22・23]

第14トレンチ上段に位置し、14トレンチの東25mの水田に設定した3.0×7.9mのトレンチである。現地表の標高は11.6m前後を測る。地表下50cm内外で認められるにぶい黄橙色砂質土(第6層)が地山であるが、地山面に重機の爪痕が残ることから上層はいずれも現代の堆積層とみられる。

遺構は、第6層上面からピット状遺構(P-01、02)が検出された。ともに直径20~25cmの小規模なもので、深さはP-01で25cmを測る。遺構時期は不明である。

遺物は、地山上層からガラス、瓦、陶器、須恵器などの小片が出土している。

第16トレンチ(Tr-16) [第57・65・66図 図版23]

第14トレンチの北側約50mに位置し、14トレンチから一段下がった水田に設定した3.0×7.0mのトレンチである。現地表の標高は6.1m前後を測る。地表下40~70cmに堆積する第6、7層に磁器片が含まれることから、その上位層がは場整備に伴う造成土とみられる。第7層以下の第8、9、30層が遺物包含層で、9層上面が遺構面である。第9層以下の10、11層は黒褐色砂、褐灰色粗砂などの砂層となり、その上位層に植物遺体を含む黒褐色の粘質土(第35層)の堆積が見られる。

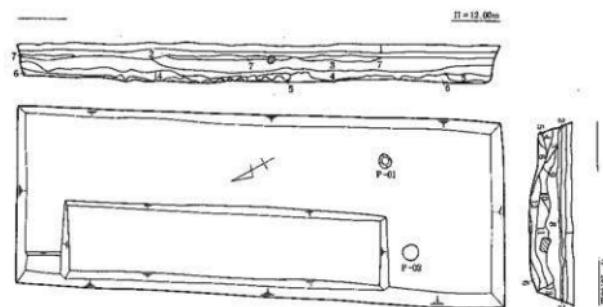
遺構は、第9層上面から第32、33層が埋土となるピット(P-01)を検出した。P-01は直径35cm前後、深さ40cmを測る。包含層出土遺物から古墳時代後期頃の遺構と思われる。

遺物は、第7層の上位層で陶器、須恵器、土師器、30層と8~10層で須恵器、土師器等の破片が出土した。第8~10層の出土遺物は古墳時代後期のもので占められるが、9層には僅ながら古墳時代前期の土師器が含まれている。第66図(15)は9層出土の須恵器杯身である。(15)は復元口径11.8cm、器高3.8mを測り、立ち上がりは僅かに内傾する。6世紀後半代のものと思われる。遺物の出土量は非常に多くコンテナ1箱分を数える。

小結

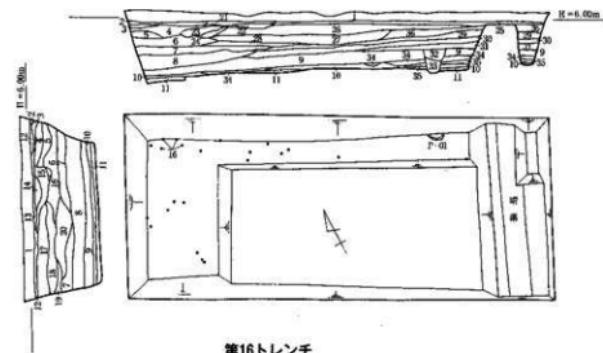
今回の調査は道路整備に伴い実施したもので、道路計画地内の16箇所にトレンチを設定し確認調査を行なった。調査の結果、調査地の西側に設定した第1、2、4、5トレンチと、東側丘陵の裾近くに設定した第10、12~16トレンチから土坑状遺構、溝状遺構、ピット状遺構が検出された。時期的には弥生中期後半代、弥生後期~古墳前期、古墳後期頃の遺構とみられる。

遺物は第6トレンチ以外の各トレンチから検出され、中でも第1、2、7、10、14、16トレンチからは多数の土器が出土している。時期的には古墳時代後期の須恵器、土師器が主であるが、第7トレンチと第14トレンチからはそれぞれ弥生時代後期、弥生時代中期後半代の土器がまとまって出土しており弥生時代中期~後期の遺跡の存在を裏付けている。また、第1トレンチでは9世紀代とみられる墨書き土器や、第7、9トレンチからは僅ながら縄文土器片が検出されおり当該期の遺跡が存在する可能性を示唆している。検出遺構や出土遺物から見て、幅広い時期の遺跡が広範囲にわたって展開しているものと考えられる。



第15トレンチ

- | | |
|----------------|-------------------------------------|
| 1. 黄褐色シート(鉢内土) | 8. に赤い黄褐色砂質土 |
| 2. 黒褐色砂質土 | 9. に赤い黄褐色砂質土(より硬、黒褐色上ブロックを含む。) |
| 3. に赤い黄褐色砂質土 | 10. 黑褐色砂質土 |
| 4. 黑褐色砂質土 | 11. 黑褐色砂質土(より硬、に赤い黄褐色土ブロックを含む。) |
| 5. 黑褐色砂質土 | 12. 黑褐色砂質土(に赤い黄褐色土ブロックを含む。) |
| 6. 黑褐色砂質土(鉢内土) | 13. 黑褐色砂質土 |
| 7. 黑褐色砂質土(鉢内土) | 14. 黑褐色砂質土(より硬、黒褐色、に赤い黄褐色土ブロックを含む。) |

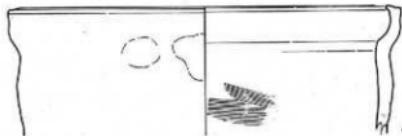


第16トレンチ

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1. 黄褐色シート(鉢内土) | 19. 黑褐色砂質土 |
| 2. 黑褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) | 20. 黑褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) |
| 3. 黑褐色砂質土 | 21. 黑褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) |
| 4. に赤い黄褐色砂質土 | 22. に赤い黄褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) |
| 5. 黑褐色砂質土 | 23. 黑褐色砂質土 |
| 6. 黑褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) | 24. 黄褐色シート |
| 7. 黑褐色砂質土 | 25. 黑褐色砂質土 |
| 8. 黑褐色砂質土(10cm大的層、黒褐色砂質土ブロックを含む。) | 26. 黑褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) |
| 9. 黑色砂質土(5-10cmの層を含む。) | 27. 黑褐色砂質土(より硬) |
| 10. 黑褐色砂 | 28. 黑褐色砂質土(より硬) |
| 11. 黑褐色砂質土 | 29. 黑褐色砂質土 |
| 12. 黑褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) | 30. 黑褐色砂質土(より硬) |
| 13. 黑褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) | 31. 黑褐色砂質土 |
| 14. 黑褐色砂質土 | 32. 黑褐色砂質土 |
| 15. 黑褐色砂質土 | 33. 黑褐色砂質土 |
| 16. 黑褐色砂質土 | 34. 黑褐色砂質土 |
| 17. に赤い黄褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) | 35. 黑褐色砂質土(植物遺作多く含む。) |
| 18. に赤い黄褐色砂質土(黒褐色土ブロックを含む。) | 36. 黑褐色砂質土 |

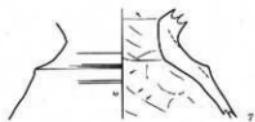
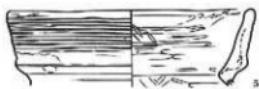
0 4m

第65図 高住中瀬所在遺跡 第15・第16トレンチ実測図

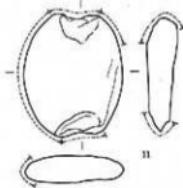


第1トレンチ

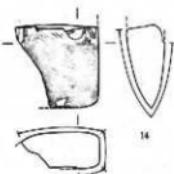
第2トレンチ



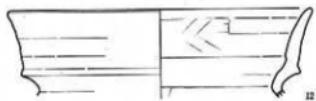
第7トレンチ



第8トレンチ



第14トレンチ



第10トレンチ



第16トレンチ

0 10cm

第66図 高住中瀬所在遺跡 第1・第2・第7・第8・第10・第14・第16トレンチ出土遺物実測図

第19節 良田山廻古墳群

良田山廻古墳群は、湖山池南岸の良田集落の西側丘陵に位置し、古墳群北東の狭小な谷および平野部には良田平田遺跡が展開する。また、北隣の尾根には高住13~18号墳が分布し、さらに北東300m余りの湖山池を望む谷部には、弥生~古墳時代の祭祀遺跡である塞ノ谷遺跡が所在する。湖山池に浮かぶ青島も祭祀遺跡として知られ、湖山池南岸周辺は複雑に入り組んだ丘陵上に古墳が密集する以外にも特殊な性格の遺跡が分布する。また、良田集落背後の丘陵裾部には遺物の散布地が認められ、2005年(平成17)、湖山池から100m内陸の緩斜面の畑地の調査で、標高3.4m前後に奈良期の遺物と、溝、ピットが検出されている。

今回の調査は、鳥取西道路整備計画に伴い実施したもので、計画路線内に計4箇所の試掘トレンチを設定した。

第1トレンチ(Tr-1) [第67・68図 図版25]

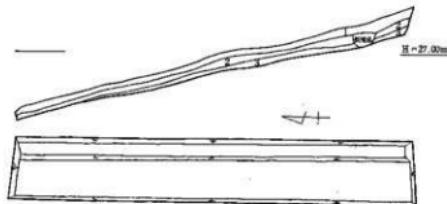
湖山池に浮かぶ青島の南岸、青島大橋正面の良田と高住とを介する丘陵のうち、標高78.8mの頂部から西へ派生する尾根のうちさらに北側へ僅かに張り出す尾根先端に設定した $1.0 \times 6.5\text{m}$ のトレンチである。調査地は雜木林で、良田平田所在遺跡が分布する小谷部に面し、トレンチ高所の標高は27.79mである。厚さ10cm程度の表土下はにぶい黄橙色粘質土(第2層)で、その下の明黄褐色粘質土(第3層)が地山である。地山加工痕や遺構、遺物は検出されなかった。

第2トレンチ(Tr-2) [第67・68図 図版25]

湖山池に浮かぶ青島の南岸、青島大橋正面の良田と高住とを介する丘陵のうち、標高78.8mの頂部から北西へ下る小谷の南西斜面に設定した $0.9 \times 12.5\text{m}$ のトレンチである。調査地は植林された林であるが雜木林化が進む。トレンチ地表面は19.87~24.24mである。厚さ8cm程度の表土下は裾部に一部明黄褐色シルト(第2層)を挟んで明黄褐色シルト(第3層)で、いずれも真砂土で特に第3層は比較的混じりのない均一な砂質土である。地山加工痕や遺構、遺物は検出されなかった。

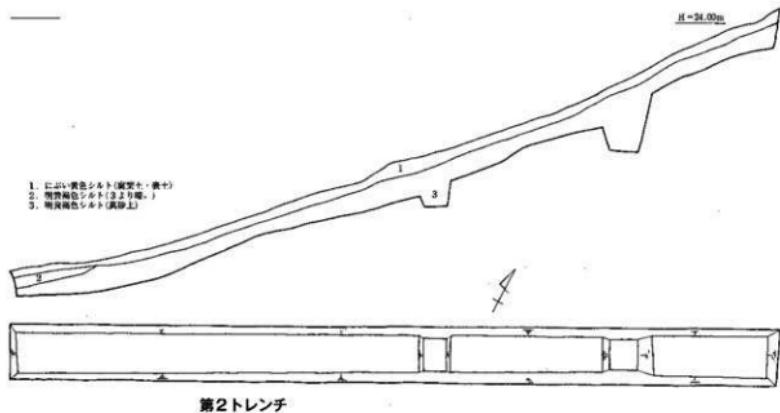


第67図 良田山廻古墳群 調査トレンチ位置図

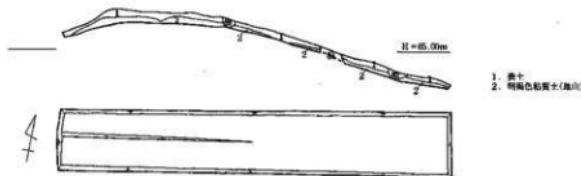


第1トレンチ

1. にじいろ褐色粘土質土(表土)
2. にじいろ褐色粘土質土(中層)
3. 暗赤褐色粘土質土(地山)

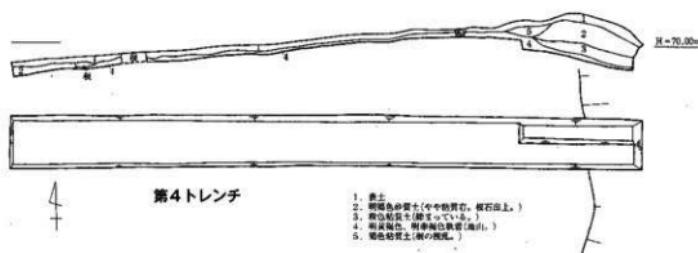


第2トレンチ



第3トレンチ

1. 表土
2. 明褐色粘土質土(地山)



第4トレンチ

1. 表土
2. 黄褐色粘土質土(砂や砂質土、板岩上。)
3. 黄褐色粘土質土(堅ってない砂質土。)
4. 明褐色土、明褐色粘土質土(地山。)
5. 暗赤褐色粘土質土(地の地盤。)

第68図 良田山廻古墳群 第1・第2・第3・第4トレンチ実測図

第3トレンチ(Tr-3) [第67・68図 図版25]

湖山池に浮かぶ青島の南岸、青島大橋正面の良田と高住とを介する丘陵のうち、標高78.8mの頂部から北へ延びる主稜線上に土壘あるいは古墳状の高まりが観察され、その北東斜面に設定した1.0×6.4mのトレンチである。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は65.67mである。厚さ10cm程度の表土下は明黄褐色土(第2層)の地山である。地山加工痕や遺構、遺物は検出されなかった。

第4トレンチ(Tr-4) [第67・68図 図版25]

湖山池に浮かぶ青島の南岸、青島大橋正面の良田と高住とを介する丘陵のうち、標高78.8mの頂部から北へ延びる主稜線に沿って土壘状の高まりが観察され、その高まりに対し直交方向に設定した0.9×10.2mのトレンチである。調査地は雜木林で、トレンチ高所の標高は70.55mである。厚さ10cm程度の表土下は、トレンチ西端で明黄褐色砂質土(第2層)が認められるものの、主稜線上は明黄褐色・明赤褐色軟岩(第5層)の地山である。トレンチ東側ではその第2層を高さ35cmに盛った土壘状の盛土が検出され、板石が出土している。土器などの遺物は検出されなかった。

小結

良田山廻古墳群は湖山池南岸の良田集落が所在する谷の東側丘陵に展開する古墳群で、南北に延びる丘陵稜線が高住地区との境界である。谷を挟んで西側丘陵には良田古墳群が分布し、現在前方後円墳3基を含む38基が登録されている。

今回、高住地区とを介する主稜線の標高78.8mの頂部から北へ延びる稜線上と西へ派生する尾根およびその谷部において第1～4トレンチの調査を行ったが、対象地内には古墳に係るような遺構、遺物は検出されなかった。唯一第4トレンチにおいて、主稜線に沿って観察される土壘状の高まりの土層断面を確認した。ただ、主稜線をまたいだ東側の高住宮ノ谷丘陵では、前方後円墳を含む古墳8基が踏査によって確認されており、今後も注意を払っていく必要はあろう。

第20節 良田平田所在遺跡

良田平田遺跡は、湖山池から300m余り内陸の良田集落南に開けた小平野および東へ入り組む幅50m程の小谷にかけて展開する遺跡である。この他、良田集落南の平野部には、良田中道所在遺跡、良田稻場所在遺跡など須恵器や土師器が散布する水田が確認される他、2005年(平成17)、湖山池から100m内陸の緩斜面の畑地の良田所在遺跡の調査で、標高3.4m前後に奈良期の遺物と、溝、ピットが検出されている。また、良田谷への東からの入口谷部には弥生～古墳時代の祭祀遺跡である寒ノ谷遺跡が所在する。良田集落背後の丘陵上には、38基余りで構成される良田古墳群、良田谷の東側には良田山廻古墳群、高住古墳群など、小規模前方後円墳を含む各種古墳が数多く分布している。

今回の調査は、鳥取西道路整備計画に伴い実施したもので、計画路線内に計5箇所の試掘トレンチを設定した。

第1トレンチ(Tr-1) [第69・70・73図 図版23・24・28]

湖山池畔から300m程南へ入った幅50m×奥行100m程度の小谷入口の中央部にあたる畑地に、谷の傾斜に対し直交方向に設定した3.0×8.2mのトレンチである。谷部は圃場整備によって四段からなる水田が造営され、第1トレンチはそのうち畑に利用されている一番下の段にあたる。地表面の標高は4.96mを測る。地表下1.48mの標高3.48mまで掘り下げを行った。耕作土および旧耕作土(第2層)の下はシルトおよび砂(第3、4、19、20層)でその下の標高4.4m前後から泥炭層(第5・21層)となる。泥炭層では一部砂の堆積が互層状に認められるが標高3.9mで黄灰色砂(第11層)となり標高3.48mまで確認した。第2層からの掘り込みで丸木・角礫を用いた暗渠や土管暗渠(SD-01)を検出、同じ面でP-01、さらにトレンチ中央を東西に横断する軸で、溝状構造SD-02を検出した。P-01は径35cm×深さ10cm程度で埋土より須恵器片が出土しているが新しい時期の可能性をもつ。トレンチ西壁では北側の溝SD-02の立ち

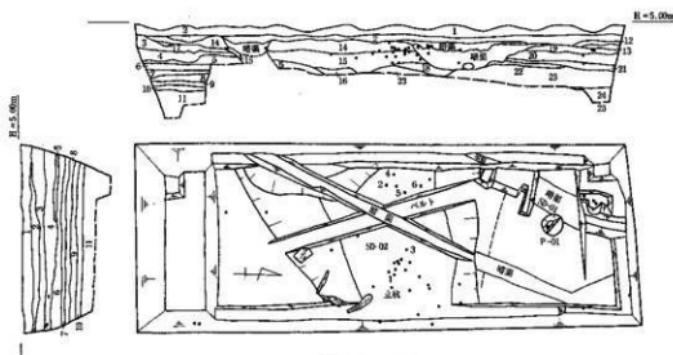


第69図 良田平田所在遺跡 調査トレンチ位置図

上がりは土管暗渠の掘削によって観察不能となるが、南で溝幅3mが北側で6m程度と谷の下位側へ向けて広がる様相を示す。溝の深さは58cmを測り緩やかな立ち上がりである。溝埋土からはコンテナ2箱分相当の須恵器・土師器、底板や板状の木製品が出土し、このうち(第73図1)～(第73図6)を図化した。また、第4層上面から石斧(第73図7)が出土している。この他にも耕作土を中心須恵器、土師器が出土し、第3、4、19、20層中にも須恵器、土師器片をわずかに含む。第3層および第19層中には7世紀後半～8世紀中頃の須恵器片を含む。泥炭層およびその下の砂層からは遺物を検出していない。須恵器はいずれも底部糸切りで、杯(第73図1)は底部外面に「南殿」の墨書、杯(第73図2)にも底部に墨書痕が観察されるが判読不明である。(第73図1、2)とも重焼きの痕跡が認められる。土師器杯(第73図5)は底部ヘラ切りで内外面赤彩される。壺(第73図6)はく字状の口縁部でやや分厚く端部は大きく外方へ伸びない。内外面ハケ目調整で内部頸部以下ヘラ削りである。大型蛤刃石斧(第73図7)は断面梢円形で刃部は磨滅し一部欠損する。砥石としての二次利用はみられない。重量922gを測る。SD-02出土遺物には弥生・古墳期や中世などの遺物が含まれず、遺構の時期は9世紀代と考えられる。

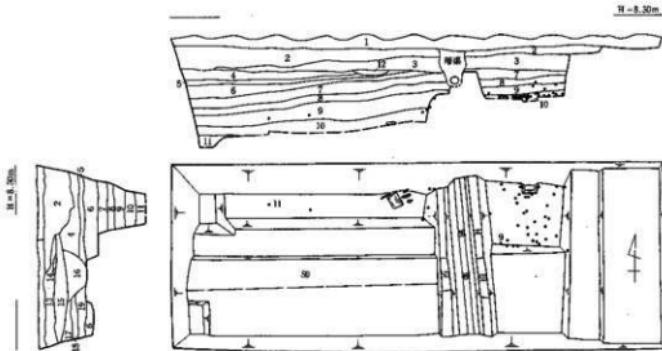
第2トレンチ(Tr-2) [第69・70・73図 図版23・24・28]

湖山池湖畔から300m程南へ入った幅50m×奥行100m程度の小谷内の、圃場整備された下から三段目の水田の北側丘陵寄りに設定した3.0×8.0mのトレンチである。地表面の標高は8.18mを測る。地表下1.80mの標高6.38mまで掘り下げを行った。耕作土の下は客土第2～3、第12～15は真砂土系の客土で



第1トレーニチ

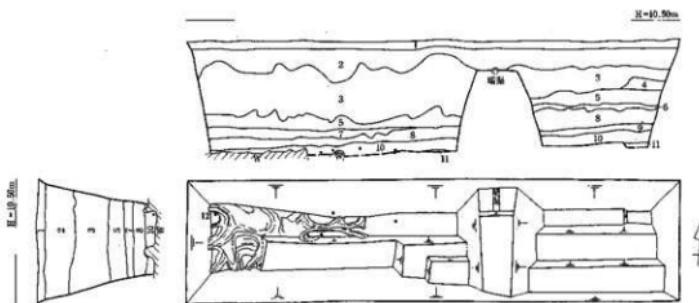
1. にいれ青色砂土(砂利あり。)
2. 青色シルト(青色のシルトロックを若干含む。黄褐色の沈着あり。)
3. 青色シルト(褐色の沈着あり。)
4. 黄褐色シルト(褐色シルトを基盤に含む。自然ふけを含む。黒鐵器片を含む。)
5. 黄褐色シルト(褐色を含む。)
6. 黄褐色泥炭(褐色を含む。分解した土塊。)
7. オリーブ褐色泥炭(よりより赤褐色。自然ふけを含む。)
8. 黄褐色シルト(褐色を含む。シルト多く。)
9. 黄褐色泥炭(褐色を含む。シルト多く。)
10. 青色シルト(薄片を含む。灰分を含む。シルト混じり。)
11. 黄褐色土(1mm粒度をもつて砂。3mm大の砂利を若干含む。)
12. 青色シルト(褐色を含む。)
13. 青色シルト(褐鐵器。青色の沈着あり。)
14. 青色シルト(褐色の沈着あり。上層片を含む。)
15. 青色泥炭シルト(薄片を含む。土層・木片を含む。)
16. 青色シルト(褐色・木片を含む。)
17. 黄褐色泥炭(褐色シルトを含む。)
18. 黄褐色シルト(褐色の沈着を含む。自然ふけを含む。)
19. 黄褐色シルト(褐色の沈着を含む。褐色の土塊を含む。)
20. 黄褐色シルト(褐色を含む。灰分を含む。15より粒度。)
21. にいれ青色シルト(褐色・木片を含む。)
22. 黄褐色シルト(褐色を含む。)
23. にいれ青色泥炭(3cmの褐色シルトブロックを含む。21より分離す。)
24. 黄褐色泥炭(22.2より分離す。鉄器。)
25. 黄褐色シルト(1mm粒度の砂。3mmの砂利を含む。)



第2トレーニチ

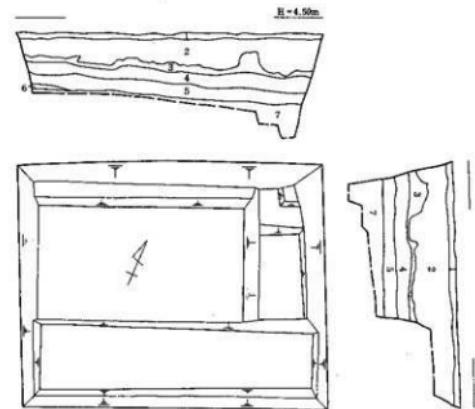
1. 黄褐色シルト(根付土。)
2. 黄褐色シルト(灰土。灰状色粘土ブロックを含む。)
3. にいれ青色シルト(褐色の沈着を含む。)
4. 黄褐色シルト(褐色の沈着あり。)
5. 黄褐色シルト(よりより粘質で褐色を含む。黄褐色の沈着あり。)
6. 黄褐色シルト(褐色を含む。)
7. 黄褐色シルト(褐色を含む。)
8. 黄褐色シルト(灰片・土層片を含む。)
9. 黄褐色シルト(よりより砂で充てん多く含む。土層片を含む。鉄器。)
10. 黄褐色シルト(灰土。やや褐色を含む。) 11. 灰白土(1mm粒度の青砂丸石の砂。)
12. 明る褐色シルト(灰土。)
13. 黄褐色シルト(褐色を含む。2より褐色を含む。)
14. 黄褐色シルト(土。2より褐色。)
15. 黄褐色シルト(褐色。)
16. 黄褐色シルト(褐色を含む。緑色を含む。オリーブ褐色粘土ブロックを含む。)
17. 黄褐色シルト(褐色。)
18. 黄褐色シルト(灰土。やや褐色。)
19. 黄褐色シルト(灰土。青褐色の沈着あり。やや灰色を含む。)

第70図 良田平田所在遺跡 第1・第2トレーニチ実測図



第3トレンチ

1. にじいろ背景色シート(漂砂土)
2. にじいろ背景色シート(高砂土基の上部)、薄緑色シートを含む。)
3. 塗装黄色シート(真黄色シートと高砂土を混じった土。ビニール片を含む。)
4. 真黄色地質土(漂砂土を含む。シート過渡。)
5. 黄色を主とする漂砂土(漂砂土基の上部)。
6. 漂砂色砂(真砂土系の砂層。)
7. 深灰色シート(漂砂層。土砂層を覆む。)
8. 黄褐色地質(シート過渡。3-10cm大的浅黄色シートブロックを部分的に含む。)
9. 貝灰岩地帯(漂砂色シート裏面。砂層内を含む。)
10. 黄褐色地質(シート過渡。漂砂層を含む。)
11. 黑白色砂(漂砂土基。)



第4トレンチ

1. にじいろ背景色シート(漂砂土)
2. 背景色地質(漂砂土を含む。シート裏面。)
3. 黄褐色地質(漂砂土を含む。シート裏面。)
4. 貝灰岩シート(漂砂土を含む。2mm以上の黄褐色砂礫を含む。)
5. 黄褐色土(オーバーリード地質。小砂。底面にシート裏面。地質強。砂分布に砂孔有り。)
6. 黄褐色地質(漂砂土を含む。底面にシート裏面。)
7. 黑褐色地質(漂砂土を含む。本体・漂砂層を含む。)



第71図 良田平田所在遺跡 第3・第4トレンチ実測図

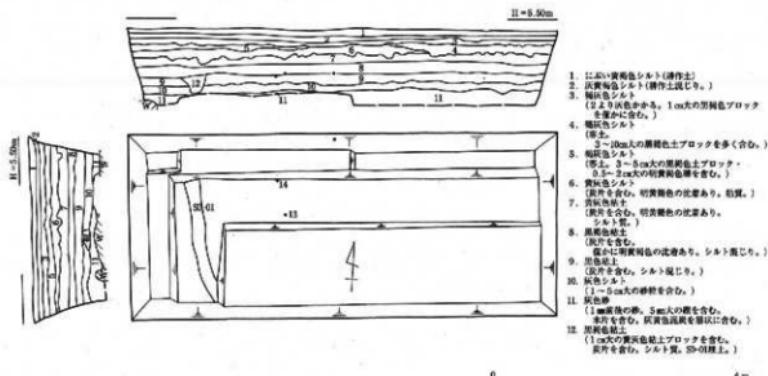
ある。トレンチ南側に溝状遺構を検出し埋土(第16層)から須恵器細片等が出土しているが、第17～19層が客土であることから暗渠などの新しい溝と考えられる。表土下60cmの客土下は黄灰色シルトおよび黄灰色粘質シルト(第4～6層)、さらにその下は黒褐色シルト(第7層)で、谷部への傾斜が著しくなるとともに第7層以下の層に遺物を含む。第8～10層は灰色粘質シルト、第11層は真砂土系の締まった灰白色砂である。遺物の含みは第9、10層に多く、トレンチ東側の第10層からはコンテナ1箱分、第2トレンチ全体では2箱分に相当する量である。須恵器、土師器、壺片などがあり、弥生・古墳期や中世の遺物はみられなかった。このうち第10層から出土した杯身(第73図8)、杯蓋(第73図9)、第9層から出土した杯(第73図10)、土師器壺(第73図11)を図化した。各層とも流れ込みのような様相を示し、受部よりやや高い立ち上がりをもつ杯身(第73図8)は7世紀初頭、輪状つまみをもつ杯蓋(第73図9)は8世紀代と時期幅もみられる。トレンチ中央北壁付近の第11層上面で木杭および板杭、厚さ5cmの板材を検出したが性格は不明である。

第3トレンチ(Tr-3)〔第69・71・73図 図版24〕

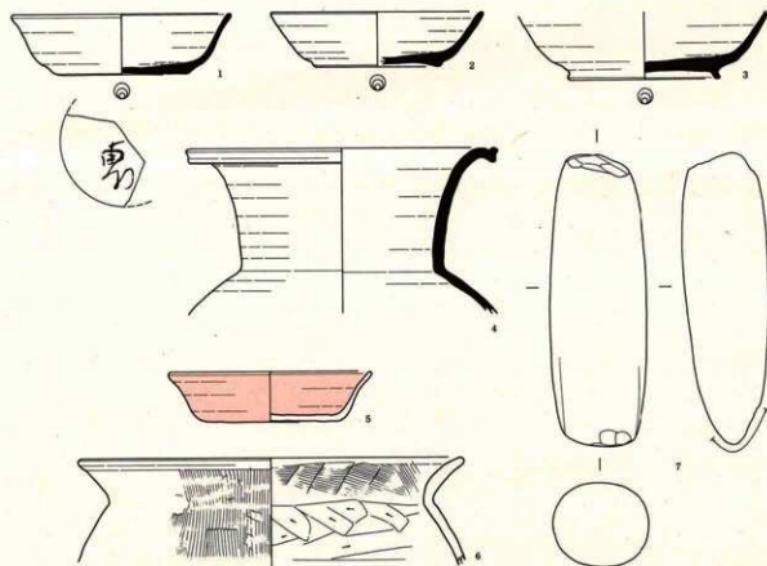
湖山池湖畔から300m程南へ入った幅50m×奥行100m程度の小谷内の、圃場整備された最上段の水田の中央部に設定した2.0×8.1mのトレンチである。地表面の標高は10.18mを測る。地表下1.89mの標高8.29mまで掘り下げを行った。耕作土の下は表土下1.2mまでがビニール片を含む真砂土系の客土である。その下はトレンチ東端の谷高位側で黄灰色粘質土(第4層)が一部認められるものの、全体では黄灰色シルト(第5層)が広がり、その下は高位側で浅黄色砂(第6層)、低位側で遺物片を僅かに含む灰黄色シルト(第7層)が広がる。その下は黒褐色泥炭(第8層)が高位側で黄灰色砂(第9層)をはさんで遺物を含む褐色泥炭(第10層)が認められた。泥炭層の上面は標高8.37～8.72mを測る。厚さ20cm程度の第10層下は真砂土系の灰白色砂(第11層)である。第11層の上面標高8.3mで立木の株を検出、その立根間の第10層で須恵器壺片、須恵器蓋(第73図12)を検出した。(第73図12)は口縁内面にかえりをもち丸みのある天井部につまみ貼付け痕を観察。7世紀中頃の年代が与えられる。遺物は17袋が出土しており、第5層で僅かに陶磁器・土師器細片、第7層で土師器杯片、第8～10層でそれぞれ須恵器・土師器片を出土している。

第4トレンチ(Tr-4)〔第69・71図 図版24〕

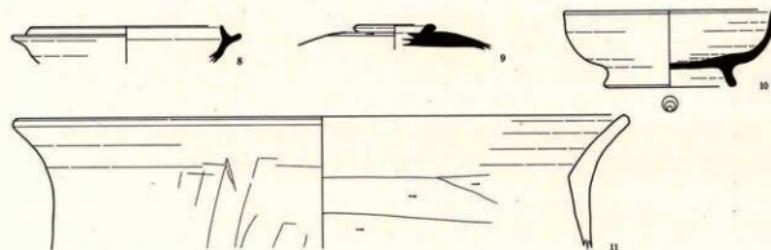
湖山池湖畔から直線で300m程南に入った谷が急に狭まる平野部、東側には幅50m×奥行100m程度の小谷が開けた水田に設定した4.0×5.0mのトレンチである。地表面の標高は4.21mを測る。地表下1.72



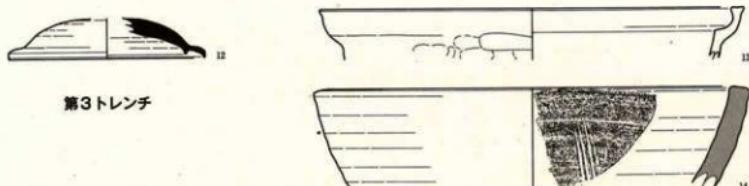
第72図 良田平田所在遺跡 第5トレンチ実測図



第1トレンチ



第2トレンチ



第3トレンチ

第5トレンチ

0 10cm

第73図 良田平田所在遺跡 第1・第2・第3・第5トレンチ出土遺物実測図

mの標高2.49mまで掘り下げを行った。耕作土の下は表土下40~70cmまでが客土(第2層)でその下は客土により上部が変色した黄灰色粘土(第3層)、以下、西から東への傾斜が認められる。さらに黄灰色シルト(第5層)、トレンチ西端でオリーブ灰色粘土(第6層)を挟み、黒褐色泥炭(第7層)上面が標高2.49~3.09mである。遺構は検出されず、遺物は第4層から須恵器体部細片1点と客土中から土器細片2点である。

第5トレンチ(Tr-5) [第69・72・73図 図版24・25]

湖山池湖畔から直線で300m程南に入った谷が急に狹まる平野部、東側には幅50m×奥行100m程度の小谷が開けた水田に設定した3.0×7.0mのトレンチである。北西25mに第4トレンチが配置する。地表面の標高は5.35mを測る。地表下1.22mの標高4.13mまで掘り下げを行った。陶磁器片を含む耕作土の下は客土(第4・5層)で、その下は黄灰色シルト(第6層)、黄灰色粘土(第7層)である。第7層には陶磁器片、瓦質土器片、土錘、須恵器片を含む。黒褐色粘土(第8層)以下でトレンチの南から北への層の傾斜が認められるが東西方向では東から西への傾斜は僅かに認められる程度である。以下、黒色粘土(第9層)上面ではトレンチ東側で溝状遺構SD-01を検出し、瓦質鍋(第73図13)、備前焼鉢(第73図14)が出土した。瓦質鍋(第73図13)は内面に炭化物、外面に多量の煤が付着し口縁外面の屈曲が甘い。備前焼鉢(第73図14)は推定口径24.6cm、内面に5条の播目を観察し、形態から14世紀中頃とみられる。SD-01は溝幅に対し深さのある幅41cm×深さ29cmを測り、埋土は黒褐色粘質土(第12層)である。溝埋土より遺物は出土しなかった。以下、灰色シルト(第10層)上面で(第73図13)とほぼ同様な瓦質鍋口縁部を出土している。その下の灰色砂(第11層)は層状に灰黄色泥炭を含み、トレンチ西壁近くで自然木の倒木を検出している。第11層では遺物はみられなかった。

小結

良田平田遺跡は、湖山池湖畔から300m程南へ入った谷が急に狹まる平野部と幅50m×奥行100m程度の小谷に立地する。また小谷北側の標高30m弱の尾根筋には高住13~18号墳が立地する。元々この小谷は幅や奥行きとともに小規模なものであったとみられ、圃場整備によって尾根の裾を削り谷を切り開いて埋めることで耕地を広げたことが判明した。谷の上部にあたる第3トレンチは標高8.3m付近で灰白色砂(第11層)層中に立根を確認し、その上に堆積した泥炭層中に7世紀中頃をはじめとした須恵器が出土したことで近くに遺構の存在を窺わせる。第2トレンチは谷中程の北側尾根寄りにあり、標高6.5m余りで検出した灰白色砂(第11層)で板杭の検出とその上層(第10層)を中心とした遺物の密集度から、7世紀初めから8世紀代にかけての遺構の本体がトレンチ上位に存在すると考えられる。谷の入り口に設定した第1トレンチでは、黄灰色砂(第11層)の上に砂を層状に含んだ泥炭層とその上層に砂層(第4・5・19・20層)堆積後、墨書き土器2点を含む9世紀代の遺物を大量に包含する溝状遺構SD-02が形成される。あるいは砂層(第4・5・19・20層)を含めたところの大きな流路の中の一部である可能性もある。また、谷前面の平野に設定した第4、第5トレンチは、互いに25mしか離れていないが様相が異なる。第4トレンチは西から東への傾斜、第5トレンチは東から西への傾斜が確認された。第5トレンチは東側にせまる尾根の地形を反映した尾根の微高地で、堆積がすすみ地盤が安定した黒色粘土層(標高4.6m)で中世期の溝状遺構を検出している。第4トレンチは標高3mで黒褐色泥炭層を検出し、谷地形であり遺構は検出されなかった。

以上、谷部でも尾根寄りの微高地を中心とした部分で、7~9世紀の律令期の遺構が存在する可能性が大きい。また、14世紀を中心とした中世期についても喚起する必要がある。特に、「南殿」と記された墨書き土器は、東に尾根を隔てた高住中瀬所在遺跡第1トレンチでも出土しており、関連が注目されるとともに、谷単位だけではなくさらに広域的な視点が必要であろう。

第21節 松原古墳群

松原古墳群は松原集落の南東丘陵に位置し、北側に広がる湖山池を望む低丘陵上に立地している。古墳群は現在37基あまりが確認されており、群中に古墳時代前期の方墳が存在することが最近の調査によって明らかになってきている。周辺の低丘陵には多く古墳が築かれており、東丘陵に良田古墳群、西側丘陵には大畠、岩本などの古墳群が位置している。また、松原集落の南西には弥生時代～中世の集落遺跡である松原谷田遺跡などが立地している。

今回の調査は道路整備に伴い実施したもので、計画路線内8箇所にトレンチ(Tr-13～20)を設定し確認調査を行なった。なお、本報告のトレンチ番号は平成20年度に実施したトレンチ番号の続きに付したものである。

第13トレンチ(Tr-13) [第74・75図 図版25]

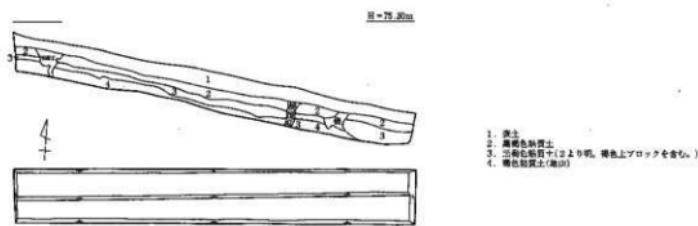
標高約98mの丘陵頂部から東に下った緩傾斜に設定した $0.85 \times 6.6\text{m}$ のトレンチである。厚さ25cm前後の表土下に流入土とみられる黒褐色粘質土(第2、3層)が堆積し、その下層に地山の褐色粘質土が認められる。遺構、遺物は検出されなかった。

第14トレンチ(Tr-14) [第74・75図 図版25]

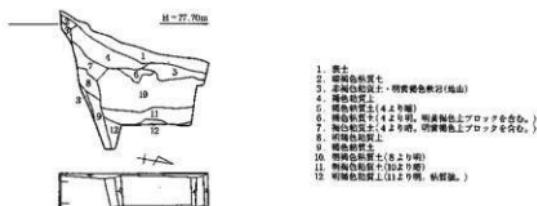
主稜線から僅かに下った傾斜変換地点に設定した $0.6 \times 2.4\text{m}$ のトレンチである。地山面(第3層)が崖状となり、その前面に明褐色粘質土(第10～12層)が堆積する。地山面と10～12層の隙間に見られる土砂の堆積状況から推察して地すべりによって地山が切り離されたものと思われる。遺構、遺物は検出されなかった。



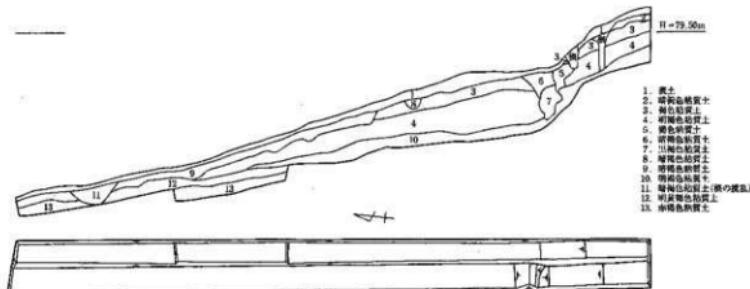
第74図 松原古墳群 調査トレンチ位置図



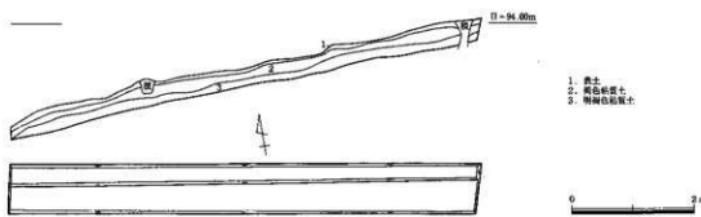
第13トレンチ



第14トレンチ

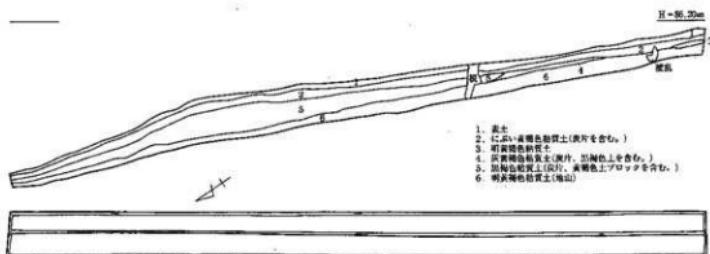


第15トレンチ

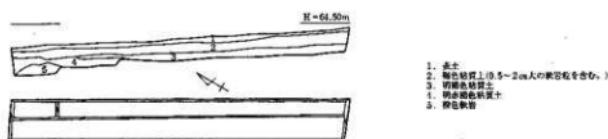


第16トレンチ

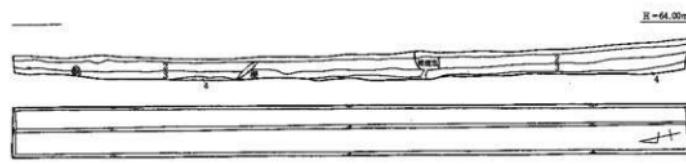
第75図 松原古墳群 第13・第14・第15・第16トレンチ実測図



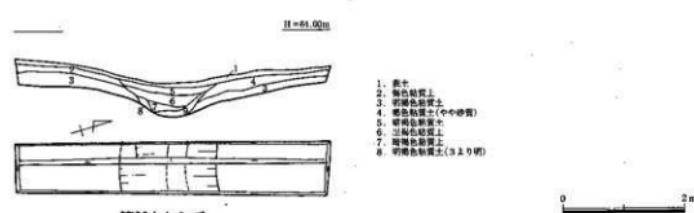
第17トレンチ



第18トレンチ



第19トレンチ



第20トレンチ

0 1 2 m

第76図 松原古墳群 第17・第18・第19・第20トレンチ実測図

第15トレンチ(Tr-15) [第74・75図 図版26]

第14トレンチから西5mの傾斜変換地点に設定した 0.8×10.5 mのトレンチである。第14トレンチと同じく地すべりの痕跡が傾斜変換点に観察される。地表下40cm前後から堆積する明褐色粘質土(第4、10層)や、その下層の12、13層が基盤になるものとみられる。遺構、遺物は検出されなかった。

第16トレンチ(Tr-16) [第74・75図 図版26]

調査対象地の最高位に位置し、頂部の傾斜変換地点に設定した 0.8×7.7 mのトレンチである。厚さ5~10cmの表土下に均一で締まった褐色粘質土(第2層)が見られ、その下位に堆積する明褐色粘質土(第3層)が地山と思われる。地山を加工した痕跡や盛土もなく遺構、遺物は検出されなかった。

第17トレンチ(Tr-17) [第74・76図 図版26]

丘陵頂部から北に張り出した稜線上の緩傾斜地に設定した 0.7×11.4 mのトレンチである。表土下層に炭片を含むにぶい黄褐色粘質土(第2層)が堆積し、その下層に炭片や黄褐色土を含む黒褐色の粘質土(第5層)が見られる。5層は緩傾斜の裾部に集中し、厚さ40cm程度が堆積している。流入による堆積層の可能性が考えられる。地山は第5層下位の明黄褐色粘質土である。遺構、遺物は検出されなかった。

第18トレンチ(Tr-18) [第74・76図 図版26]

標高80mの丘陵頂部から北に延びる支稜に位置し、標高76m前後を測る稜線上の傾斜変換地点に設定した 0.7×5.6 mのトレンチである。厚さ5~10cmの表土下に褐色粘質土(第2層)の堆積が見られ、その下層が地山と思われる。遺構、遺物は検出されなかった。

第19トレンチ(Tr-19) [第74・76・77図 図版26]

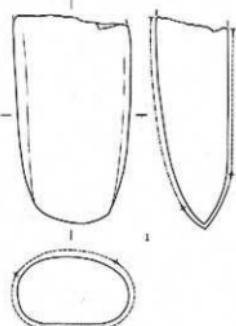
第18トレンチから北へ10mの尾根上平坦部に設定した 0.8×11 mのトレンチである。厚さ10cm前後の表土下に褐色粘質土(第2層)が堆積し、その下層に地山の明褐色粘質土が見られる。地山加工の痕跡や盛土もなくはっきりした遺構は確認されなかった。遺物は、表土下の第2層から須恵器片が4点と、石斧(第77図1)が出土した。(1)は太型蛤刃石斧である。刃部は完存し、幅7.07cm、厚さ4.5cmを測る。残存長は12.4cmである。

第20トレンチ(Tr-20) [第74・76図 図版26]

第19トレンチの北15mに設定した 0.8×5.2 mのトレンチである。表土下層から溝が検出された。溝は幅1.6m、深さ50cmあまりを測り、地山を大きく掘削してつくっている。尾根の先端部を弧状に区画する様子が見られることから古墳の周溝と思われる。直径8m前後的小規模な古墳が存在するものと考えられる。遺物は出土しなかった。

小結

道路計画地内8箇所にトレンチを設定して確認調査を行った。調査の結果、第13~第19トレンチで遺構は検出されなかったが、第20トレンチから周溝が検出され古墳の存在が明らかになった。遺物は、第20トレンチの近くに設定した第19トレンチから須恵器と石斧が出土している。古墳の存在が確認された第19トレンチと、遺物が検出された第20トレンチの周辺は尾根幅も増し、平坦な地形が観察されることから本調査にあたっては注意を要する箇所といえる。



第77図 松原古墳群 第19トレンチ
出土遺物実測図

写 真 図 版



善田傍示ヶ崎遺跡 調査地遠景(北東から)



善田傍示ヶ崎遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(北西から)



善田傍示ヶ崎遺跡 第3トレンチ南東壁断面(西から)



善田傍示ヶ崎遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(西から)



善田傍示ヶ崎遺跡 第4トレンチ南壁断面(西から)



善田傍示ヶ崎遺跡 第5トレンチ掘下げ状況(南西から)



善田傍示ヶ崎遺跡 第5トレンチ北東壁断面(南から)



別府金谷口所在遺跡 遠景(南西から)

図版 2



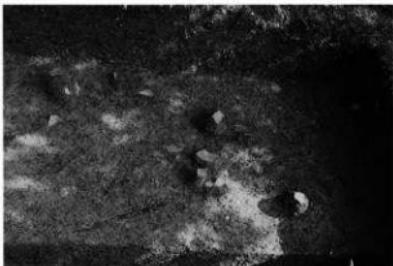
別府金谷口所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(北から)



用瀬権内屋敷遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(北東から)



用瀬権内屋敷遺跡 ピット検出状況(南東から)



用瀬権内屋敷遺跡 第1トレンチ遺物出土状況(北西から)



用瀬権内屋敷遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(南から)



和奈見溢口所在遺跡 調査地遠景(東から)



和奈見溢口所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(北西から)



和奈見溢口所在遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(北東から)



因幡国府 調査地遠景(南から)



因幡国府 第1トレンチピット検出状況(東から)



因幡国府 第1トレンチ掘下げ状況(北から)



因幡国府 第1トレンチ東壁断面(西から)



因幡国府 第1トレンチ北壁断面(南東から)



因幡国府 第1トレンチP-11柱根残存状況(南から)

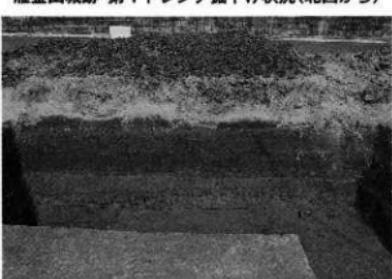
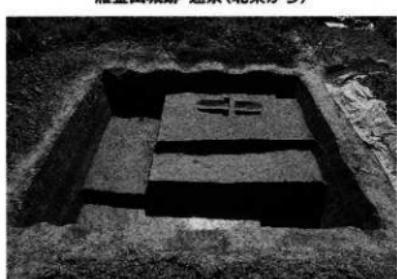


因幡国府 第1トレンチP-23柱根残存状況(北西から)



因幡国府 第1トレンチP-30断面(南東から)

図版 4





天神山遺跡 第4トレンチ南壁断面(北西から)

天神山遺跡 第4トレンチ西壁断面(東から)

図版 6



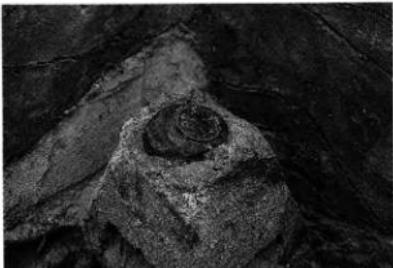
天神山遺跡 第4トレンチSK-01断面(北から)



天神山遺跡 第4トレンチSD-01検出状況(南から)



天神山遺跡 第4トレンチSD-04断面(東から)



天神山遺跡 第4トレンチSD-04遺物出土状況(南西から)



本高下ノ谷遺跡 遠景(南東から)



本高下ノ谷遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南から)



本高下ノ谷遺跡 第1トレンチ北壁断面(南から)



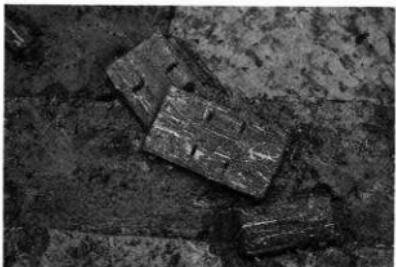
本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(北西から)



本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ南西壁断面(北東から)



本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ遺物出土状況(南東から)



本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ遺物出土状況(北東から)



本高古墳群 遠景(南東から)



本高古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(南西から)



本高古墳群 第2トレンチ掘下げ状況(北西から)



本高古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(南西から)



本高古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(西から)

図版 8



本高古墳群 第5トレンチ掘下げ状況(東から)



本高古墳群 第6トレンチ掘下げ状況(北西から)



古海古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(南西から)



古海古墳群 第1トレンチ周溝部断面(北西から)



古海古墳群 第2トレンチ掘下げ状況(南西から)



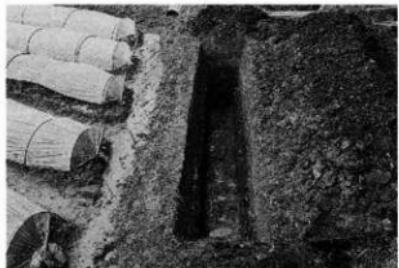
古海古墳群 第2トレンチ北西壁断面(東から)



古海古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(東から)



古海古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(南から)



山ヶ鼻所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南東から)



山ヶ鼻所在遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(北から)



山ヶ鼻所在遺跡 第2トレンチ南西壁断面(南から)



宮谷古墳群 第6トレンチ掘下げ状況(南東から)



宮谷古墳群 第6トレンチ周溝部断面(北東から)



宮谷古墳群 第7トレンチ掘下げ状況(西から)



宮谷古墳群 第8トレンチ掘下げ状況(西から)



宮谷古墳群 第8トレンチ北西壁断面(南東から)

図版10



宮谷古墳群 第9トレンチ掘下げ状況(北東から)



宮谷古墳群 第10トレンチ掘下げ状況(西から)



宮谷古墳群 第10トレンチ周溝部断面(南東から)



宮谷古墳群 第11トレンチ掘下げ状況(南東から)



宮谷古墳群 第11トレンチ周溝部断面(北から)



宮谷古墳群 第12トレンチ掘下げ状況(南東から)



宮谷古墳群 第12トレンチ西壁断面(東から)



宮谷古墳群 第13トレンチ掘下げ状況(南東から)



大橋遺跡 遠景(南から)



大橋遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南東から)



大橋遺跡 第1トレンチ北壁断面(南から)



大橋遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(南東から)



大橋遺跡 第2トレンチ北壁断面(南から)



大橋遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(北西から)



大橋遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(北西から)



大橋遺跡 第4トレンチ北西壁断面(南東から)

図版12



大柄遺跡 第5トレンチ掘下げ状況(南東から)



大柄遺跡 第5トレンチ北東壁断面(西から)



大柄遺跡 第6トレンチ掘下げ状況(北西から)



大柄遺跡 第6トレンチ南西壁断面(北から)



大柄遺跡 第7トレンチ掘下げ状況(北西から)



大柄遺跡 第7トレンチ北東壁断面(西から)



大柄遺跡 第8トレンチ掘下げ状況(北東から)



大柄遺跡 第9トレンチ掘下げ状況(南西から)



大柄遺跡 第9トレンチ東壁断面(南西から)



大柄遺跡 第10トレンチ掘下げ状況(北東から)



大柄遺跡 第10トレンチ南壁断面(北東から)



大柄遺跡 第11トレンチ掘下げ状況(南西から)



大柄遺跡 第11トレンチ東壁断面(西から)



大柄遺跡 第11トレンチSD-01断面(北西から)



大柄遺跡 第11トレンチSD-01検出状況(北東から)



大柄遺跡 第12トレンチ掘下げ状況(北東から)

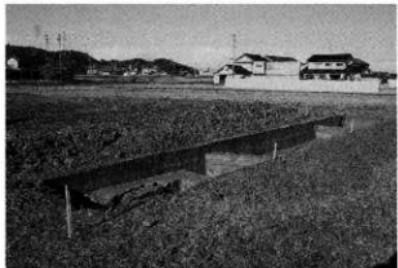
図版14



大柄遺跡 第12トレンチ北東壁断面(南西から)



大柄遺跡 第13トレンチ掘下げ状況(北東から)



大柄遺跡 第13トレンチ北西壁断面(北東から)



大柄遺跡 第13トレンチ北東壁断面(南西から)



大柄遺跡 第14トレンチ掘下げ状況(西から)



大柄遺跡 第14トレンチ南東壁断面(南から)



東柱見遺跡 第2、3トレンチ調査地遠景(西から)



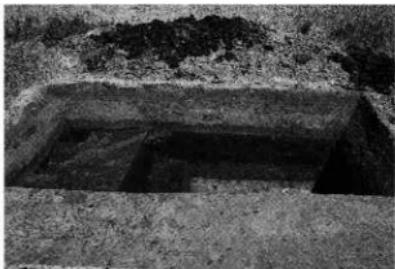
東柱見遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南東から)



東桂見遺跡 第1トレンチ北西壁断面(南東から)



東桂見遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(南西から)



東桂見遺跡 第2トレンチ北壁断面(南から)



東桂見遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(南西から)



東桂見遺跡 第3トレンチ北東壁断面(南西から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 遠景(東から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(南西から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第2トレンチ掘下げ状況(南東から)

図版16



桂見櫻ヶ坪古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(南西から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(北から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第5トレンチ掘下げ状況(南から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第6トレンチ掘下げ状況(南東から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第7トレンチ掘下げ状況(東から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第8トレンチ掘下げ状況(北西から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第9トレンチ掘下げ状況(南東から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第10トレンチ掘下げ状況(北西から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第11トレンチ掘下げ状況(南西から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第12トレンチ掘下げ状況(東から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第12トレンチ南壁断面(北西から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第12トレンチ西壁断面(東から)



桂見櫻ヶ坪古墳群 第12トレンチP-01検出状況(北西から)



桂見古墳群 調査地遠景(南から)



桂見古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(北西から)



桂見古墳群 第2トレンチ段状遺構検出状況(北西から)

図版18



桂見古墳群 第2トレンチ段状造構検出状況(南西から)



桂見古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(西から)



桂見古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(西から)



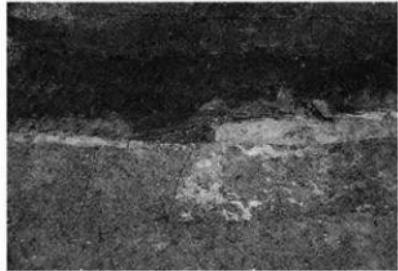
桂見古墳群 第5トレンチ掘下げ状況(北東から)



高住中瀬所在遺跡 調査地遠景(南西から)



高住中瀬所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第1トレンチSD-01検出状況(北東から)



高住中瀬所在遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第2トレンチ北東壁断面(西から)



高住中瀬所在遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第3トレンチ南西壁断面(東から)



高住中瀬所在遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(北西から)



高住中瀬所在遺跡 第4トレンチ北東壁断面(西から)



高住中瀬所在遺跡 第5トレンチ掘下げ状況(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第5トレンチ北西壁断面(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第5トレンチSK-02検出状況(南東から)

図版20



高住中瀬所在遺跡 第6トレンチ掘下げ状況(東から)



高住中瀬所在遺跡 第6トレンチ西壁断面(東から)



高住中瀬所在遺跡 第7トレンチ掘下げ状況(北西から)



高住中瀬所在遺跡 第7トレンチ南西壁断面(北から)



高住中瀬所在遺跡 第8トレンチ掘下げ状況(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第8トレンチ南西壁断面(北から)



高住中瀬所在遺跡 第9トレンチ掘下げ状況(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第9トレンチ北西壁断面(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第10トレンチ掘下げ状況(南から)



高住中瀬所在遺跡 第10トレンチ南壁断面(北から)



高住中瀬所在遺跡 第11トレンチ掘下げ状況(北東から)



高住中瀬所在遺跡 第11トレンチ南西壁断面(北東から)



高住中瀬所在遺跡 第12トレンチ掘下げ状況(北東から)



高住中瀬所在遺跡 第12トレンチ北西壁断面(南から)



高住中瀬所在遺跡 第12トレンチP-02検出状況(南西から)



高住中瀬所在遺跡 第13トレンチ掘下げ状況(北東から)

図版22



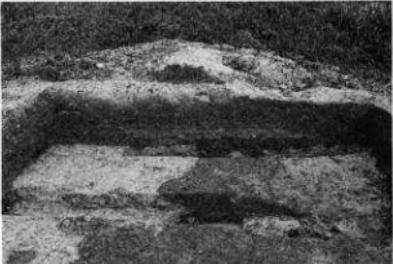
高住中瀬所在遺跡 第13トレンチ南東壁断面(北から)



高住中瀬所在遺跡 第14トレンチ掘下げ状況(北西から)



高住中瀬所在遺跡 第14トレンチ北東壁断面(西から)



高住中瀬所在遺跡 第14トレンチ南東壁断面(北西から)



高住中瀬所在遺跡 第14トレンチSK-01検出状況(南西から)



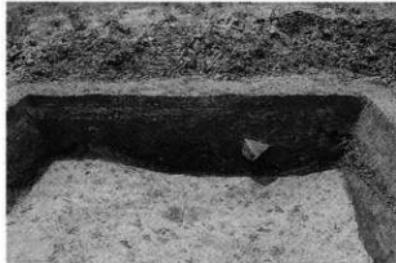
高住中瀬所在遺跡 第14トレンチSD-01検出状況(南東から)



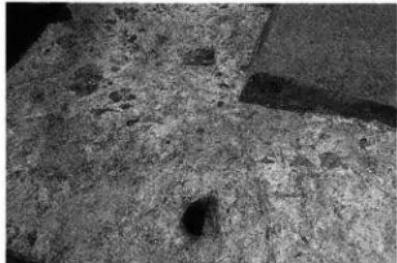
高住中瀬所在遺跡 第14トレンチ遺物出土状況(北東から)



高住中瀬所在遺跡 第15トレンチ掘下げ状況(南西から)



高住中瀬所在遺跡 第15トレンチ南西壁断面(北東から)



高住中瀬所在遺跡 第15トレンチP-01、02検出状況(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第16トレンチ掘下げ状況(南東から)



高住中瀬所在遺跡 第16トレンチ北東壁断面(西から)



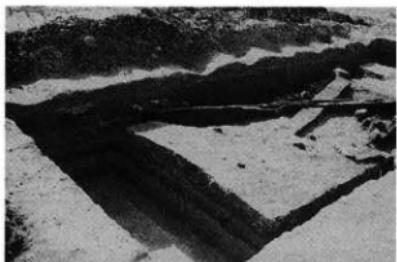
高住中瀬所在遺跡 第16トレンチ遺物出土状況(北西から)



良田平田所在遺跡 第1トレンチ掘下げ状況(北から)



良田平田所在遺跡 第1トレンチSD-02検出状況(北西から)



良田平田所在遺跡 第1トレンチ西壁断面(南東から)

図版24



良田平田所在遺跡 第1トレンチ南壁断面(北から)



良田平田所在遺跡 第2トレンチ掘下げ状況(東から)



良田平田所在遺跡 第2トレンチ遺物出土状況(東から)



良田平田所在遺跡 第3トレンチ掘下げ状況(西から)



良田平田所在遺跡 第3トレンチ北壁断面(南東から)



良田平田所在遺跡 第4トレンチ掘下げ状況(西から)



良田平田所在遺跡 第4トレンチ北壁断面(南西から)



良田平田所在遺跡 第5トレンチ掘下げ状況(東から)



良田平田所在遺跡 第5トレンチ北壁断面(南東から)



良田平田所在遺跡 第5トレンチSD-01検出状況(西から)



良田山廻古墳群 第1トレンチ掘下げ状況(北西から)



良田山廻古墳群 第2トレンチ掘下げ状況(南から)



良田山廻古墳群 第3トレンチ掘下げ状況(東から)



良田山廻古墳群 第4トレンチ掘下げ状況(西から)



松原古墳群 第13トレンチ掘下げ状況(西から)



松原古墳群 第14トレンチ掘下げ状況(北東から)

図版26



松原古墳群 第15トレンチ掘下げ状況(南から)



松原古墳群 第16トレンチ掘下げ状況(東から)



松原古墳群 第17トレンチ掘下げ状況(南西から)



松原古墳群 第17トレンチ南壁断面(南西から)



松原古墳群 第18トレンチ掘下げ状況(北西から)



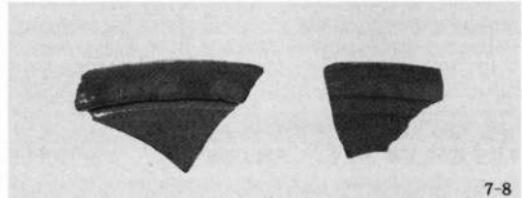
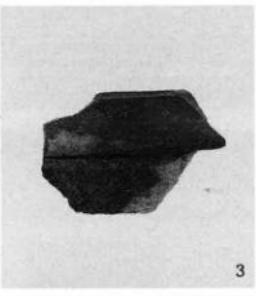
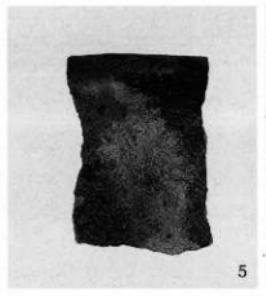
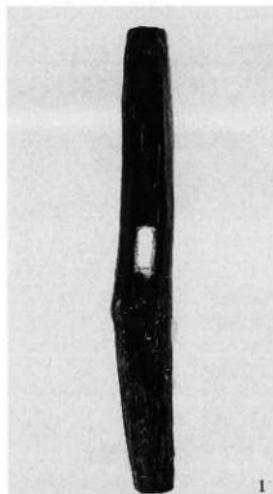
松原古墳群 第19トレンチ掘下げ状況(南西から)



松原古墳群 第20トレンチ掘下げ状況(北から)

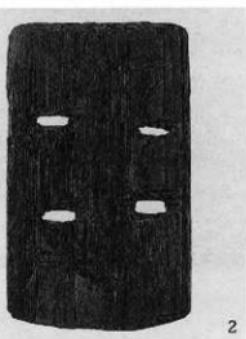
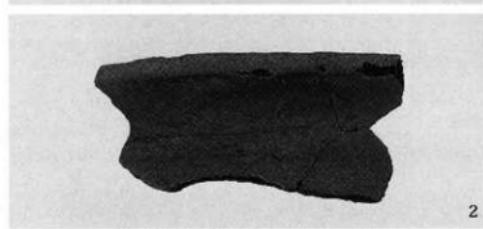
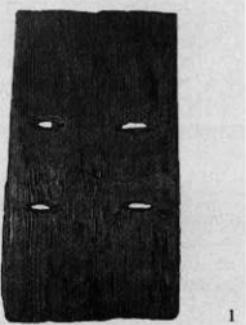
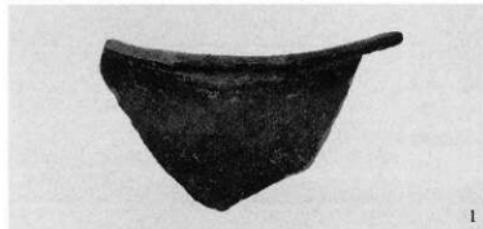


松原古墳群 第20トレンチ周溝部断面(東から)

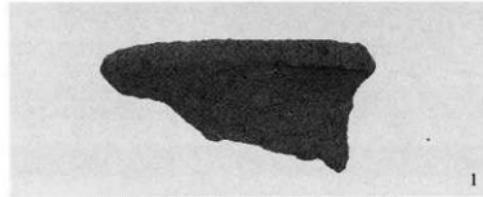


善田傍示ヶ崎遺跡 第3トレンチ出土遺物

因幡国府 第1トレンチ出土遺物



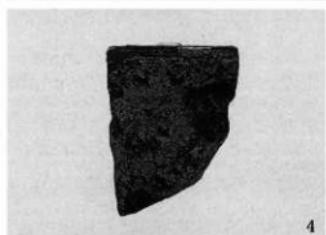
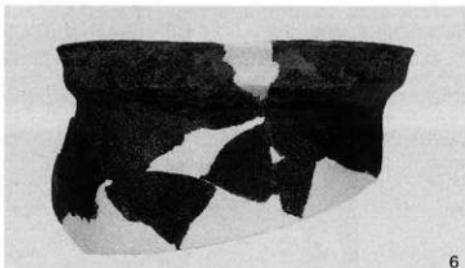
天神山遺跡 第4トレンチ出土遺物



本高下ノ谷遺跡 第2トレンチ出土遺物

桂見櫻ヶ坪古墳群 第7トレンチ出土遺物

図版28



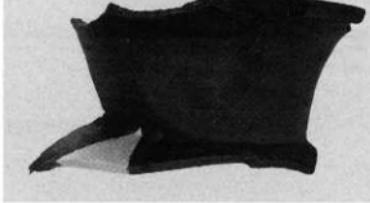
高住中瀬所在遺跡 第2トレンチ出土遺物

高住中瀬所在遺跡 第7トレンチ出土遺物



高住中瀬所在遺跡 第8トレンチ出土遺物

高住中瀬所在遺跡 第10トレンチ出土遺物



高住中瀬所在遺跡 第14トレンチ出土遺物



良田平田所在遺跡 第2トレンチ出土遺物



良田平田所在遺跡 第1トレンチ出土遺物

報 告 書 抄 錄

平成21（2009）年度

鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

平成22（2010）年3月発行

編集 烏取市教育委員会
発行 〒680-8571 烏取県鳥取市上魚町39番地
TEL (0857) 20-3367

印刷 株式会社鳥取平版社
〒680-0845 烏取市富安一丁目79
TEL (0857) 24-7311